共に、動脈は撥ね上り、搏動しつゝある。手首の脈はと見ると、これも非常に固く緊張してゐる。かういふ體質の人はまことに常から强壯で、藥の味などは夢にも知らぬと頑張つてゐるが、六十、七十臺になると突然腦溢血を起して中氣になることがある。

この硬化體質といふ言葉は私の名づけた名稱である。よく太つてゐる卒中體質の人は急に斃れ易い事は一般が知つて居るが、あの人は痩せてゐて腦溢血を起したと、不思議さうに話される事がある。つまりこの硬化體質の痩せた人にも腦溢血を起し易いことをまだ一般が知らないからである。

卒中體質に就ての面白い逸話

大正十年正月のこと、私は診察すべき患者があつて獨り房州金谷へ出かけようとした。さて兩國から汽車に乘ると、私の隣りに紳士の夫婦づれが腰をかけてゐる。打ち見たところ、紳士は中老の五十年輩、でつぷり肥つた紅ら顏の立派な紳士であつたが、附添の夫人は、膝の上に婦人雜誌を置いて、しきりに讀み耽つてゐたが、なぜか讀んでゐる中、じろ〳〵と上眼づかひに良人の顏を見あげた。と終ひには、ぢつと眼をすゑて、良人を見て、さつと顏色を變へた。

『あなた大變です、大變です、これを見て頂戴！』

息もはずんで、差しつける雜誌を受取つた良人はその頁を一讀すると共に、これも亦驚いたやうに

にさつと顏色を變へた。

『ウム……これは』と狼狽の色があり〳〵と顏に浮ぶ。そしてテラ〳〵光る大きな頭を振り立て振り立てうなづいて、

『成程な、ウム……成程』とうなづく樣子が唯事でない。

私も不審に思つて、つい手近なので夫人の持つた雜誌をのぞき込んだ。同時に私も『ア、成程な』と思つて紳士の顏を見た。

なぜといふに、その雜誌には、私の談話筆記が載つてゐたのである。その記事は『かういふ人が腦溢血を起し易い』といふ見出しのものだつた。多少重複するが、重要な點故之を掲出すると、

『家庭に於て最も悲慘な出來事は、一家の柱石たるべき主人或は內助の家內を急に亡ふ事である。斯樣な出來事は、病氣としては腦溢血が最も多い。腦溢血を起す人は、結婚期に於ては非常に健康で、壯年時代は無病を誇り、大に活動し得るが、初老或は中老の最も働きざかりの頃、家庭に於ても漸く安心の域に達し、社會的にも認められる時期になつて、何等の前兆もなく突然、卒倒して遂に一命を失ふか、或は輕くて半身不隨を起して、後半生をまつたく悲慘に送らねばならぬのである。近年文化の急激な發達につれて、この恐るべき腦溢血が非常にふえて、ます〳〵多くなる傾向があるから、結婚期にある人々は腦溢血を起す體質をよく理解して、相手を選擇し、夫婦とも無病長命

で、共白髪のめでたい一生を送ることを期待すべきである。

腦溢血を起す種々の條件

腦溢血を起す人には、次のやうな種々の條件がある。

(一)遺傳的關係＝これは腦溢血に重大な關係があるから、配偶者の系統に腦溢血で倒れたものがあるや否や、心臓癱瘓で突然死んだものがあるや否やを確め、もしこれ等の遺傳が濃厚である場合には、たとひ本人が現在無病であつても、他日これにかゝる恐れありと考へねばならぬ。

(二)卒中體質＝此の體質の人は初老期までは健全であるが、やはり中老時代になると卒中を起すことが多い。これは遺傳にも關係し、また飲食物によつても、この體質をつくるものである。卒中體質は肥滿して、頭大きく、頸太く短く、胴も短く、手足も太く短く、ちやうど惠比須か大黒に似てゐる。

(三)硬化體質＝この體質の人は青年期に於てはあまり目立たないが、ちやうど神經質の體質に似て、あまり肥らず、痩せ形である。老人になると骨ばつた體質が硬化し、殊に血管が硬化して、血壓亢進を來し、萎縮腎、又は喘息などを起し易く、或は狹心症に罹り、又は遂に腦動脈の硬化のために何かの刺戟で破裂して、腦溢血を起し易いのである。

(四)酒豪及び黴毒のある人＝これ等の人は青年期に於て十分注意して治療しなければ、初老期頃に至つて腦溢血を起す原因となることが多いから、配偶者選擇の調査條件の一つに加へて參考とすべきである。

(五)腎臓炎に罹つた人＝腎臓炎に罹つたことのある人は、完全にこれは治療しておかないと、慢性の輕い腎臓炎となつて、常に頭や手足に極めて輕微な浮腫を呈し、過激な運動によつて浮腫が增し、長い後には血壓亢進を起して尿毒症或は腦溢血を起すことが屢々あるから、配偶者に腎臓炎の既往症があるや否やも、十分調査すべき條項である。

以上五ケ條の條件を精細に調査して配偶者を選擇したならば、恐らく生涯の中途に突然夫を失ひ、または妻を奪ひ去らるゝやうなことない、一家繁榮、夫婦長壽を保ち得ること請合である。然らざれば……』

こゝまで讀みつゞけて來ると、夫人はもう堪らなくなつて、

『あなた、あなた！』と呼びかけたのであつた。なぜなら、私の話した誌上の卒中體質は、そつくり老紳士の體にあてはまつてゐて、老紳士其の人の事をあてつけに言つてゐる樣なものだつたからである。

そばの夫人は肩をくもらせて、

『この卒中體質の上に、あなたはお酒もめしあがる、その酒といふのがまた強い洋酒なのですもの、きつとあなたは……』

見てゐる私は、氣の毒であり、夫人の眞劍なのが笑止でもあつた。そこで靜かに立つて自分の名刺を出すと、件の紳士は二度びつくり、大に照れた樣子であつたが、夫人の方は驚きながら喜んで、

『ほんとにこれも何かの引合せ、御緣と申すものでございませう、實は主人はよく外國へ出張しますので、あちらの强い洋酒を好きますので困ります。どう申しても、俺は無病頑健だから酒は廢さない、と申し張るのでございます』

『ですが、その無病頑健が困りましたな』私は靜かに口を入れた。

かうなつては、いかな酒ずきな主人も、胃をぬがざるを得ない。夫人の言葉を聽いて、この場に於て私の前で禁酒をちかひ、改めて他日診察を乞ふこととなつた。それから豫防に手をつくした結果、かなり高まつた血壓も下つて、今では謹直な養生家として健康でゐられる。

だがこの腦溢血を起し易い體質の記事を讀んで反省すべきもの、豈この老紳士ばかりではあるまい。

四、腦溢血の豫防

腦溢血の頓死

昨日までぴん〳〵働いてゐた人が、急に斃れたといふ話を聞いたとき、誰でも先づ、あゝ腦溢血ではないかと思ふやうに、腦溢血は突然に起る病氣である。けれども實際は、突然倒れるまでには長い以前からいろ〳〵な病變が體內にあつて、だん〳〵に腦溢血を起す準備が既に整つてゐるために、何かこれを誘發する些細な動機が加はると、急に突發するものである。故に發病前に精診すれば、これを豫知することは蓋し難しいことではない。從つて豫防も强ちむつかしい問題ではない。

腦溢血は既に前章で述べた如く、體質によつて起るものが多いのであるから、平素注意すれば、自ら腦溢血を起す體質であるかどうかといふことが、ほゞ判る。それで、前に述べたその起り易い體質のことをよく辨へておくことは、腦溢血豫防上極めて肝腎なことである。

婦人の腦溢血豫防

婦人にも腦溢血はしば〳〵起るもので、やはり前述の樣な體質のものに多く來るのであるが、婦人の場合殊に注意すべきことは、流產の癖があるか、或は早產をするとか、或は無事に出產しても分娩後百日內外で幾人も子供が死んだといふやうなことのある人である。こんた癖は、潛伏黴毒に原因することが多いのであるから、從つて腦溢血にも罹り易い傾向がある。こんな癖の婦人は、早く血液や尿の檢査を受けて適當の治療をすれば、腦溢血を未然に防ぎ、尙ほ流產、早產の癖も治り、完全な子寶を得られるわけである。

昔から我が國では半身不隨は、『男は左、女は右』といはれてゐる。けれどもこれは、單に經驗上から言はれたことで、實際には男女を問はず、左にも右にも半身不隨は起るものである。

左の腦には感情、その他高尙な精神中樞、及び言語の中樞があるが、婦人は感情過敏で、お喋舌であるから左の腦を使ふことが多い。從つて左の腦に充血を來し且つ溢血を起し易いので、半身不隨は右に來るから、俗に『女は右』と言はれたのであらう。

それで婦人の腦溢血豫防には感情興奮と、多辯とを愼むことも大に注意すべきことである。

腦溢血の前驅症狀

體質のところでお話したやうな腦溢血の素質ある人には、腦溢血の前兆として、種々の症狀が

現れるものである。けれども、前驅症狀は極めて輕く、且つ一時的のことが多いので、あまり氣にも留めず、醫師の診斷を受けるやうなこともなく放任しておくために、遂に突然（事實は決して突然ではないのだが）斃れる場合が多いのである。それで、少しでも前述のやうな體質の人は、腦溢血にはどんな前兆が現れるかといふことを先づ知つておけば、災を未然に防ぐことができよう。前驅症狀としては、多く次の如きものが現はれる。

（一）神經衰弱樣の症狀＝腦溢血の起る前兆として、中老の人に、頭が重かつたり、輕い頭痛、または頭が絕えず物に覆はれたやうな感じがしたり、肩が凝つたり、全身に倦怠感があつたり、輕い眩暈や、睡眠不良などを來すことがある。

これらの症狀は、何れも血管硬化のために血壓が亢進して、血液循環が惡くなり、殊に腦の血行が澁滯するために起る症狀である。

（二）脈搏不整または結滯或は耳鳴り＝耳鳴りは、或るときは、蟬の鳴くやうに、或るときは、松風の音のやうに、または頭の中に雜音がしたり、種々であるが、殊に夜間に於て强く、また耳鳴りのする側の肩が、强く凝ることもある。これは耳鳴りのする側の腦の血管が硬化して、血液の循環が惡いために起るのである。

（三）眩暈＝よく、たちぐらみがしたり、眼瞼が重く感じたり、長く談話をすると眼が眩んだり、

また時には、船に乘つてゐるやうに全身に動搖を感じることがある。

これは、左右の腦又は半身の血行が平均しないために起るのである。

(四)指頭の痲痺＝時々片側の食指、中指、或はすべての指に痲痺を覺えたかと思ふと、間もなく治ることがある。これは動脈硬化のために血液の流れが惡くなつて、一時痲痺するのであるから、しびれるところを揉んで血液の循環をよくさせれば、直ぐに治ることが多い。

(五)言語澁滯＝談話の最中に、突然言語が澁つて話ができないやうに舌が吊れるかと思ふと、間もなく治つて何でもないといふやうなことがある。

腦溢血の遺傳的體質、または素質のある人で、四五十歳の中老期になつて、前述のやうな前驅症狀を感じたときは、早速醫師の診斷を受けて、注意を怠らぬやうにせねばならぬ。

腦溢血の豫防法

腦溢血の豫防上、最も大切なのは食事の注意である。血管が硬化したり、血壓が亢進してゐるときは、血液が血管內を流れるのに圓滑を缺くものであるから、血液がもし濃厚であつたなら一層流れにくゝなつて、血壓を增すことになる。反對に血液が薄いときは、血管內を容易に流れるために、血壓を減じることになる。

血液が濃厚になつたり、または稀薄となるのには、食物が最も關係がある。肉類、脂肪分を多く攝るときは血は濃厚粘稠となり、野菜、果實のやうなものを多く攝れば、血液は稀薄となる。從つて腦溢血の人、腦溢血の素質のある人は、肉類、脂肪類を愼み、且つ珈琲、紅茶のやうな興奮性のものを避け、殊に酒、煙草の如きは絕對に禁じて、なるべく菜食を多く攝り、輕い魚、例へば鮮、鰈、鯛、または川魚のやうな白身の魚を選び、または鳥肉のやうな赤味の少いものを攝るやうにせねばならぬ。

最も注意すべきことは飽食、多食、便秘であつて、腹部の壓を高めることは、腦溢血の誘因となるから、愼まねばなぬ。

五、卒中發作の救急處置

卒中發作は雷擊のごとく不意に襲來するものである。從つて腦溢血の恐れある人は、平常からその起つた時の手當療治の心得がなければならぬ。

意識のある場合

腦溢血は場所と時とを嫌はず起る。或は家庭に於て談話中、食事中、飲酒中、または碁將棋を樂んでゐる最中にも起る。臥床中すでに腦溢血に襲はれてゐて、眼が覺めて起たうとすると、膝がぐんにやりとなつて半身が痺れ、だら〳〵とよだれが流れて起き上れないといふ場合もある。斯樣に患者自身が氣がついて、氣分が悪くなり、嘔氣を催し、眩暈をおぼえ、手足半身が痺れ、よだれが流れるやうな場合は、すぐさまその場に臥して家人を呼び床をのべさせて、極めて靜かに床の上に移らせてもらふがよい。つまり絶對安靜が第一であつて、すこしも身體を動かさないといふことが理想である。

無論醫者はすぐ迎ひにやらねばならぬ。醫者の來る間、家人は水枕または氷枕で、取敢へず患者の頭を冷す。それから心臟部にも氷囊をあてゝ冷し、極めて安靜に臥さしめる。もし足が冷えたなら毛布で足を包むか、できれば湯たんぽを入れて、冷えぬやうにする。患者が尿意を訴へた場合は、しびん又はビールの空壜、或は洗面器などを用ゐて、安臥のまゝに用を足させる。この場合患者は頻りにもがいて起き上り、便所に行きたい〳〵とせがみ易いから、附添の家人は附きりで安臥のまゝ尿を取つてやる方法を講ぜねばならぬ。

意識を失つてゐる場合

卒中が急激で、患者が即座に意識を失ふか、または口がきけないで病變を知らせることができない場合は、家族はそれと氣がついても、決してあわてたりうろたへてはならぬ。あわてゝ患者を抱き起したり、搖り起したり、または大聲に呼んで意識を取戻さうと務めるやうなことは、まつたく禁物である。すぐその場所に床をのべて病室となし、患者の體をごく靜かに、なるべく二三人の手を借りて靜かに運んで床に臥させねばならぬ。

衣服をぬがせたり、着代へさせて體を動かすといふことも絶對によくないことである。もし、この場合、體をひどく動かしたり、遠くへ運んだりする時は、出血した腦の血管の小さな傷口は再び破れて出血を增し、急に重態に陷るやうなことがある。

外出先で倒れた場合

外出先や道路で倒れた場合は、致し方ないとして、もし便所、湯殿、それから講堂、宴會の場所などで卒倒した場合は、直ちにその場を一時假の病室にあてゝ、絶對安靜を守らしめ、應急の處置を施すべきである。路上や、電車や汽車内で腦溢血の患者があつた場合は、以上のやうに絶對安

靜を保たしめ、それから醫者や家人を呼んでやれば功德である。家人にしても、其の場へ馳けつけたらば、醫者の意見を聽いて最も近い病院や人家を借りてでも適當の處置方法を講ずべきである。

頭部を冷し着物をゆるやかにする

醫者の來るまでに多少時間がかゝるとする。さう云ふ場合、患者が顏面潮紅して脈が多いとみれば、頭部を少し高めになし、なるべく頭の上下全體及び頸部までを十分冷すがよい。卽ち氷枕をなし氷囊を二つ三つあてゝ、血液の腦に上昇充血するのを豫防する。患者がもし窮屈な着物を着てゐるか、洋服を着けてゐる場合は、まづそれを解いて、ゆるやかにしてやる。洋服の場合はネクタイ、カラーを外し、胸部をあけてゆるやかにし、腹のズボンのバンドやボタンも外してやる。つまり胸から腹までゆるやかにしてやる。

水蛭を貼用する

次に水蛭が手近の藥種屋から得られたら、すぐそれを求めて用ゐる。まづ二三十條ぐらゐ、時には百條ぐらゐを耳後部の襟足、卽ち耳の後の髮の生え際か、または顳顬部などにつける。それにはまづ、薄い砂糖水を作つて、それを耳後部か顳顬部に塗つて、そこへ水蛭を吸ひつけさせるとすぐによく吸ひついて、頭に上つた血をよく吸ひ取つてくれる。

蛭は十分に血を吸ふと落ちるから、それまで滿腹に吸はせる。若し附添のものが、患者の手足の痲痺した側が分る場合、卽ち片側の手足を動かして、他側の手足を少しも動かさないことに氣が付いた時は、手足を動かす側、卽ち痲痺側と反對側の耳後部や顳顬部に水蛭をつけるがよい。

蛭の付け方は、醫師の指圖を受けて行へば最もよろしい。然し醫師の來るまで、時間のある時は救急處置として、まづ試みて差支へない。

蛭の貼用法は、一日一回または二回、一日平均五十條位を數日間反復して行ふのである。卽ち蛭の總數二〇〇乃至三〇〇條位を吸はせるのである。

蛭は一條平均長さ七糎、重さ〇・八瓦位で、その血を吸ふ量は平均一、二瓦である。それで一日五十條用ゐると六〇瓦の血液を吸ふことになる。これによつて腦溢血の進行を止め、血壓を下降せしめる効が期待されるのである。

危急の場合で、多量に瀉血の必要がある時は、水蛭の外に、醫師の手によつて、腕の靜脈から注射器で、一〇〇瓦から二〇〇瓦の瀉血を行ふことである。

倒れた時、足が冷えることが多いから、足に觸つて冷たい時は、すぐに毛布で包むとか、湯タンポを入れて溫める樣にする。但し湯タンポで火傷をしない樣に注意する。」

芥子泥を腓腸部に貼用する

芥子泥を腓腸部に貼用して、血液を下の方へ誘導し、頭に血の上るのを防ぐ。これは大抵の家庭に芥子はあるから、早速應用の出來る、簡單有効な方法である。芥子泥は日本芥子、西洋芥子のいづれでもありあはせのものを用ゐ、まづ大きな丼に相當量の芥子粉と、うどん粉とを約半々に入れる。それに水乃至微溫湯をすこしづつ注ぎ加へながら、割箸か匙のやうなもので、煉り廻して十分に攪きたてる。芥子の匂ひで鼻が痛むくらゐ、くしやみが出るまで攪きたてる。それから半紙、ハンカチ又は手拭ガーゼのやうなものにのばし、その上をもう一枚紙か布で被うて、つまり芥子の柏餅を作るやうに、兩面から紙か布切で包むのである。で、その包んだものを、腓腸部、下腹部、心臟などに貼り、約十分位でのぞいてみて、その後が紅みをさして來たら、取除けて、後を水か微溫湯で拭きとるのである。貼用の回數は醫師の指圖をうけるがよい。

排便に注意する

次に便の排泄と、尿を出させることは極めて必要である。だから、灌腸器の用意があつて、灌腸の心得ある人があれば、最も好都合で、すぐ行つて、排便を促し、腹に停滯したものを出して、腹

壓を低める法を講ずべきである。然し自然に漏らすことが屢〻あるから、まづ襁褓をかつて、汚れないやうに豫防しておけばよい。男は陰莖に長い氷嚢を結び付けて尿の洩れない樣にする。

發作の時顏面が蒼白になつた場合

若し卒中發作の時、却つて顏面が蒼白になり、唇の色が紫がかり、脈が微弱となり、慄へるやうな樣子を見た時は、前述と反對に顱頂部にアルコールを塗るがよい。又微溫湯で手拭をしぼつて額にあてるとか、心臟や腓腸部に芥子を煉つて貼るとか、應急處置を施すべきである。然し一般に發病直後一時間位は、顏面蒼白となり嘔吐を催すのであるが、暫くすると反對に顏面充血して、のぼせて來るのが普通である。すべてその間の應急處置は、必ずあわてないで、臨機の手段を講ずべきで、醫者が來た後は必ずその注意を守り、萬事その指圖を待つべきである。

家族の慌てる事は禁物

發病當時、最も注意すべきことは、家族や周圍のものが決してあわてないことである。うろたへたために、種々の處置を誤つた例は非常に多い。湯タンポで痲痺側の足に大きな火傷の水ぶくれを起したり、芥子を貼り放しにしておいて、その後が火ぶくれとなり、皮膚に水疱を生じ、爛れを生

じて、始末に困るやうなことがある。

前兆としての肩の凝り

卒中發作の前兆として、肩は非常に強く張り、のぼせが強く、背中がひどく苦しい場合、よく按摩を呼んで強く抓らせるが、そのため却つて卒中發作を惹起するやうな場合もある。だから斯樣な前兆の場合は、按摩よりも水蛭をつけるか、妙布か芥子泥のやうなものを貼つた方がよい。でなければ、家族のものに靜かに撫でさすつてもらふもよいが、氷で冷やしておいて醫者を迎へ、瀉血とか應急の處置をするがよい。

主治醫を定むべきことが肝要

卒中發作の起つた際、もう一つ特に注意すべきことがある。それは、家族や周圍のものが狼狽のあまり、右往左往して、あちこちの醫者を手當り次第に呼びよせる。電話を受けたり、使ひで招かれた醫者は、二人三人、多い時には五六人もつめかけて來る。さて、かう多く醫者が鉢合せするとどれが主治醫かわからないで、特に責任を感じるものはなく、一同手を下しかねてゐる。つまり、船頭が多すぎて、舵の取り手がなく、虻蜂とらずの結果に陥るのである。

その上、醫者は人々によつて、治療方針や、意見がまち〳〵のことが多く、手當に遺憾な手ぬかりが出來る。ただ、そわ〳〵として入り代り立ち代り脈こそとつても、どう家人に指圖してよいのか、注射を試みてよいのか、互に遠慮してゐて手の下しやうがない。

かう云ふ例は、讀者も見聞されたことがあると思ふ。だから、かういふ際は、いづれか一人、適當な人を選んで主治醫となし、その人に賴んで醫者一同の意見をまとめてもらひ、その協議に基いて適宜の處置をとるがよいと思ふ。

六、高血壓と壽命

高血壓とは？

凡べて私達の身體は、血液で養はれてゐるのである。隨つて血液循環の良い人は健康であり、惡い人は不健康である。心臟から送り出された血液は、體內隈なく廻つて又もとの心臟に還るのであつて、此の體內を一と廻りする時に、血液と血管との間に摩擦が出來る。その摩擦によつて起る壓を血壓と言ふのである。詰り血壓とは血液が血管內を樂に流れて居るか否かを示すものである。

普通健康體の血管は彈力に富み、血液の分量に應じて或は擴がり或は小さくなり、能く調節されて循環するのである。この血壓を血壓計で測ると、普通百十乃至百五十ミリメートルあつて、百以下を低血壓と言ひ、百五十以上を高血壓と言つてゐる。處が若し心臟か又は血管に變調が起れば、血壓は或は低くなり、或は高くなるもので、血壓を測れば心臟又は血管に異狀のあることが判る。低血壓に就いてはまだ餘り研究されてゐないが、高血壓の研究は近年著しく進歩して、醫師間でも大いに問題にし、病人を診察する際は、脈搏、體溫などと等しく血壓をも測る樣になつた。然も最近民衆醫學の進歩に連れて、高血壓といふことが一般に廣く喧傳される樣になつた。

高血壓の原因

高血壓の原因を簡單に擧げると、第一は動脈の硬化である。卽ち動脈の血管が硬くなつて、彈力が減り、血液の量に應じて伸縮が不自由となる場合である。第二は血液に異狀がある場合で、血液が濃厚、且つ不潔である時は血管壁は普通であつても、血液の流れるのに抵抗や摩擦が增して來るのである。これは黴毒、尿毒、又は酒毒などに依つて多く起る現象である。第三は或る原因に依つて、心臟から送り出された血液の分量が可なり多いと、摩擦が增して血壓が高くなる場合がある。これは過激な運動とか、精神の興奮から屢〻現はれる現象である。

常に高血壓であると血行は不十分となり、凡ての方面に能率が擧がらなくなる等、色々の症狀を呈し、一種の高血壓症といふ神經衰弱に似た樣な症狀が現はれて來るものである。

症狀の樣々

高血壓者の中には、少しも苦痛を感じない場合が屢〻ある。併し高血壓が長く續くと苦痛を覺え、又醫者が診察しても色々な現象が認められる。最も多いのは頭の重いことで、何か頭の中に溜つてゐるやうな氣持がしたり、物が被さつてゐる樣に思つたり、時には鈍い痛みを覺え、頭の中で何か鳴つて居る音がしたり、耳鳴りを覺えたりする。これ等の症狀は血液の循環が惡く、腦內に鬱滯して輕い腦溢血を起す爲である。又眩暈を覺えたり、言葉が時々吃つたり、言はうとすることが口に出なかつたり、時には癇癪が起り、氣短かになり、取越苦勞をしたりして、色々と性質が變つて來る場合がある。

その外屢〻不眠症に陷り、夜分寢付きが惡く、眞夜中に眼が覺めたりして、安眠熟睡の出來ない爲めに苦痛を增すことがある。老人が目ざといとか、姑が朝早く起きて、朝寢の嫁に小言を言ふなどは、凡て動脈硬化か、高血壓の結果である。又偶には手足が痺れることもあるが、それは極めて瞬間的で氣がつかないことが多い。それに屢〻驚かされるのは、鼻血が出て中々止まらないことが

ある。老人の鼻血は多くは高血壓を意味するもので、軈てこれが腦内で起る腦溢血の前兆である。時には眼球の白眼に赤インキを流したやうに出血することがあつて、自分では氣付かないで、人に言はれて、初めて驚くことがある。これは高血壓の爲めに、眼球に出血を來したのであつて、軈ては眼底出血か腦溢血を來す前兆であると言つても宜い。斯のやうに高血壓が續くと、色々な苦痛が起り、軈ては腦溢血を來す虞れがあるから、一般に醫者からも注意を與へられて警戒される。

果して恐ろしいか？

最近、血壓に對して非常な不安恐怖の念を懷く人が殖え、その結果一種の血壓恐怖病といつて神經衰弱の患者が著しく多くなつて來た。斯樣な恐怖病の人は多くは神經質の人で、能く調べて見ると一向に血壓が高くない人に多い。

然らば高血壓は非常に恐ろしい結果を來すものであるかといふに、强ち高血壓だけでは腦溢血が來るや否やは豫斷することは出來ない。高血壓を來す原因は前に既に述べた。

第一に動脈硬化の爲めに起る高血壓は、最も危險である。これが往々腦溢血を來し易いのであるから、吳々も注意しなければならぬ。それは腦の中の血管が硬化すると、彈力が減り且弱く脆くなつて來る。其處に多量の血が上つて來ると、遂にパンクして腦溢血を起すのである。腦の動脈硬化

は老人に多く、六十歲以上の人に屢ゝ見られるものである。

第二に血液が濃厚、不潔の爲めに起る高血壓は、比較的危險は少ない。それは血管に少しも異狀がなく、彈力もあり、伸縮も自在で、多量の血液が上つて來ても、容易に流れることが出來るからパンクする憂もない。併し永い間血液が濃厚、不潔であれば、自然血管が摩擦を强く受けて漸次弱り、その上、黴毒、尿毒、或は酒毒等があれば、それ等の爲めに、血管が病的變化を來して、何時しか、動脈硬化に陷り、隨つて腦溢血を起し易くなることがある。詰り酒や黴毒や又は慢性腎臟炎の爲めに尿の成分が血液に混じて、血管内を常に廻つて居ると、年若でも動脈硬化が起ることがある。三十臺四十臺、五十臺位の人で屢ゝ腦溢血を起すのは多くはこれが爲めである。

第三の過激な運動、或は精神感動等に因つて起る血壓亢進は、多くは一時的であるから少しも危險はない。併し斯樣なことが屢ゝ反復すると、自然と血管に變化を來し、永い間には動脈硬化を起すことになるから、常に苦勞性の人とか、餘り頭を使ふ仕事に長く携つて居る人とか、不眠症などで長く苦しむ人は注意しなければならぬ。

そこで腦溢血を起し易い素質を持つてゐる高血壓の人は、壽命が短かいことになる。處がこれは、高血壓が長い間續く場合に考へられることで、若し高血壓を早期に發見して治療して置けば、前に述べたやうな危險は豫め防ぎ得るのである。

腦溢血は極めて突然であるが、それ迄には可なり長い間、高血壓が續くもので、平素血壓を測定して、若し高ければ、養生を怠らず治療を施して置けば、之を豫防する事が出來るのである。だから高血壓は必ずしも恐る可きものでなく、高血壓は又必ずしも不治短命のものではないのである。

肥つた人と痩せた人

血壓と壽命に就いては、米國の生命保險會社の統計によると、血壓が自己の年齢に於ける平均血壓價より凡そ十ミリメートル低い人が最も健康長命で、血壓が自己の年齢の平均價より高ければ高い程壽命は短かいことになつて居る。これは體重の統計でも同樣で、自分の年齢の平均體重價より十キログラム低い人が最も健康長命で、平均體重價より重ければ重いほど壽命が短かいといふことである。

即ち少し痩せ氣味の人が長生きで、肥りすぎた人は、そのデブ〳〵加減の強い程壽命が短かいといふことになる。血壓もこの體重と關係が深く、肥りすぎて居る人に高血壓が多く、痩せて居る人には比較的少ないのである。肥りすぎた人は、一名卒中體質と言ひ、血液が濃厚粘稠であつて、三十臺、四十臺に、屢〻卒中即ち腦溢血を起し易い體質とされてゐる。

一方痩せてゐて、よく骨張つた體質の人があるが、その人の額を見ると血管が蚯蚓のやうにうね

うねとして、二の腕をまくると、內側に血管がビク〳〵と脈を搏つのが見える人がある。斯樣なのは硬化體質と名づけて、矢張り血壓が高く、軈て腦溢血を起し易い傾きがある。併しこの種の人は多くは長命で、六十、七十位になつて、始めて腦溢血を起し、所謂中氣となつて長く病床に惱むものが多いやうである。

『あの人は痩せてゐたのに、腦溢血を起すなんてどうも不思議だ』などと言ふ話を聞くが、その人はこの硬化體質に屬するものである。卒中體質の人は實業家、政治家の殊に頭株の人に多く、硬化體質の人は、學者、藝術家などに多いやうである。これ等の體質は多くは遺傳的であつて、後天的に作られることは極めて稀である。

隨つて自分の系統に腦溢血を起した人が幾人かあれば、高血壓或は動脈硬化を起さない三十臺頃から注意して、時々血壓を調べて貰ふ必要がある。高血壓に就いて平素注意すれば、腦溢血は豫防し得るのである。しかし平素の生活狀態を變へたり、嚴重な養生法を行ふことは、中々容易な問題ではないので、つい知りつゝも怠つて本病に侵され易いのである。

尙『あの人は血壓が高くないのに腦溢血で斃れた』といふことを聞くが、腦溢血は高血壓の人のみに限つて起るものでなく、血壓が普通であつても起る人がある。それは血壓を測定するのは大抵腕であるが、腕の血壓は腦の血壓ではない。それに動脈硬化は部分的のものであつて、腦の動脈硬

化があつても、必ずしも腕の動脈が硬化するとは限らない。腕の血壓が低いから腦に硬化症がないとは云へない。そこで腕の血壓は低いのに腦溢血を起すのは、腦だけに動脈硬化が局限してあつた爲めである。

之と反對に、腕の血壓が高くても、腦に動脈硬化のないこともあるから、高血壓の人が平氣で働いて居ることもある。故に血壓のみで、人の壽命は豫測することは不可能である。

七、血壓の高い人の養生法

最大血壓と最小血壓

血壓を計るには、血壓計を用ゐる。普通は、その壓の氣壓と同じやうに水銀柱を標準として測るのである。血壓計にはいろ／＼の種類があり、その種類によつて血壓の高さが多少違つて來る。しかし普通はリバーロッチ氏の血壓計を用ゐてこれを標準にするが、フォート氏の研究によると、滿二十歳の男子では、一二〇ミリメートル水銀柱で、その後は年齢二歳を增す毎に一ミリメートルづつ增加するものとしてある。女子の血壓は同年の男子に比べて、七乃至一〇ミリメートル低いことになつてゐる。

血壓は普通一五〇までを生理的とされ、一七〇以上は危險と見做され、生命保險會社でも一七〇以上の血壓を有する人は、高額の保險にはとらない規定になつてゐるやうである。

年齡と血壓

年齡	最大血壓 男子	最大血壓 女子	年齡	最大血壓 男子	最大血壓 女子	最大血壓
二〇歳	一二〇	一一〇	二五歳	一二三	一一三	一五〇まで……生理的
三〇歳	一二五	一一五	三五歳	一二八	一一八	一七〇以上……稍危險
四〇歳	一三〇	一二〇	四五歳	一三三	一二三	一五〇以上……病理的
五〇歳	一三五	一二五	五五歳	一三八	一二八	二〇〇以上……極危險
六〇歳	一四〇	一三〇	六五歳	一四三	一三三	
七〇歳	一四五	一三五	七五歳	一四八	一三八	
八〇歳	一五〇	一四〇	八五歳	一五三	一四二	

近頃血壓のことを素人がいろ〳〵研究するので、隨分難かしいことをきく人もあるから、今少し血壓のことを詳細に述べて見ることにする。血壓を詳細に調べるには、最大血壓（收縮期的血壓）と最小血壓（擴張期的血壓）とあつて、最大最小血壓の差を脈壓といふ。最大血壓といふのは、腕の動脈を壓迫して、脈が丁度止る時の壓をいひ、その壓を少しづつゆるめて、脈が普通の脈になつたときの壓を、最小血壓といふのである。

普通いふ血壓は最大血壓のことで、これは前に述べた一二〇を滿二十歳の人に於て普通とし、最小血壓は八〇である。一二〇から八〇を引いた差の四〇が脈壓で、普通は最小血壓は年齢に於ても大差はないが、最大血壓は年齢及び病症により、いろ〳〵の差があるから、血壓をいふには、脈壓つまり最大最小血壓の差を以ていはなければならないのである。この差が七〇、八〇或は一〇〇以上もある場合があり、この脈壓の高いほど病的症狀が著明となる譯である。

尙ほ血壓を計る場合には、片方の腕だけでなく、兩方の腕を計らなければならない。普通血壓は左右とも同じであるが左右不同のものが屢〻ある。假令血壓が低くても、左右不同で兩方が一致してゐない場合には危險が多く、反對に血壓が高くても左右が一致してゐる場合には、割合に危險が少いものである。

血壓の高い時の自覺症狀

血壓が昂進して、病的血壓を示すときは、いろ〳〵の自覺症狀を起すものであることは既に述べた。しかし私共が毎日經驗するのは、自覺症狀がないので、自分では全く健康狀態として健康を誇り、終日熱心に活動してゐる人でも、血壓を計つて見ると、一六〇以上、時としては二〇〇位を示し、醫師の方で大いに驚くことが少くないことである。

斯樣な場合に、若し血壓が非常に高いものは、いつ何時血管破裂を來して、腦溢血を起すかも知れないといふ注意の下に、醫者が患者に絕對安靜を命じ、服藥をすゝめ、その他諸種の注意を與へたために、今迄は何等の苦痛なく愉快に毎日活動してゐた人でも、急に一種の神經症狀を呈して不安となり、不眠症を起し、苦悶を感じ、甚だしきに至つては、全く病床に呻吟する人となることがある。

斯樣な實例を私はしば〳〵實見してゐる。實際二〇〇位の血壓で平氣で活動してゐる人がしばしばあつて、何等の症狀を呈しないことがあるが、しかしこの無事の狀態がいつまで續くかは疑問であるも、あまりに血壓昂進を過大視して、死の宣告にも等しい注意を與へることは、大いにつつしむべきこととして私は自ら戒めて居る。

自覺症狀を起した人の例

例を以ていふと、五十四歳の人で、數年前から道を歩くにフラ〳〵する感じがあり、何んとなく足元がしつかりしないやうで、足に力を入れ、注意して歩かなければ、チョツトした物に躓いても倒れるやうな氣持がする。坐つて居るとき、又は寢てゐるときでも、どうかすると船にでも乘つてゐるやうな感じがしたり、體が宙に浮いてゐるやうな感じがする。そこでいろ〳〵治療を加へても更に効果がないといふので、その原因が何んであるかを知るために、私のところに診斷に來た。

調べて見ると、血壓が右が二〇〇左が二〇六を示し、左右の血管を調べると何れも硬化が著しくあるが、左の頭の血管は、殊に著しく硬化を來して、顔、手足の運動が左右少し違つてゐる。片足で立つと右はチヤンと立てるが、左はフラ〳〵して立つことは出來ない。つまりこれは血管硬化のために、壓が高くて左右半身の運動が平等に行かないために、體の重心がとれないで、フラフラする感じがするのである。

次に六十歳の人で、この人は非常な活動家であるが、或るとき用足しに出かけた途中で、急に片足がしびれて利かなくなり、その場でしやがんでしまひ、約十分位靜かにしてゐると、しびれは次第に去つて、再び歩行が出來るやうになつた。その後三ケ月ばかりしてから、自宅で客と對談し、

客の歸るのを見送るために立ちあがらうとしたら、自分の腰が立たないで、どうしても足を持ちあげることが出來なかつたが、暫らく横になつて寢てゐると、再び立つて歩けるやうになつた。その後又片手が一時しびれて、同時に口が利けなくなり、失語症を起すに至つた。しかしその度毎に五分か十分位で舊に復するので、醫師の來る頃には平常と變らず、醫師も何のために起るのか判らず手當の方法もつかなかつたのである。

第三回目の發作の後に、私のところを訪ね、診斷を乞うたので、見ると、矢張りこれは血管硬化のために、血壓が一八〇を示し、その痲痺を來したといふ手足には、殊に著しい硬化を認めたので、その後大いに注意して服藥をすゝめて居つたのが、震災後避難中に無理をしたために、輕微の腦溢血を起して半身不隨を來し、一ケ月ばかりで治つたが、半歳後にバラックを建てるために日々奔走中、或る日電車の中で突然腦溢血を起して、自宅へ連れ歸られて死亡した。

四十歳の血氣盛んな非常に肥滿した活動家が、近來頭が重くて全身がだるく、何んとなく元氣が衰へて仕事に飽きやすく、神經衰弱のやうな徴候があるといふので訪ねて來た。この人は非常な大酒家で、毎日大酒し、時には殆んど徹宵痛飲することがあるといふ。くはしく調べても內臟には何等の病變がなく、外觀的には全く健康であるが、血壓を調べて見ると、一八四を示して居つた。しかし血管を調べると、どこも硬化の程度になつてゐるところはない。そこで斷然禁酒を約束し、

服藥して二三日毎に血壓を調べると、漸次下つて十日後には一五〇となり、今迄のいろ〳〵の病狀は全く消失し、元氣も頗る旺盛となつたので、尙ほ禁酒を續けると、終に血壓が一三〇に下り、非常に元氣がよくなつたのである。

ところが、止むを得ない事情でビールを大いに飲んだら、忽ちにして手足に倦怠を覺え、元氣は頓に衰へて來た。血壓を調べると一七〇に上つてゐた。これはいふまでもなく、アルコールのために心臟の働きが强くなり、從つて血壓が昂進し、これ等の症狀が現はれて來たのであるから、その原因を去りさへすれば、忽ち血壓が下り、健康に復するのである。

斯樣な單純な血壓昂進症といふのが、極めて多い。しかしその原因を探してこれを去れば、自然症狀が急によくなることが少くないのであるから、血壓は可なり高くても、血管が硬化せず、彈力が十分あれば、破れて溢血を起す恐れはないのであるから、單に血壓が高いからというて、今にも腦溢血を起して死ぬやうに、驚く必要はないのである。或る女で、頭が重く、眩暈がひどく、常に苦しんでゐた人が、血壓を調べると一九〇もあつた。然るにいろ〳〵の手當をしても更に効がなかつたのであるが、月經が始まつて月經過多を來し、二週間程も出血が續くと、その病狀が急によくなつてしまつた。

又或る老人は東京驛に子供を出迎に行つて、混雜の中にゐると、急に眩暈を起して倒れ、非常に

鼻血が出た。暫らくいろ〳〵の方法をつくして見ても止らなかつたのであるが、多量の出血後に自然に止つた。この老人は平素から耳鳴がひどく、便秘が甚だしく、時には逆上せて頭痛がするので、倒れる前に血壓を調べた時は一九〇あまりあつたのである。しかしその鼻出血のあとには、これまでのいろ〳〵な病症がとれてよくなり、一年あまりも健康でゐたが、その後又眩暈を起して不眠症を來し、いろ〳〵手當を加へて輕快したのが、震災直後に治療不行屆のため遂に腦溢血を起して斃れた。

血壓昂進のある人に、しば〳〵尿に蛋白の少量が現はれることがある。これは萎縮腎のために起るのであつて、普通の腎臟炎とは少し違ふのである。慢性の腎臟炎では、血壓が非常に高く二〇〇前後を示し、いろ〳〵の病狀を呈することがある。

血壓昂進症の治療

今迄非常に健康で、少しも藥を用ゐなかつたといふ人が、或る時電車に乘らうとして、一町ばかり駈けたところが、急に胸が苦しく壓迫されるやうな感がし、その後もその感が時々ひどくなるといふので調べると、血壓が矢張り高いので、絕對安靜にして、暫らく靜養させると、漸次に癒つた。斯樣に血壓の高い人は、普通のことでは、何等の病狀も呈しないが、少し過激なことをする

と、何か苦痛の病狀が現はれ、甚だしきは腦溢血を起して倒れる。それ故安靜と云ふことは極めな大切な事である。

あまり自覺的に苦痛のない人で、血壓の昂進症を認めた場合には、私はいつもその人に凡てのことを驚かないやうにうち明け、感情を興奮させないやうにする。且つ急に運動したり、過激な仕事をしたり、精神及身體の過勞を來すことのないやうに忠告する。しかし絶對に仕事を休んで安靜に床につかすことはさせない。その人の職業が心身に過勞を招く程度のときは、それを加減して過勞しない程度に仕事をさせる。

斯樣な血壓昂進の人に、絶對安靜を命じて患者を驚かしたり、又家庭に終日安臥させて置くときには、却つていろ〳〵の取越苦勞や不安のために病狀を增進させる傾きがあるから、會社に勤める人は、安靜な仕事であるならば、毎日通勤するも差支なく、單に疲れない程度に仕事をするやうにすゝめる。實業家の活動家では、家庭に絶對安靜を命ずると仕事以外は無趣味の人が多いので、家庭に於ける慰安がなく、却つて仕事のことを彼是と氣にするから、或る程度までは會社につとめながら仕事をさせる方がよいと思ふ。勿論仕事は平素の何分の一かに減じて、安靜な事をしなければならない。

どんな食物がよいか

食物はなるだけ淡白なものをとるやうにし、濃厚なものは避けるやうにしなければならぬことは前述した。

蕎麥、饂飩、素麵のやうなものは、昔は中氣によくないといはれ、又とろゝ飯の如きものも中氣を起すといはれたものであるが、これらの食物は嚼まずに呑んでしまふので多く食ひすぎる傾きがあり、胃が一杯になつて腹壓が高まるために、頭へ血が上つて溢血を起すことになるのであるから、食ひ過ぎない程度に少量に食べる分には決して心配はない。豆類、芋類、南瓜のやうなものは、よく瓦斯が出來て腹が張るから、又腹壓が高まつて血壓も上ることがある。これらも多量にとることは注意しなければならぬ。

酒は勿論血壓昂進の場合には止めなければならぬが、しかし多年晩酌を習慣にして來た人では、急にこれを廢することは、精神的に悲觀の原因となり、一日中の最も慰安としたものを去ることは考物であるから、夕食の際に最も純良な日本酒の一二杯を許可することは差支ないやうで、多年飲みなれた人は、一二杯の酒で急に血壓を高めるといふことはないやうである。しかし斷然禁酒出來る人は、禁酒する方がよいのである。

煙草も血管硬化の一原因で、血壓を昂進せしめるものであるが、酒よりも煙草を止めることは、一般に難しいやうである。勿論危險がせまつてゐる程度の患者では、酒も煙草も嚴禁しなければならぬが、それ程でない程度の人では、一日に敷島の一二本程度位は、許しても差支へないと思ふ。

次に注意しなければならぬことは便秘である。便秘が續いて蓄便が多くなると、腹壓が高まつて逆上するために、血壓の高い人では危險がある。便通は毎日整へて腹を輕くして置く必要があるこれには毎朝食鹽水を一杯飲むとか、野菜又は果物の如きものを、食後とるやうにすれば通じがあるやうになる。便秘勝ちの人は、藥用の必要もある。

果物では林檎、バナ、、梨子の如きものは、何れも差支ないが、多量にとることは勿論禁物である。ミカン類は或る意味からいへば、血管硬化を豫防するにも又癒すにも効果があるといひ得られる。何となれば、血管硬化は血管に石灰分が沈着して硬くなるのであるから、酸類をとると、その石灰分を溶して尿に出す故、血管が幾分柔かくなる理窟である。輕業師は子時の時から酢を用ゐてその體を柔軟にし、藝を上手にするやうに慣らすといはれるが、これも矢張り酢のために體の石灰分が少くなり、體が柔かくなる爲である。藝者や役者なども肉體を柔軟にする目的で、酢を用ゐるものもあると昔の本にあるが、これも矢張り一理あることのやうにも思はれる。酢を用ゐると體が柔かくなり、年をとつても若く見えるからである。夏ミカンその他のミカン類はこの意味からいへ

ば、推賞すべきものであると思ふが、しかし何れにせよ過食は禁物である。

昆布ワカメの如き海藻類は、その中に沃度や、硅酸、其他の鹽類を含んでゐるから、これを毎日食用に供すれば、血管の硬化を或る程度まで豫防することが出來るし、又硬化してゐるものを幾分は柔げることが出來るかと思ふ。それは醫藥で血管硬化又は血壓昂進のものに沃度劑を用ゐると、血管が柔かくなり、血壓が低くなるから、藥として用ゐずに、これを含んでゐる海藻類を用ゐることとはよいことゝ思ふ。しかし海藻類は不消化物が多いので、これを多量に用ゐることはよくないが、その煮出した汁の中には、矢張り沃度を含んでゐるから、その汁だけを用ゐてもよいのである。例へば昆布茶の如きは至極よいと思ふ。

どんな藥用があるか

血壓が高くて、頭痛がしたり、眩暈や耳鳴がして體のふらつく場合には、蛭を首すぢ、顳顬などに吸ひつけさして、血液を吸ひとらせると、一時樂になることがあるから、あまり血壓の高いときは、この方法も家庭的には推賞すべきものと思ふ。又吸角も肩がこるとか、逆上せて眩暈するときに用ゐて一時效を奏することがある。その外勿論醫者の注意をうけて治療を乞はなければならぬ。近頃血壓を下げる注射の藥がいろ〳〵出來てゐるが、私の經驗ではあまり目的を十分に達し得る

ものはないやうに思はれる。しかし場合によつては、一時的に血壓を低めることがあるから、あまり高い血壓には、之を用ゐる必要があることもある。

近來カルシユム注射が盛んになつて、萬病に效があるやうに思はれ、血管硬化や血壓昂進症にこれを應用する醫師も少くはないかのやうにきくが、これは前にも述べた通り、血管硬化はカルシウム沈着で起るのであるから、この上カルシウムを注入すれば、餘計に硬化を來して、却つて老人化することになると思ふから、あまり推賞すべきものではないと思はれる。カルシウムの靜脈注射を多數にした人は、靜脈でさへ硬化することが屢〻ある。

齲齒のある人、或は金齒をかぶせてゐるやうな人で、齦の中に膿がたまつたり、齒の根が腐つてゐたり、或は口腔の敗血症といふのを起してゐるために血壓が一時に高まることがある。かゝる人は、この方面の治療を施すと血壓が急に下るといふこともあるから、血壓の高い場合には、齒に故障のある人は、齒科醫の診療をうける必要もある。

又眼を常に使ふ人で、眼の過勞のために霞んだり、まぶしかつたりするために、血壓を高めることがある。かゝる血壓昂進症の人は、眼科醫の診察をうける必要のある場合もある。その外血壓昂進を來すいろ〳〵の原因があるから、一見健康で何等の障害のないやうな人でも、血壓の高い場合には、その原因を十分に探索して、原因を驅除することにつとめなければならぬのである。

藥用としては、血管硬化のために起る血壓昂進、又は血管が硬化しないで單に血壓だけ高い場合でも沃度劑を長く繼續して飲むと、血壓がよく下るから、血壓の高い人でも之を持藥としてこれを用ゐて效のあることがある。この頃沃度の注射も盛んであるが、注射しなくても極めて少量の沃度を長く持續して飲めば、胃を害するやうなこともなく、且つ簡單に家庭で血壓を下げることが出來る。その外亞硝酸曹達や、ネオカルメリンなどの如くによく血壓を下げる藥があるが、それらの藥用については、醫師の指圖をうけなければならぬ。

八、動脈硬化と献立表

吾々は歳を取れば、自然動脈が硬化してしまふのは免れ難いことであるが、それは食物に依つて或る程度まで避けることが出來るのである。ところでどのやうな食物を用ふるがよいかといふと、初老の頃から肉食を避けて、菜食を豐富にするのが何より必要である。野菜類や果物、特に海藻類は動脈硬化の豫防上大きな效果を與へる。

若し次のやうな献立によつて調理したものばかりを食べてゐるとすると、動脈硬化になつてしま

ふ、すなはち、

▽朝食――御飯、半熟玉子、豆腐味噌汁

▽晝食――御飯、野菜甘煮、鮪照燒

▽夕食――御飯、赤貝と胡瓜の酢の物、里芋と鷄肉のそぼろ煮、清汁、刺身

つまり右の一日分献立は動物性の食物が多くて植物性のものが、少いのである。

なほ動脈硬化になりやすい食物の種類としては、一般に辛味の強い物を好み、野菜、果物、海藻類の攝取の不足、肉魚類の過剰、肉汁や肉スープ及び魚の煮出し汁などを多く用ゐ過ぎる事である。更に過食美食、飲酒喫煙等に依つて動脈硬化は起り易いのであるから、これ等を努めて日常に節する必要がある。(營養研究所發表)

九、動脈硬化に由來する老人の神經衰弱及び痲痺性癡呆

輓近文化の進歩につれて神經衰弱症が大いに增加して來た。老若男女を問はず、この病氣に冒されて惱める者が日を逐うて殖えて行くやうな狀態である。普通の神經衰弱症に類似して、特に

中老以上の老人に屢〻見られる處の神經衰弱症狀を呈する病氣がある。殊に近來この種の病氣が非常に多く、社會の樞要の地位に立つて大いに活動する人々に之を多く見るのである。その原因に就いては種々のものが認められるが、私の見解から中老以上の人でこの神經衰弱症狀を呈せる者に於て、常に腦の動脈硬化を認めるのである。そして、この腦動脈硬化に由來して起る處の一種の老人性神經衰弱があるやうに思はれる。獨逸では神經病醫ビング氏が、この種のものに名稱を附して動脈硬化性假性神經衰弱と呼んで居るが、私の考へでもその名稱は至極適當なものと思はれる。

動脈硬化性假性神經衰弱の統計的觀察

私が嘗つて大正元年から同七年までの七ケ年に亙つて多數のこの種の患者に就いて、その臨床的症狀を統計的に觀察したことがある。その成績は次のやうなものである。

男女の別から言ふと、この種の病氣は大部分活動せる男子に多くして八十%を示し、女子は僅かに二十%に過ぎない。年齡からいふと、五十一歳から五十五歳までの者に最も多く、その次が四十六歳乃至五十歳で、更にその次が五十六歳から六十歳までである。それで、四十六歳から六十歳までの者の百分率を合せると約六十五%を示してゐる。四十五歳以下及び六十歳以上は非常にその數が減つてゐる。

この病氣の自覺的症狀を統計によつて調べると、最も多數の患者に認められる第一の症狀は眩暈で六十四%、第二が記憶力減退六十二%、第三が、頭痛五十六%、第四が睡眠障碍五十%、第五が便秘四十二%、第六が頭重四十%、第七が感情刺戟性二十五%、第八が耳鳴二十%、第九が作業力減退同じく二十%、第十が頭內朦朧感十八%、第十一が心悸亢進同じく十八%、それから、肩胛部項部の緊迫感十四%、憂鬱十四%、被帽感十四%等であつて、その他に食慾不振、難聽、視力減退、全身倦怠感、胃腸障碍、知覺障碍、頭內騷鳴感、逆上感、四肢脫力感、手指震顫、言語澁滯、歩行蹣跚、陰萎その他の症狀が多く見られる。

他覺的に認められた症狀は、自覺的症狀に較べると極めて微弱で、著明な所見は殆どない。

しかし、その最も主要な症狀は次の四つである。

(一) 血管硬化＝これは橈骨動脈(手首にある)、足背動脈(足の甲にある動脈)、外顳顬動脈、頸動脈、上膊動脈(腕にある動脈)等に著明の硬化を認めるのである。そして、その顏貌を眺めると、多く頭が禿げて顳顬部に蛇行せる血管をよく認めるし、また肘を曲げさせると、上膊の內側の皮下に恰も針金の曲げられたものが隱されてあるやうに、之を撮み上げることが出來るほどで、脈搏につれて、その血管全體が波動を呈するのがよく認められる。

(二) 心音不純＝これは心臟の搏動につれて起る心臟の音が不純で、穢い濁つた音を呈するのである。

(三) 膝蓋腱反射異常＝即ち椅子に腰を掛けさせて輕く膝の下を叩くと、下腿全部が前へ著しく飛び出すか、又は却つて弱いか或は左右違つてゐることがある。

(四) 顳顬、頸、肩、手、足等の壓點(急所)を壓迫して見ると、よく左右の壓痛の度がちがつてゐることが多い。

以上の統計から見た種々の症狀に就いて少しく部分的に說明を加へて見よう。

諸種の症狀

(一) 男女別＝男女の別は前述の通り男子に多く(八〇%)女子に少く(二〇%)丁度四と一との比例を示して居るが、斯樣な區別の生じるのは矢張り男子が活動するためで、且つ動脈硬化を來す種々の原因が男子に多く存在するからである。即ち動脈硬化を來す原因の重なるものは、アルコール中毒であつて、凡ての原因の二十五%を示し、次に黴毒が二十五%である。更に喫煙も原因となる。そして、是等の原因は女子よりも男子に多く起り來るものである。

(二) 發病の年齡＝最も多いのは四十六歲から六十五歲までの間で、その中五十一歲から五十五歲までの間がその最たるものである。これは動脈硬化を起すに最も適當な年齡であつて、それ以下の

人は未だ動脈硬化を來す程度に至らず、それ以上の人は動脈硬化を免がれて長生するものであらう。動脈硬化の順序を曲線に依つて見ると、四十歳から漸次年齢の增加と比例してその百分率が增加し、五十五歳に至つてその頂點に達し、更に年齢の增加と共に百分率は反比例して漸次減少するやうである。そして、アルコール及び黴毒のために動脈硬化を來すのは、是等の原因が身體に起ると同時に起るものでなくして、アルコールのために來るのは常に晩酌を習慣とし、毎晩血液内にアルコールが循環するために、長い間の經過に於て漸次血管はアルコールのためにその彈力性を失ひ、漸次硬化の度を增す。また黴毒に罹つて十分その治療を加へなければ、その毒素が血液内に殘存して血行と共に常に血管を冒し、長い經過の間に漸次その彈力性を失はしめ、遂に硬化に陷らしめるのであるから、黴毒感染後十數年以上を經た五十歳前後に至つて、その硬化が著明になるのである。

(三) 眩暈＝これは老人性の神經衰弱に最も主要な症狀であつて、患者の訴へは多く立ち眩みがするとか、目まひがするとか、頭がぐら〳〵するとか、或は全身がゆら〳〵して歩行に不安を感ずるとかいふのが常である。床に臥して急に坐るか或は立つ場合に最も多く立ち眩みがするものであつて、朝の起床時に之を感ずるのが常である。即ちその場合に突然目まひを覺えて倒れるやうな感じがし、或は瞬間的に眼のくらくなるのを覺えて、時々苦悶の感じを來す事がある。甚だしい場合

には突然昏倒して一時人事を失ひ、暫時にして醒覺することもある。是等の症狀は腦動脈の硬化のために血液循環が順調に行かないために起るのであつて、即ち安靜の位置から急に頭を持ち上げると、腦の血行が一時動搖を來すために起る症狀である。また甚だしいものではこの眩暈が强く、ために安靜の位置にあつても自分の全身が搖れて恰も船か車に乘つてゐる樣な心地がしたり、また自分の身體は仰向になつてゐるか腹這になつてゐるか、或は床の上にゐるか中間に浮いてゐるか、その身體の指南力を十分に自覺し得ないものがある。このことはホンブルゲルの大いに注意した症狀であつて、腦全般の動脈硬化の爲に起るものである。眩暈を來す動脈硬化は多く延髓、殊に迷走神經核の部位に當つて動脈硬化があり、その部の血行が不調のためであると認められる。又腦半球の動脈硬化が左右ちがつてゐて、左右の血行が相違してゐるために平均が失はれて『めまひ』が起ることもある。

(四) 頭痛、頭重、被帽感＝頭痛は本病に殆んど缺くべからざる症狀であるが、餘り烈しい頭痛は殆んど稀で、常に輕い頭痛であつて前額部に最も多く來る。頭痛と共に多く頭重を訴へ、終日重くてはつきりしないやうなものが多くある。また頭に恰も重い帽子を被つたやうに、頭を何物かで抑へられてゐるか、或は鉢卷を强く締められてゐるやうな感じを覺えることが少くない。是等の症狀は精神的の執務に依つて殊に增惡し、單純な事柄を考へてすらも既に頭が痛んだり、或は重くな

つたり、抑へられる感じが酷く起つたりするために、殆んど面倒な事柄は考へる力が無いほどのことがある。しかし、十分安靜にしてゐるか或は熟睡する時は、是等の症狀は殆んど消失して腦の明晰を感ずることがあるが、また少し考慮に耽り、または面倒な談話を聞かされても、忽ち是等の症狀を誘ひ出すことが少くない。

（五）睡眠障碍＝これは多くは寢附が惡くて床に就いても二三時間眠りに入ることが出來なかつたり、或は睡眠中屢〻小さな音に驚かされて目の覺めるために熟睡を得ないといふ場合が多い。それで、非常に早く目が覺めて朝起をよくするが、さういふ場合には晝間頭が重いために氣分が不快で多く癇癪を起す樣になる。晝間多く睡氣を催し晝寢を貪り、夜間床に就くと、睡氣は去つて床の上に夜更まで悶々として苦しみ、夜が更けて周圍が靜まるにつれて愈〻目が覺め、他人の熟睡を羨ましがり、癇癪を起し、家族を叩き起したり話の相手にしたりして困らせることが多い。昔から老人は目敏いとか、朝早起するとかいふのは卽ちこの病的症狀である。それもやはり腦の動脈硬化のため、腦の血液循環が調子よく行かないので、腦の休養が十分に出來ないからである。時々睡眠轉倒症を來して夜間全く不眠に苦しみ、夜明から眠りに就いて晝間中常にすや〳〵と眠つてゐることがある。

（六）知覺異常＝これは餘り多くないが、時々手や足に筋のつれるやうな感じがしたり、或は蟻か

蛋が這ひ廻るやうな感じを覺えたり、また痒い感じ、焦げつくやうな感じ、冷たい感じ、針で刺されるやうな感じ、また手足だけ眠い時のやうに重だるい感じを覺えることがある。是等の症狀はやはり腦に於ける是等の感じの中樞の血行が惡いために起つて來るのであらうと思はれる。

（七）言語障碍＝老人になつて屢〻言語の不明瞭になることがある。これはやはり言語中樞の血行障碍に因るものと、また舌に於ける血行障碍に因つて起るものとある。

（八）耳鳴、難聽＝これも屢〻認める症狀で、やはり聽神經の部分に於ける血行障碍に因つて起るものであらう。よく頭の中で搏つ脈が聞えたり、松風の吹く音、或は蟲の啼くやうな音、または鐵瓶の湧くやうな音などが聞えてうるさくて堪らないといふのがある。是等はやはり聽神經の部分に於ける血管硬化のために、血液循環が流暢に行かないで、血管壁と摩擦して起る音が聞えるものかと思はれる。それで、多く周圍の雜沓せる場合には之を聞くことが少く、夜間周圍の鎭靜した靜寂な時に著しく聞える。頭內騷鳴感もやはり之と同樣の原因によるのであらう。難聽は鼓膜の變化に由來するか、または腦の機能の減退に由來して、理解力、注意力の衰弱のために、人の談話を十分に理解し得ないため起るのであらう。老人の耳が遠いといふのは卽ちこの理由である。

（九）歩行障碍＝身體が動搖して船に乘つてゐるやうな感じを覺え、身體が不安定の感じのために足元がよろつくことが多くある。

（十）勃起力減退＝これも屢〻見られる處で、よくこれがため人生の末路であると悲觀して、自分の老衰を急に自覺し、著しく憂鬱の狀態に陷ることが多くある。

動脈硬化性假性痲痺性癡呆

それから記憶力の減退、記銘力の減退、即ち最も近いことの記憶が著しく冒されて、よく胴忘れをして人の名前または物の名稱を言はんとして一寸思ひつかなかつたり、或は自分の大事に藏つた物の置場所を忘れたり、手に物を持ちながらその物を頻りに探し廻つたりするやうな事が多くある。また注意力や作業力が大いに衰へ、理解力、判斷力、思考力等一般の精神作用減退し、且つ感情方面に於て著しい變化を來し、或は刺戟性となり些細のことにも癇癪を起して興奮し、またはつまらないことに涙を流して泣いたり悲觀したり、或は常に不平を洩らして僻み根性となり色々のことを疑ぐり、甚だしきに至つては自分の妻が自分を殺すやうに思つたり、自分の子供等が自分を虐待し迫害するやうに思つたり、種々の被害的妄想を抱いて家を飛び出したり、または自殺を圖る眞似をして人の同情を求めるやうなことをしたり、或は非常に頑固に成つて我儘をしてどんなに宥めても人の言葉を容れずに癇癪を起すやうなことが屢〻ある。また非常に精神遲鈍と成り、自分の將來の利害幸福等に就いて更に考へるやうな樣子もなく、極めて平安無事な無頓着な生活をなすこ

ともある。また殆んど癡呆狀態に成つて來るやうな場合が屢〻ある。その他犯罪的な考慮、例へば自分の壯年時代になしたことを後悔し、些細なことで人に非常な迷惑を掛けたやうに思つたり、非常に罪惡を犯したやうに考へて、之を頻りに後悔する樣なことがある。また幻覺や錯覺などが來ることが少くない。即ち自分の惡口が聞えたり、種々の不思議な現象が耳に聞えたり、或は眼に見えたり、または物を見誤るやうなことが少くない。それで、人が話してゐるのを見ては自分の惡口を言つてゐるやうに考へたり、或は人のしてゐることが凡て自分に對して惡意を以てなすかのやうに思ひ違ひして、色々な錯誤を來すことが屢〻ある。

斯樣な精神症狀が主となつて身體的の症狀が餘り著明でない場合には、恰も腦黴毒の痲痺性癡呆に類似してゐるため、之をビング氏は動脈硬化性假性痲痺性癡呆と名附けてゐる、誠に適當な病名であるやうに思ふ。是等精神症狀の變調も即ち腦の精神機能の中樞に於ける動脈硬化のために、その部の血行不順のために來るものであらう。この痲痺性癡呆狀のものに於ける身體的の症狀を調べると、身體機關の衰弱、瞳孔の光線反應遲鈍、調節機能の遲鈍、腱反射の亢進又は減退、左右不同、血管の蛇行、血壓亢進などが認められる。精神的方面に於ては上述の外に、智力の部分的缺陷、注意力執着力忍耐力の減退、妄想性の考慮、ヒポコンデリー性（取越苦勞）の症狀が現はれることが屢〻ある。一般の指南力は良好なことが多い。人物、場所、時日などはよく辨へて、

また自分の病的感覺もよく存在することが多くある。その氣分は憤怒性、苦悶性、不關性（諸事に無頓着）爽快性、利己的または厭世的氣分が、互に入り亂れて現れて來ることが多くある。

この動脈硬化に由る神經衰弱症及び癲癇性癡呆の症狀は、一般の眞性のそれらの病氣よりも治療の方面から言へば中々困難な場合が少くないので、その原因たる動脈硬化が良くなり、血行が順調にならなければ治癒しないのである。

佛蘭西の醫者カザリスが『人の壽命はその動脈に在り』と言つた格言があるが、全くこれは眞理であつて、身體の機關、組織は凡てその部を養ふ血液を運ぶ動脈の健康不健康によつて左右せられるのである。もし血管硬化が起れば、組織、機關は十分に血液の供給を受ける事が出來ないため、その機能は勢ひ障碍される。それがために身體並びに精神の機能が遲鈍となり、敏活を缺いで老衰の狀態に陷るのである。

感情生活と動脈硬化との關係

私の考へでは動脈硬化の原因は前述のアルコール及び黴毒のために來るものの外に、感情生活の如何に依つて動脈硬化を來す場合が少からぬやうに思はれる。若い時から神經質で感情過敏な者は種々の精神感動を起し易く、些細なことにも興奮し易きがために、感情生活は常に動搖を來し、

或は沈鬱となりまたは發揚し、それがために交感神經系統が刺戟を受けて、その支配する瞳孔、腺分泌、心臟、血管運動神經、胃腸、腎臟、生殖器などに種々の變化を來すものであつて、之と同時に副腎も影響を受け、その分泌機能が興奮し、この部分から多量のアドレナリンといふ內分泌ホルモンを血液中に供給するために、血管はこのアドレナリンの刺戟によつて漸次收縮硬化を來すものである。感情の變化によつてアドレナリンが多量に分泌せられることは、亞米利加のキヤノン及び其門下生等が大いに研究して證明した處である。昔から苦勞をすれば早く年を取るといひ、不幸の境遇に立ち、人生の悲慘事に多く遭遇し、浮世の怒濤と奮鬪し、日夜不安の生活を營み、辛酸を嘗めたやうな人々は、多くは平安無事に育つた人々よりも、年を取り早く老衰すると云ふのは、卽ちアドレナリン分泌が常に多く、從つてこの動脈硬化を來すことが早いためであると思ふ。

それで、長壽の秘訣としては精神の感動を避け、極めて平和な、感情の動搖なき生活を營むことであつて、僧侶生活或は仙人的生活を營んで浮世を離れ、超然として世事を顧みないで酒や肉を斷ち女を遠ざけ、精進料理を常にとる樣な人々が多く長壽を保つといふのは、卽ち以上の原因によるものであると思はれる。

十、血行器及び神經系統の黴毒

血行器の黴毒

腦溢血と特別に關係の深い、血行器の黴毒並びに神經系統の黴毒の症狀に就いて少しく述べようと思ふ。

血行器中最も大切なのは心臟である。心臟に黴毒の起るのは第二期または第三期の時である。心囊、心外膜、心內膜、心臟筋肉に炎症を起すこともあれば、或はまたゴム腫を來すこともあり、時には心臟を養つてゐる所の血管、即ち冠狀動脈にも黴毒が起ることもあり、又心臟の瓣膜も侵されることもある。心臟が黴毒に罹ると脈搏が多くなり、輕い呼吸困難、皮膚の蒼白色、浮腫などが起る。そして他に重い症狀が無いのにも拘らず、多くは急に呼吸困難が增して皮膚が蒼くなつて死ぬか、或は格別のことがなくして唯思ひがけなく死ぬこともある。併しその人に黴毒があつて他にその症狀、三期の症狀が現はれてゐるならば、黴毒性の心臟疾患に依つて死せるものと認定して差支へないのである。心臟が黴毒に罹ると斯く突然に斃るゝことがあるから大いに注意を要す

るものである。

血行器の一部分たる動脈もまた心臟と同じく黴毒に犯される。それには炎症を起すこともあればゴム腫を起すこともある。即ち動脈に黴毒性變化が起る。若し大動脈が犯されるとその管壁がだんだん惡くなつて、伸びることは伸びるが縮むといふ力が無くなつて、遂に動脈瘤といふ危險な病氣を起すことになる。それから動脈壁には動脈硬化症と云つて動脈が硬くなることが多い。硬化症が起ると動脈が破裂し易くなるもので、腦の血管が破裂すると卒中が起る。此の硬化症はまた極く小さな脈管にも起るもので、また脈管の內膜が黴毒の爲めにだん〳〵膨れて厚くなつて行く爲に、その管腔が追々に小さくなる。そして或程度迄管腔が小さくなると血液の流通が鈍くなつて、そこに血液が凝固してしまつて血塞といふものが出來る。さうすると血管狹窄又は閉塞を來して、其處から先には血が少くなるか、又は行かなくなるから、その血管に依つて養はれて居る所の臟器は、榮養の供給が減るか又は絕える結果枯れてしまふ事になる。即ち手とか足とかの脈管が塞がると、血液が手足に通はなくなるからその手足は枯れて腐つて了ふ、これを醫學上では脫疽と唱へてゐる。そして此の脫疽といふ恐ろしい病氣の大部分は黴毒の爲に起るものである。それからまた動脈閉塞が腦髓を養つてゐる澤山の血管に起ると、卒中を起したり又は腦髓が腐つて一命にかゝはることになる。兎に角恐ろしい病氣である。

神經系の黴毒

神經系統中腦髓は、生理上、機能上最も貴重な機能を司つてゐるものであるから、玆に黴毒が起ると種々なる障害を來すものである。第一に腦膜が犯されて黴毒性の腦膜炎を起すことがある。第二に腦髓が犯される。無論その犯さるゝ場所に依つてその症狀に差異はあるが、通常起るところの症狀は頭痛である。その頭痛には始終連續して痛むものもあれば、また時々痛むものもあり、その痛みがまた劇しいものと、輕いものと、または頭全體痛むものと、一部分だけしか痛まないものとあるが、兎に角頭痛は附きものである。それから續いて眩暈、不眠症、思考力記憶力の減弱、或は惡心、嘔吐等も起ることがある。

それから腦神經も犯さるゝもので、嗅神經が犯されて嗅覺が無くなり、視神經が犯されて視力が減じ、甚だしきは全く見えなくなることもあれば、また夜盲症を起すこともある。動眼神經が犯されると眼瞼が垂れて開き得ぬやうになり、或は斜視を起したり、瞳孔が開いたりすることもある。三叉神經が犯されると、顏や舌の半分に知覺異常を來したり、神經痛を發したりするが、時にはまた眼球の外旋神經が犯さるゝ爲めに眼球が外方に動かなくなり、物が二重に見えることもある。腦に黴毒が起ると、頭痛、眩暈等があり、非常に憂鬱となり、睡眠が妨げられ、時には腦溢血とか血管の閉塞等の重大なる症候が突然襲來して、一時失神卒倒することもある。それからまた種々の中樞が犯されると、それに依つてまた種々なる症狀を呈するものである。例へば運動中樞が犯されると手や足が利かなくなるとか、舌の運動中樞が犯されると談話に際して舌が運動することが出來ないで、發聲が巧く行かないとか、その犯さるゝ局所に依つて種々の障害を來すものである。精神機能もまた犯さるゝものであつて、記憶力や判斷力が失はれ、その他種々なる不便な狀態を起すに至るものである。

脊髓が犯されると、矢張りその犯される局所と神經とに依つて、司つてゐるところの機能がだんだん失はれるものであつて、身體の或る部の知覺が脫失するとか、或は反對に非常に疼痛を感ずるとか云ふこともあり、また反射機能が消失したり、手や足が利かなくなつたり、直腸や膀胱が痲痺して大小便が獨りでは出なくなつたり、甚だしきは大小便の失禁と云うて、知らず識らず大小便が出てしまつたりするなど、種々悲慘なる不具癈疾的の症狀を呈するに至るものである。

血行器や神經系の黴毒は感染してから、大抵十年から十五年位たつて來るもので、卽ち四五十歲頃に起るのが最も普通である。

エロ的神經病篇

一、ヒステリー

或る年の夏、少し健康を害ねて病院生活をした時に、私は一生忘れられぬやうな、或る一つの強い印象を、頭に刻みつけられました。それは丁度私の居た向う側の室へ美しい羽根蒲團や、立派な寢具を持つて入院して來た休職陸軍將官夫人がヒステリーの發作を起した時の狂態でした。狂態といつては或は失言かも知れませんが、それは確かに一種の狂態でありました。しかも普通の精神病者とは違つて、發作の起らない時には、殆んど常人と變らないのですから、これを單に全くの病人として見逃し得られないのです。

ふとした機會に見るべからざる狂態の一部が私の眼に入つた刹那、私は『ヒステリーだけには罹りたくない』と、沁々感じさせられました。そしてこの患者には心から同情すると共に、家族の方方の心持、卽ち一家に斯うした患者のあつた場合に、如何に家庭を暗くするかを思ふ時、慄然とせざるを得ませんでした。而も婦人の多くは、殆んどこのヒステリー性格の幾分かを持つてゐるもの

であると聞かされた時に、更に考へさせられました。

併し幸な事には、結核其の他の傳染病とは違つて、婦人自身の精神的攝生、卽ち自制力と修養によつては、素質を持つ婦人でも、之を或る點までは壓へ得るものです。この意味から私は『ヒステリー』が如何に家庭の幸福を破壞する恐ろしき病氣であるかを御紹介し、以て各婦人がその幾分かを有すると云ふヒステリー性格を、出來るだけ自制する一端に供したいと思つて、一日佐多博士をお訪ねし、次の有益なお話を伺つたのであります。(太田菊子)

ヒステリーの語源

ヒステリーは極めて古い時代からある病氣ですが、文化の進歩に伴れて著しく增加し殊に現代の婦人に最も多い、極めて厄介な病氣です。ヒステリーはギリシヤ語のヒステラ卽ち子宮といふ字から來た名で、昔は婦人にのみある、子宮の疾患から起る病氣と思はれた結果、斯樣の名がつけられ、今日に至るまで用ゐられてゐるのです。ヒポクラテスの時代に、既にこの病氣に就て研究されて居り、ヒポクラテスの如きも、この病氣は婦人の生殖器の關係から起るものと考へて居た。そして年若くして夫に別れた婦人などに多く起るが、再婚するか、又は姙娠すれば比較的容易に治癒すると申して居ります。日本でも昔は癪の中にこの病氣を入れ、婦人が、突然胸が苦しくなり、息がつま

るやうな苦悶發作を起すものと、胃痙攣とを一緒にして、俗に『しやく』といつたのであります。

八〇パーセントは遺傳

併しヒステリーは、子宮とは餘り關係なくして起ることもあり、又單に婦人ばかりでなく、男子にも屢〻起ります。又生殖器の發育しない幼女にも、屢〻見る事があります。男女の罹病率は、女五人に對し男一人の割合ですが、又或る人の統計によると女七人に對し、男三人の割だと申します。之を以て見てもヒステリーと云ふ名は、不適當な譯ですが、習慣上他に適當な病名が見當らぬ爲に、今日尙ヒステリーと呼んで居るのです。之を日本語に譯して臟躁病と申しますが、一般には寧ろヒステリーの方が通俗的になつて居ります。それのみならずこの頃では『ヒス』などと申して、婦人の侮蔑的の名稱に盛に用ゐられる位であります。

このヒステリーは精神性の神經病でありまして、多くは遺傳的のもので、患者の約八十パーセントは、遺傳的にヒステリー素質を持つてゐる者です。卽ちヒステリーに罹る人の多くは、幼時からヒステリー性格といふ一種の性質を持つてゐます。

ヒステリー性格

ヒステリー性格とは感情が非常に刺戟性で、或はつまらぬ事に泣いたり、笑つたり、或は怒つたりするのです。又人や物に對しても、好き嫌ひが極めて露骨であります。

ヒステリー性格の人は、又つまらない事から人を信用したり、夢中になる程同情したりする事があるかと思へば、或はつまらぬ事から今までの信用も同情も忘れて、その人を無暗に憎んだり、嫌つたりするやうな事があります。そして次から次と新しい人を珍しがつて行つたり、或る事に熱中して寢食を忘れて居るかと思へば、又新しい事に氣を移し、前の事は顧みず、全く忘れてしまふ程氣が變り易いのです。甚だしい場合には、瞬間的に氣が變るので、今まで快活に面白く話して居たのが、急に沈んでしまつて、一語も發しないやうな事が往々あります。

又判斷力も極めて輕卒で、何事にも熟慮するといふことなく、總てが憶測的になり、疑ひ深くて、種々の事を自分で想像し、その豐富な想像力で物事を判斷する爲に、思はぬ虛言を吐く事があります。談話なども極めて感情的で、表情と形容とによつて誇大して話し、人の同情や注意を一身に集めようといふやうな態度をとり、その爲に人の感情を害したり、信用を傷つけたりする事も少くありません。

殊に病氣の時などには、一層この傾向が甚だしく、醫者に對して自分の病氣を誇大的に話し、或は自分の家族が少しも同情して呉れないやうなことを訴へ、或は不平を漏したり、人によつては曾

て本で讀んだり、人の話に聞いた容態などをつけ加へて話すので、醫者も屢〻欺されるやうなことがあります。或る患者の如きは、體溫計をお湯の中に入れて、四十度位に昇らせたのを示して、醫者の驚くのを見て、喜んだりすることもあります。又手足が全く運動不自由であるやうな態度を示し、熟練した醫者でさへも、一杯食はされる事があります。段々高じて來ると、夫ある婦人などの中には、夫の前で自殺の眞似をしたり、又は如何にも自殺を仕兼ねまじき態度を示したりすることがあります。家人が心配したり、夫が驚いて呉れると、それで滿足して安心し、自殺をやめたりする癖の方もあります。殊に嫉妬心が深くて、自分の夫の貞操を疑つて煩悶し、種々の芝居じみた事を演ずることがあるので、家族の迷惑は一通りのものではありません。殆んど外聞など忘れた行爲を平氣で致します。寧ろ自分の煩悶苦惱を實際以上に、他人に見せかけたいのが、この病氣の特徴です。

以上の性格は婦人に限らず男子にも屢〻見られる所ですが、男子になると事業の上にも、この性格を明瞭に現はします。卽ち色々の計畫をし、それが挫折するまでも堂々と門戸を張つて、人の信望を一身に集めようと、種々の奇拔なことを致します。勿論理路整然たる考への上に立つて居ないのですから、成功のむづかしいのは言ふまでもありません。

ヒステリーで面白いことは智力の上には何等の障碍も起らず、理解力も、記憶力も普通より以上

に、鋭敏になることで、奇想天外の思付をなすことも珍しくありません。

特殊の三つの障碍

以上のやうなヒステリー性格の持主が、一朝大なる精神感動を受けると、眞正のヒステリー患者になるのであります。多くの婦人は月經時には、多少の精神の興奮を見るものですが、殊にヒステリー性格のある人には、之が著しく、從つて月經時には何等かの大なる刺戟でも受けると、忽ちヒステリー發作に陷り易いのです。且又月經閉止期の婦人も、極めて本病に罹り易いものですから、少しでも以上述べたやうな性格を有する方々は、特に精神修養に努めて、自分は勿論家庭全部を眞暗にし、全家族の幸福を根柢から覆す樣なこの厄介な病氣の御見舞を受けぬやうに自制して戴きたいと思ひます。

愈〻ヒステリーを起すと、前述の性格が一層激しくなる外に、急性の種々の特徴ある病的症狀を現して參ります。それを大別致しますと、知覺障碍、運動障碍、精神障碍の三つであります。

知覺の障碍として最も多いのは激烈なる頭痛で、恰も釘を頭に打ち込まれるやうな痛みに苦しめられ、又處々に不定の神經痛を起す事もあり、半身の知覺が過敏になり、或は痛みを覺える事もあります。又この反對に知覺の痲痺を來して、手や足や頭の一部が痺れたり、或は臭がなくなつたり、

目が見えなくなつたり、耳が聞えなくなつたりする事もあります。

運動の障碍としては、處々に痙攣を起して手が攣るとか、足が攣るとか、顏面の一部分が攣ると か、舌が攣ることがあります。或はその反對に身體の一部分に痲痺を來して、手足が利かなくなつたり、聲が出なくなつたりする事もあります。私の診療した患者で、右半身の運動が全く不自由になり、同時に知覺も冒され、その右側の皮膚に熱い燒火箸を當てゝも針を立てゝも、氷をつけても一向感じがなく、目は見えず、鼻も臭ひが利かず、その鼻の中に紙捻を通しても嚏も出ません。舌も片側は味が分りませんから、その方に苦い藥や唐芥子を塗つても平氣です。耳も勿論聾になり、右の手に物を持たしても丸いか、四角いか、軟いか、硬いかゞ分りません。立たして見ても右側の片足では立つ事も出來ぬやうな有樣でした。甚しくなると斯うした身體的症狀も來るのです。

見るも殘酷な大發作

更にこの上にヒステリー症獨特の、ヒステリー性の發作を起すのです。これを素人の方が御覽になつたら、全くの狂人としか思へないのであります。この發作は患者が何か一寸した事で氣持を惡くでもしようものなら、すぐ起るのです。下腹部から護謨毬のやうな球がくる〳〵と胸の方へ上つてくる樣な氣持を感じ、それが咽喉まで達すると咽喉を締めつけられたやうな氣持で、呼吸が出來

ない樣な氣持がして急に倒れるのです。この球はヒステリー球といつて、實際には存在しないものを、實際に込み上げる如く感ずるのが、ヒステリーの特徵であります。

次で手足の痙攣を起し、それが段々强くなると、手足は强直してつゝぱり、甚だしい場合には、全身が弓のやうに反つて、頭の先と爪先とで身體を支へ、半圓形を作ることになります。痙攣が二三分も續くと、次に表情運動や感情を示すやうな姿勢を取ります。卽ち泣いたり、怒つたり、笑つたり、或は神を祈るやうな表情などを致します。又種々のものや景色が眼前に見えるやうな樣子で、その對象物に對する感情の表現をします。この感情運動が段々下火になると、今度は意識が朦朧となつて種々の獨語を、恰も人と對談するやうに又は演說するやうな調子で始めます。それが一しきり濟むと順次に朧げな意識がだん〳〵と回復します。この發作全體をヒステリーの大發作と申しますが、之程の大發作は極めて少く、大抵の場合は大發作の一部分宛を、切れ〴〵に演出するのが普通であります。

斯うした場合に醫者はよく注射をするのですが、餘り度々發作を起す場合など、藥液でなく蒸溜水の注射をしても發作は止むことがあるのです。これはこの病氣が神經性のもので、唯醫者が來て注射したと思ふと、それだけでもう治つてしまふのです。所が萬一信用しない醫者であつたり、患者が望んで居ない代診などであらうものなら、何んな妙藥を注射しても、中々利かないことがある

のです。もと〳〵前にも申しました通り、神經性の病氣であるだけに他の病氣よりも、一層強く感情が手傳ふのであります。

朦朧狀態時の二重人格

この他ヒステリーには千種萬態の不思議な病的狀態がありますが、興味ある問題は前述の朦朧狀態の時です。この時は周圍から見ると病的とは見えず、もう全く治つて居るやうに見えますが、この時に靈妙不可思議な行動をし、覺めて後には自分で全く知らない事があります。例へば自分の子供を殺したり、或は放火するとか、或は竊盜することなどもあり又この狀態ではよく二重人格を現し、平素の人格と全く別種な人格を示して、不思議な事を致します。それは無學な女が到底平素は知る筈もない外國語を話したり、或は學者のやうな議論をしたり、或は全く知らない歌を唄つたり、又踊つたりするのです。

併し覺醒すれば再び元の人格に歸り、第二の人格で演じた事は、全く知らない事があります。これ等も平素誰かの話を聞いて居たのを知らぬ間に感受して、それが潛在意識となり朦朧狀態に入るとそれが發現して來るのです。彼の有名なジャンヌ・ダルクの如きも恐らくヒステリー性の朦朧狀態時に於て、勇敢なる男性的の性格に變じ、一軍を指揮して自ら陣頭に立ち、敵軍を突破したもの

と思はれますが、これも二重人格の現出で、元の人格に歸つた時には、全くの田舍娘として何事もなし得なかつたといふ事です。

豫防法としては家庭の圓滿

そこでこのヒステリーの原因でありますがこれは一番初めに申しましたやうに、先天的にヒステリーの素質のある所へ、何か大きな精神感動が誘因となつて發病するのです。又大きな精神的打擊はなくても、夫の不行跡などから起る場合が最も多いのですから、ヒステリーの豫防としては、家庭の圓滿が最も大切です。併し假りに圓滿が缺けるやうなことがあつたにしても、自分がヒステリーに罹つた場合の恐ろしさを考へ、出來るだけ自制して行く樣に心がける事が必要です。

一面にはヒステリーは不平と不滿からも起る病氣で、猜疑心が深くなり、全く人の同情を失ふやうな言語を發し、擧動をする場合が多い爲、家族の同情さへ失ひ易いものです。それで甚だしいのは離婚されたりするので、病勢は愈〻亢進して、厭世的の自殺をするもの又は自殺の眞似をして誤つて死ぬ者も尠くありません。新聞の三面記事などにも、始終ヒステリーの爲の自殺未遂は見受ける所です。

併し如何に重症のヒステリーでも、治療法一つで全治し得るものですから、家族の人達も、之を

單に侮蔑的の態度で冷遇せず、出來るだけ精神を和けるやうに慰安し、不安の念を去らせるやうに努め、十分の醫療を加へて一日も早く病苦から救ふことにしなければなりません。このヒステリー性格が遺傳したり又亢進したりしては、その爲に一家は勿論呪はれて暗い運命に泣かされ、種々の人世悲劇を演ずる事になりますから、患者も家族も共に十分の注意を要します。

二、やきもち

オセローの嫉妬

千軍萬馬の間を往來した勇敢なる將軍として、ヴエニス守護神のやうに人々に崇められ、如何なる不慮の禍にも耐忍び、堅固な意志の力を以て打勝つて行く有德の人、武人の典型と讃へられた將軍オセローも、惡辣なるイヤゴーの奸計に謀られて、愛妻デスデイモーナと自分の副官であつたキヤシオとの關係を疑ひ、一片のハンケチから恐ろしい誤解をして嫉妬の炎に身を焦した。遂に『愛するが故に憎み、愛するが故に殺し、殺してからも愛しよう！』と殘忍な微笑を頰に浮べながら、オセローは白百合のやうに淸く愛らしいデスデイモーナを一氣に刺し殺した。

やがてイヤゴーの奸計が曝露して、キヤシオとデスデイモーナとの間が淸淨潔白、何等の關係のない事が明白となつたとき、恐ろしい誤解から、最も淸いものを呪ひ、最も邪惡なる者を信じて、最も愛するものの生命を奪つたオセローは我と我が身と心を責めて極惡無上の惡魔！　殘忍狂暴な大罪人として我を呪ひ、我と我が胸元に短劍をグサリと突き刺して、大理石の像の如く橫はれる愛人デスデイモーナの死體の上に折り重つて息を引きとつた。

× × ×

これはシエークスピアの作、オセローの梗概で、嫉妬から起つた世界的不朽の悲劇である。嫉妬は戀の三角關係に於ける必發的副產物である。

嫉と云ふ字がある。訓はナブル、タハムルとなつて居るが、これは昔の訓ませで、現代では三角關係を意味し、ヤキモチとでも振假名をつけるがよいと思はれる面白い文字である。

鬼熊の嫉妬

それはさておき現代――而も大正十五年の暑い夏に嫉妬から起つたオセロー以上の慘劇、悲劇を千葉縣下（痴話喧嘩）で演じ都下新聞の三面を賑はした人氣者、鬼熊の一代記を醫學的に觀察して見ることにする。

鬼熊の智力は尋常四年まで行つて假名が漸く讀める位であつたが、人に無筆といはれると怒つた。性質は愚直鈍重、主人には忠實、仲間には義俠的で、他人の事を自分の事以上に力瘤を入れたり、喧嘩の仲裁をしたりするので村人からは一面可愛がられて居た。

三十五歳の彼は、五人の子供を生ませた女房と、平和な家庭を送つて居たが、二本松茶屋のお春を見染めてからは、分別盛りの年にも似合はず、女房子供の事も忘れて、無理算段の金でお春を身請けした。然しお春は何時の間にかドロンと消え失せてしまつたので、熊は血眼になつて捜しながらヤケ酒に其眼は益々兇暴の炎に燃えた。そして一人の女に逃げられたのに懲りもせず、女房子供のあるのも知らぬ顔に又もや高津原の酒屋の娘に惚れて、現をぬかした。然しこの娘にも男があつたので、嫉妬の炎に燃えて、ウナギ几丁をふりかざして娘と男の密會してゐる現場に飛び込み二人を脅迫して手を切れと迫つた。そこで駐在巡査に捕はれて脅迫罪に問はれたので巡査を恨んだが、村の有志の盡力で刑は執行猶豫となり、祝酒をあふつて、好い氣持になり酒屋の娘の處へ行つて見ると娘は例の男と巫山戯て居るので、熊の頭はグラ〳〵として傍にあつた薪の棒に嫉妬の力を込めて娘を敲き殺して仕舞つた。男は無念にも其の間に逃失せたので、狂へる熊は酒屋の娘と男との仲に入つた人の家に一走りに飛んで行つて火を放つた。嫉妬と憤怒の炎に燃える家を跡にして、恨んでゐる巡査の駐在所に馳け込んでサーベルを盗み、拔身を振りかざしながらお春を逃がした家へ飛

びこんで、そこの親爺を一打に殺してしまつた。二人の殺人！　放火！　に村中は沸きかへる騒ぎとなつて追手が迫ると熊は之に斬りつけたが、劍道の達人である刑事の爲に無念にもサーベルを奪ひ返され、慌てゝ密林内に逃げ込んでしまつた。そして四十二日の間、數千人の山狩りと十萬圓の捜査費用も何の得る所なく、却つて更に巡査一人が殺されてしまつた。

そして鬼熊は其兄がひそかに因果を含めて自殺させようとしたが、非を悟らず、頑として戀仇を打たねば止まない決心に、實兄は無念の涙をのんで、飯の中に毒藥を混ぜて遂に毒殺し、自殺の態で先祖の墓前に往生させたのである。

鬼熊は痴愚症

前述した彼の一代記を考察すると、生立ちから尋常一樣の普通人ではないことが分る。假名も漸く讀める位なのに無筆と云はれる事を非道く憤慨したといふのは、其性質が傲慢で自尊心が強く、己の愚を辨へる自省力が缺けて居た事を示してゐる。喧嘩の仲裁などをして一面義俠的なのは別に理解があるのでなくて、單に人にオダテられヤンヤと言はれたい幼稚な自慢の情を滿足させる爲である。而して平常は言語動作にも別條なく普通人と異つた樣子もなかつたが、茶屋女に溺れると全く常識を失ひ、自我心に強く復讐の念に前後の分別もなく、豫期せざる大犯罪を連發的に決行して更

に止まず、四十餘日も山に逃れ野に伏し里人を脅迫しては食を得、官民協力苦心奔走して捜査するにも係らず、何等反省する所なく悔悟するの念更に浮ばず、益ゝ利鎌を振つて巡査を殺し、徹頭徹尾戀敵をねらつて止まず、實兄が因果を含めての説得にも耳を藉すことなく、執拗頑固なる自己中心主義を持して應じなかつた爲に實兄は涙をのんで彼を毒殺したらしい。

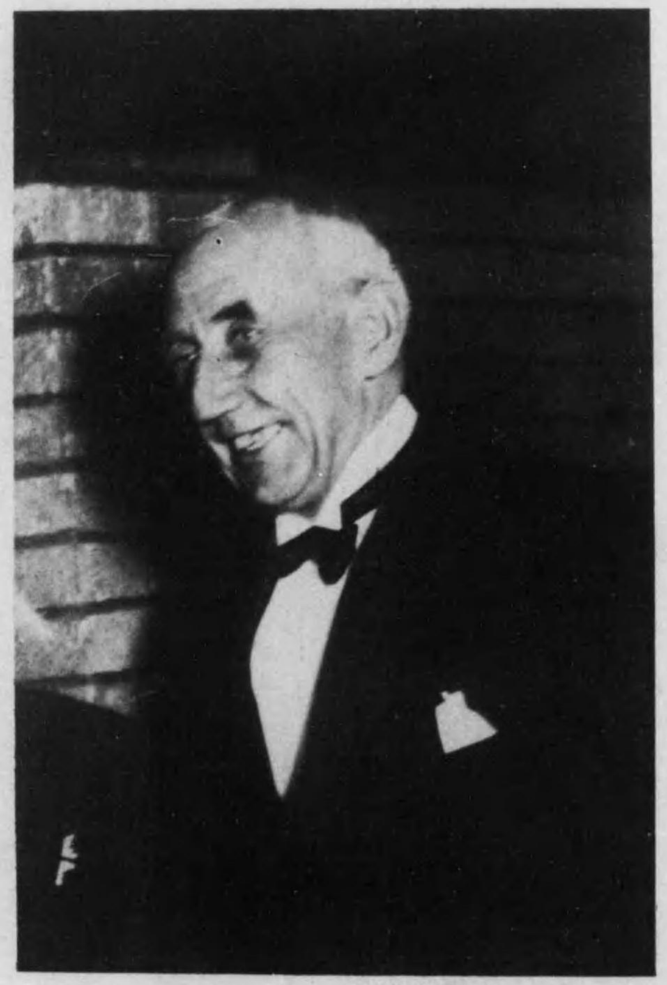
これ等の考察によると彼は精神病學上でいふ痴愚症（インベチリーテート）にあらざるやを考へさせられるので、彼の非凡なる嫉妬振りは全く病的のものであると首肯されるのである。

嫉妬の心理學

『人類一切の道德、その他の精神現象の根本は性的渴望にあり！』

これはウインナ大學の精神病學教授ジグムンド・フロイド一派の精神分析學徒の主張である。人間の道德生活の根本である愛は全く性慾に基くものであり、いろ〳〵の不道德な行爲及び精神變調は性慾の抑壓に基因するものであると彼は説いてゐる。

人は生れながらにして愛慾の情を持つてゐる。赤ん坊の熱烈な愛慾は、卽ち母の乳房に吸ひつくことである。赤ん坊が乳を吸ふのを見てゐると、一つの乳房に渾身の力をこめて吸ひついて乳を味ひながら、片手では外の乳房を弄んで樂しんでゐる。それは全く幸福の絶頂、エクスタジーの狀態



征極王アムンゼン

アムンゼンの鼻は征服鼻である。鼻の上部が隆起して小山を形成してゐる。眉間より高く聳ゆる其の偉大な鼻を見よ！

征極王アムンゼン

正面

右側面

である。若しこの時これを傍から妨げ、乳房を奪はうとするものがあれば、赤ん坊は非常に憤怒して極力これに反抗を試みる。自分の專有物を他に奪はれないやうに保護をしながら、自分一人で幸福を味はひ、滿足を得ようとするのである。卽ち赤ん坊の愛の對象は乳房―母（マムマー）である。その乳を吸ふ時に、他より入る邪魔物に對して反抗を試み、不興な顏をして泣き爭ふのは卽ち嫉妬の起源である。

既に人間に赤ん坊の時からやきもちの感情を培はれてゐるのであつて、漸次長ずるに從つてこの嫉妬と云ふものは、種々の精神發育につれて膨脹擴大するものである。そして一番この嫉妬の情の强いのは婦人の思春期である。

嫉妬の情は、愛情に故障の生じたと思ふ時に、その故障を起したと思ふものに對して極力反抗的な態度をとつて、愛情を不變に滿足しようとする一種の情緒である。つまり愛情の反對的情緒である。愛情が深刻なる程、何か故障が生じた場合には、嫉妬の情はその故障の力に比例して猛烈になるものである。

而して嫉妬の起る場合を調べて見ると次の二つになる。

（一）自己の愛せんとするものに對して他のものが愛情を及ぼす場合。卽ち競爭者が出來て横取りされんとする場合である。

(二)自己の愛せんとする者が、他のものを愛しようとしてゐるとき。即ち移り氣が生じ、自分にあき風が立ちそめた時である。

ロンブロゾーやフエレロ等は、二人の年若い婦人の友情が如何に堅固であつても、嫉妬の力には到底及ばない、非常に仲のいゝ婦人同志でも、一旦嫉妬の情が二人の間にきざす時は、今までの姉妹も及ばない情愛も忽ちひゞを生ずるものであると喝破した。

嫉妬の犯罪

かやうに嫉妬の情は猛烈な愛情の變化したる反對の情緒であるために、しば〳〵嫉妬の僞に理性を失つて、全く豫期しない種々の犯罪が起つて來る。帝國統計年鑑によつて嫉妬による犯罪を調べてみると、およそ次の樣なものがある。

(一)殺人罪＝すべての殺人罪の中で、その原因を調べると憤怒が第一で、次が癡呆の結果、嫉妬は第三位である。

(二)放火罪＝放火罪を犯すものの第一は痴愚者、即ち精神薄弱のものが面白半分に行ふもので、第二は怨恨、第三は憤怒、第四位が嫉妬である。

(三)傷害罪＝傷害罪の原因では嫉妬は第六位にある。

(四)脅迫罪＝これも嫉妬は第六位にある。

その他嫉妬の僞にはいろ〳〵の犯罪が行はれるが、かやうな罪を犯す程度の猛烈な嫉妬は普通人の精神狀態では少くして病的即ち精神病にある嫉妬妄想に由來して犯す罪が最も多いのである。

精神病の嫉妬妄想

そこで、嫉妬を分けると生理的嫉妬と病理的嫉妬の二つに區別されるが、嫉妬を生ずる原因が實在して起るものが普通の嫉妬で、即ち生理的嫉妬である。それに反して嫉妬を起すべき原因がないのに、一種の病的疑念の僞に自ら嫉妬の原因を捏造して幻影を追ひ、猛烈な妄想を生ずるものがある。これが精神病患者の嫉妬妄想であつて、生理的妄想ではさほど恐ろしい出來事は起らぬが、精神病者の嫉妬妄想では全く豫期せざる種々の不祥事が起るのである。次にこの精神病の嫉妬妄想の實例を擧げて見よう。

馬丁と少將夫人との姦通？

日露戰爭に從軍して戰功の顯著であつた或る陸軍少將がある。この人がある夜半、突然軍刀を拔き放つて夫人の寢室に飛び込み、目をいからし軍刀を杖にしながら、驚きあわてゝ起き上つた夫人

を捉へて『今こゝで不埒を働いてゐたのは誰だ？　何處へ逃げて行つた？　何處にかくしてある？』と怒鳴りながら夜具を引きはぎ、押入れを押開き、室内隈なく探しまはつて暴れ狂ふので愈〻驚いた夫人は如何なる理由で夫がこんなことをするのか全く解し得ないので、家人を呼び起し、怒れる夫を漸くとり靜めていろ〳〵と機嫌をとりながら様子をきいて見た。

すると少將の云ふのには『妻が夜半自分の目をぬすんで姦夫を寢室に引き入れ、喋々喃々ふざけてゐるのが聞えたので、その姦夫を殺さんがために軍刀を拔き放つて寢室に飛び込むと、何時の間にか姦夫は姿をくらまして見えない』と云ふのである。それは夢であらう、無實の事であると説明しても聞き入れないで、强情に執念深く夫人を拷問するのであつた。然しその場はいろ〳〵と家人がなだめてをさまつたが、その後突然二十年來使つて來た馬丁に解雇する旨を云ひ渡した。寢耳に水の馬丁は呆氣にとられて、如何なる理由で解雇されるのか更に覺えがないから多分冗談であらうと思ひ笑ひながら、主人に『脅かしてはいけません』位の調子で對してゐた。するとその馬丁の不眞面目な、主人を輕蔑した様な態度にいたく憤怒して『この場からすぐに立去れ、今後は我家に一歩も踏み入れる事は許さんぞ！』と怒鳴りつけて、遂に追ひ出してしまつた。

馬丁は勿論、少將の家族の者も更に其の理由を知らないので驚いてゐたのであるが、先夜の軍刀騒ぎ以來別に變つた様子もないので當時シベリヤ出征問題のある時であつたから何か軍事上の秘密

でもあつて、その爲にこんな事をするのであらうと思つて機嫌をそこねない様にソッとしておいた。すると或夜中、少將は再び夫人の寢室に現はれて『今馬丁がこの室に忍んで來たのを確かに見たが何處にかくした？』と云ふ。そこで夫人は初めて先夜來の事が分つたやうな氣がして、夫人と馬丁が密通してゐるものと主人が誤解してゐる事を悟つたが、それが病的である事に氣がつかなかつたため、いろ〳〵その無實である事を證據を擧げて辯解し、餘りの馬鹿〻〻しさに終には腹を立てて夫の不實を恨み、六十近い夫婦が年甲斐もないやきもち喧嘩に夜中大騒動を始めた。

その後いろ〳〵な出來事で、夫人も遂に夫が精神變調を來してゐる事に氣づいて、私がその診察に當つた結果、少將は日露戰爭當時感染した黴毒が潜在してゐて遂に腦を侵し、痲痺性擬呆症といふ精神病に罹つて、嫉妬妄想を起してゐる事が判明したのである。

若き後妻の投身

昨年の夏の或夜の事、芝浦海岸から投身した年増の美人があつた。偶然發見した人が救ひ上げて色々介抱して蘇生せしめた。この婦人は或る大會社の社長の後妻であつて、その社長は昨年來腦病で私が治療して居り、この夫人はその主人が治療に通つてゐる間、いつも附き添つて病院へ來ては主人の病狀に就いて私といろ〳〵別室で物語した事を覺えてゐる。

この主人公は景氣のよかつた時代には多數の會社を創立して活動してゐたが、一方非常な好色家で妾が八九人も居た。然し不景氣風にあふられ、會社がだん〳〵つぶれるにつれ妾の數も減つてゆき、その中に夫人が病死して最も氣に入りの妾を後妻になほし、他の者はすべて手を切つて後妻一人を寵愛してゐた。後妻は先妻の息子よりも年下なのである。主人の發病と云ふのは非常な不眠症のために惱まされた結果であるが、そのために後妻はおつき合ひをして夫の不眠と共に夜伽をしなければならないのであつた。それに一番困つた事は不眠症と同時に異常な性慾昂進をかもした事である。夜となく、晝となく、間がな暇がな寵愛する年若い後妻を寢床の傍に侍らして、氣の向くままに弄ぶのを樂しみとするので、そのため夫人は夫よりも自身が心身疲勞の結果ひどい神經衰弱に陷つてゐたのである。

然し寸時でも夫の傍を離れると、夫はその行先を聞きたゞし、外出なども一人では決してさせないで、全く掌中の玉として熱愛するのであつたが、或時自分の秘書役として長年使つてゐた者を突然大阪の支店へ轉勤を命じたのであつた。それは、主人が病氣のために自宅に靜養してゐるので、秘書役がしば〳〵訪ねてきて夫人と時々言葉をかはすのを見て、二人が密通でもしてゐるのではないかといふ嫉妬の念にかられて遂に轉勤させたのである。この嫉妬觀念は益〻つのつて、はては自分の長男を別居させてしまつた。これは長男と夫人と怪しい關係があるらしいと云ふので、夫人

を息子に奪はれる事を恐れたためである。

斯樣にその嫉妬妄想は日を逐うてつのり、いろ〳〵の治療及び轉地靜養を試みたのであるが、却却嫉妬がうすらがないで、夫人は終日終夜主人の妄想による嫉妬のためになやまされ、一分間と雖も安心の出來る時間がないので、心身困憊の結果遂に自殺を決心して投身を企てたのである。夫人は救ひ上げられて意識が回復した後も、再び主人の下に歸る事は地獄の鬼に責められるよりも苦しいから、どんな事があつてもあの『やきもちや』の許へは歸らないと泣き崩れるのであつた。

これも矢張り黴毒に犯された腦病、即ち痲痺性癡呆の嫉妬妄想の結果である。

老番頭の忠實が嫉妬の因

或る石材問屋の主人公が或る日突然玄能をふりまはして番頭を撲りつけようとした。この番頭はこの店に於ける最も功勞ある老番頭であつたが、その主人公は一二年來腦病にかゝつてゐたので、番頭が一人ですべてを切りまはしてゐたのであつた。そこで大騷ぎとなつたが幸にうまく玄能の見舞を受けずに取り押へていろ〳〵調べた結果、この老番頭と主人の妻君とが密通してその商店をのつとり、主人を亡きものにしようと企てゝゐると云ふ妄想から起つた一場の悲喜劇であつた。

斯樣な姦通妄想、財產横領妄想等の妄覺は、矢張り腦黴毒の痲痺性癡呆に最も多いのである。嫉

妬による妄想及び幻覺は、全く根據のない事實無根の事を自ら虛構して生ずるもので、これがために患者自身は非常になやまされ、獨り苦惱に脅かされるため、突然全く豫期せざる大慘事をかもす事が少くないのである。

ヒステリーの嫉妬

婦人のヒステリーに於ては又よく嫉妬を起す事がある。殊に子供のない中老婦人に多い。それは今まで主人を眞面目な人に思つてゐたのに、何かつまらない事から主人の素行を疑ひ、それから色々と疑念が增して、益ゝ色めがねで主人を監視するやうになり、主人がやさしくすれば、他に女があるために自分の罪を消滅せしめようとして己れの歡心を買ふものと邪推し、主人が小言を言へば自分を邪魔者にすると考へ、夜宴會に出ると藝者と惡ふざけばかりするものと思ひ、家の女中にやさしい言葉をかけても女中に氣があるものと早合點する。遂には女中が主人を奪つて自分を追ひ出すたくらみであると疑つて、それがために精神錯亂の狀態に陷る事が屢ゝある。

又三角關係にある嫉妬では、多く婦人が放火罪を犯すものである。これは自分の亭主が他に女をこしらへたと知ると、その女の住む家を燒き拂ひ、同時に女をも燒き殺さうと云ふ心からしば〳〵犯すのである。全く愛情が純であれば美しいものであるが、一度それに不純な痴情がわだかまる

と、佛が轉じて鬼となり、豫期せざる恐ろしい犯罪を犯す場合が少くない。

黴毒と嫉妬

クラフト・エビングと云ふ神經病の大家が、嘗て『シヴイリザチオン（文化）は卽ちシフイリザチオン（黴毒化）なり』と喝破した事は前にも述べたことであるが、事實文明の高い國程黴毒が多く、又一國にしても榮える時に最も黴毒が多いのである。近代の文化は夥しく黴毒の蔓延を示し、日本に於ても益ゝその數が殖えて、大正年間の開闢以來の大景氣は、又日本に開闢以來の黴毒蔓延を來した感がある。それが爲に黴毒に依るいろ〳〵の疾病が增加し、殊に前述の嫉妬妄想を起す癲痫性癡呆の數が益ゝ殖える傾向があるのは實に慨嘆の至りである。

眞面目なる、圓滿な家庭に於て黴毒の侵入する原因がなく、不眞面目なだらしのない家庭に於ては黴毒の侵入が多い。つまり夫婦間に、嫉妬を起すやうな問題のある所には必然家庭の紊亂、夫の亂行、或は妻の紊亂の爲に黴毒を伴ふことが多いと云つてもいゝ位で、病的嫉妬は黴毒に基因する變形的情緒、黴毒に侵された腦の精神變調と斷定してもよいかと思ふ。

優生運動上、黴毒の撲滅、嫉妬の消滅は人生の幸福上、人種改良上先づ第一に旗を揭げて試みるべき事である。

三、パンドラの玉手箱

カチューシヤ可愛や

『綺麗に撫でつけた光澤のある彼女の黑髮、スラリとした華奢な姿態、生娘らしいフツクリとした胸、それらを包んだ襞のある純白の衣、サツと赤く染めた若々しい頰の血潮、おづ〳〵した侵しい黑い瞳――その他彼女の一切の容姿はたゞもう、處女の純潔な、神聖な愛そのものであつた』

とトルストイはカチューシヤの可愛い處女の誇りを讃美して『復活』に述べてゐる。

この神聖な、純潔な、尊い、處女の誇りがネフリユウドフの埒を踏み外した動物的情慾の犧牲となる時が來た。

寢卷姿のネフリユウドフは慄へるカチューシヤを抱きかゝへて女中室から自分の室に連れて行つた。『アラいけませんわ、あなた、いけませんわ』とカチューシヤは小聲に云つた。

それから少し經つて、彼女はビク〳〵慄へながら默つて自分の室へ戻つて行つた。此時既に彼女の處女はネフリユウドフの爲に蹂躙されて、永久に失はれてしまつたのであつた。

『これを上げるから！』さう云つてネフリユウドフは其の翌日、出發の前に百圓札を封入した袋をカチューシヤに握らせた。

彼女は頭を振つて彼の差出したその手を强く突きのけた。

『イヤ、たゞ、取つてお置きよ』と彼は呟いて夫れを彼女の胸のカクシに差入れたので、彼女は顏に火のついたやうな思ひをして、何とも云へない淺ましさを覺えながら、叫き〳〵自分の室へ走つて行つた。

かくして處女を失つたカチューシヤのその後の數奇な運命はどうであつたか？

未來には光りのある希望の星が輝き、行く手には歡樂の樂園があるやうに思はれて、夢の樣な樂しい日を送つて居た可憐なカチューシヤも、處女を失つたその時から凡ての物事が無意義になり、未來は暗黑となり、行く手には惡魔が手を擴げてゐる樣に思はれた。實際に於てカチューシヤの半生は全く呪はれて墮落の渦卷の中を泳ぎまはらねばならなかつた。

パンドラの玉手箱

希臘の神話にパンドラの玉手箱と云ふのがある。ヂユピター神がヴアルケインに命じて造らした、美と喜とを永久に味はしめるためにパンドラに一つの玉手箱を與へて、『この蓋は神の許しを得ずし

て猥りに開くべからず！』と嚴かに命じた。この世の美と歡樂とを一身に集めて、パンドラは愉悅と希望に充ちた日を續けて外に何の屈托もなかつた。タヾ何時も氣になるのは玉手箱の中の秘密であつた。『開くべからず』といふ神の嚴命に背いて、遂に彼女はその蓋を破つて玉手箱を開いた。然るにそれ迄夢にも知らなかつた不安を急に覺えた。それからは懊惱、苦悶、焦燥、失望、悲觀、あらゆる人生の憂苦がパンドラを襲つて來た。

パンドラの玉手箱を私は處女の純潔を譬喩するものと考へたい。神聖にして猥りに犯すべからざる處女の純潔を秘めた可愛い玉手箱は處女の『子宮』を意味し、破るべからずと戒められた蓋は『處女膜』を指すものと解說したい。

神の許を得ずに猥りに小箱の蓋をあけると忽ち處女の純潔は失はれ、そこに悲劇の幕は切つて落されるのである。

處女を失ふと頸が太る

ローマの古代に於ては、結婚の夜、お開きになる前、花嫁の頸に糸を卷いて其の太さを測り、翌朝再びその糸で花嫁の頸を測り比べて見る。若し頸の周圍徑が增加して居たら、花嫁は處女であつた證據として喜んだ。

南部フランスでは、これと同樣の風習が近世まで行はれ、伊太利の或地方では今尙行はれてゐるといふことである。

處女を失ふと頸が太る！　ソンナ馬鹿なことがと思はれるが、後章に述べる醫學上の解說を聞いては誰しも文句がなくなる。古代ローマの人は現代醫學を超越した實驗を一つの慣習としてゐたのである。

異性に接すると聲が變る

處女の音聲は極めて高調で澄んでゐる。然るに一度異性に接して處女を失ふと其の音聲は低調に變じて少し濁つて錆びてくる。この事實は希臘の古代に於て信ぜられ、マルチュアルといふ人は女の謠ふ音聲を聞いて、其の調子によつて處女か否かを區別し得たと傳へられる。

又哲學者デモクリットの如きも、今まで『ミス』と呼んで居た婦人の音聲の調子が急に變化したのに氣付いて『マダム』と呼び直したといふ逸話がある。

マグヌスといふ人も毎日その書齋に酒を運ぶ女中の聞き慣れた聲が、或日急に變つてゐるのに氣づいて、異性に接したことを看破したことがある。

破瓜すると腋臭の臭が變る

醫聖ヒポクラテスは二千三百年の昔、純潔なる處女の腋臭は男子に快き感じを與へるが、破瓜された女性の腋臭は一種云ふべからざる臭に變じ、牡山羊の樣な臭氣を帶びるやうになる。殊に結婚して間もない女に於て一層其の臭氣が強いことを說いてゐる。

雛妓が水揚すると肉體美を增す

新橋の名妓ソレガシの經驗談に曰く『藝者が水揚げすると、急にその身體が綺麗になります。一目見ても男を知つてるか、どうかは其の姿勢ですぐ分ります。水揚した藝者は、美人と云ふ程の顏でなくても、顏の血色が艶々しくて、肩が圓くなり、胸がフツクリと、お臀が大きくなり、身體に油がのつたといふ樣に目立つて綺麗になります』これは欺かざる名妓の多年多數の實驗談である。

彫刻家小倉右一郎氏は或る婦人雜誌に『女性の肉體美と粉飾美』といふ題下で『女性美の極致は處女が男性を知つて初めて發揮されます。處女が男性を知つて男性との性的生活を營む樣になつてから二三ケ月乃至五六ケ月の間に女性美の極致が發揮せられるのであります。かのフランスの大藝術家、ロダン翁などもさういつて居られます。……處女の肉體は男性を知ることに依つて、著し

欠

増して血色が佳良となり、肌觸りがよくなり、毛髪が光澤を增してくる。且つ甲狀腺が興奮すると其の近くにある聲帶に影響を及ぼすから音聲の變化を來すのである。甲狀腺腫パセドー氏病の如き甲狀腺に病變を來すものに音聲の變化を認めると同樣である。その他の分泌腺にも異性精分を混じた血液が刺戟を與へて變化を來すべきは明であるから、二千三百年の昔ヒポクラテスが處女を失つた女性の腋臭が牡山羊の如き臭を發するといつたことは首肯れる。卽ち腋窩腺が刺戟せられてその分泌を增し、且つ處女時代の分泌と異つて、異性臭を混じた牡山羊の臭を發することは不思議でないことになる。

處女が異性に接して一度破瓜されると、パンドラの小箱の蓋たる處女膜は破られ、內に受けた男性精分は血液に吸收されてその血は純潔を失ひ、不純の血液の刺戟によつて女子體內の各種器官は其の機能に一大變調を起し、僅かに一回の合衾によつて著しく肉體的變化を起すものであることは以上の觀察によつて明かである。一度汚された血は遂に其一生涯洗ひ淸めることは出來ない。

處女を失つた血淸の奇現象

處女を失つた女性の血淸を採つて男性の精子に注ぎ、之を顯微鏡下に覗くと、そこに不思議な現象が展開される。卽ち活潑に運動してゐた、男性精子はその活動を停止し、次で精子は破壞せられ

欠

て、女性血清の中に溶解する。然るに此の奇現象は處女の血清によつては毫も認められないのである。

墺國の醫學者ワルドスタイン、及びヱクレルの研究によれば、動物に交接せしめて雌獸の血清を檢査すると、接觸後早きは數時間、遲くとも二十四時間の後には、雄獸の精子を分解せしめその蛋白をペプトーン又はアミノ酸に變化させる特殊の酸酵素（フエルメント）が現出する。この現象は雌雄交接の外、人工的に注射した場合にも起るのである。この血清中の精子溶解作用を呈する特殊の物質はスペルマトキシン精子毒と名づけられるものである。

チブスに感染するとチブス菌の毒素に對する防禦物質が血液內に出來て熱が出る。一度チブスに罹つた人は二度と感染しない。卽ち免疫性を得ることは現代の素人も知るところである。これと同じ樣に女性の血液內に男性精子の成分が吸收されると、之に對する防禦素といふ物質が形成せられて、其の侵襲に防禦の準備をする。それが爲に顯微鏡下に現はるゝ處女を失つた女性の血清の男性精子溶解の奇現象が表はれるのである。

若し頻繁に女が男に接して、男の精子を過分に受け、血液中に過分に男子精分が吸收される、と女の血淸中には過分に精子溶解素が出來て、常にその血液は精子溶解力が强い爲に男子の精分を其生殖器官內に受けても之を溶解せしめて殺してしまふことになる。女郎、賣笑婦、淫亂女の如き

が姙娠することなきは、性病などの感染も關係あるが、又この男性殺滅力旺盛なることに基因するものと考へられる。卽ち男性免疫になつてゐるものと解說すべきである。愼むべきは淫亂である。

婦人の貞操を尊べ

處女の肉體は淸淨、無垢、純潔なること女神の如きものである。然るに一度異性に接すると其の肉體內に大變動を來して、血液は不純となり、內臟器官はその機能に變調を來し、其の肉體は外觀的に變化を認める。而して一度瀆された處女の純潔は之を淸めて、昔にかへすことは生涯永久に不可能である。

女子の貞操を尊ぶべきは玆に所以する。ヂユピター神が『神の許しを得ずして、猥りに開くべからず』と戒めて與へたパンドラの小箱の蓋の價値は絕對に神聖にして偉大なるものである。永久につぐなひ得ざる破瓜の罪は、神の許しを得ずして猥りに犯すべからざるものであることは醫學的に明瞭に解說し得られた。猥りに處女の誇りを失ふなかれ。猥りに貞操を賣るなかれ、猥りに男性は處女を瀆すなかれ、猥りに女子の貞操を蹂躪するなかれ、猥りに女性を玩弄するなかれ。良き種子を選んで、神の許しを得て、和合の道を開拓するは優生學のモツトーである。

四、處女と童貞

童貞を破つた男性

男子が童貞を破つた場合に於ては、婦人の處女を失ふやうな身體の變化はない。これは婦人は受動的で、男子の精分を自己の體内に受納するため、それが吸收されて諸多の變化を起すのに反して、男子に於ては能動的なために、婦人より肉體的に變化を及ぼす樣な影響を被らない。しかし精神的には童貞を破つた爲、必ず變化を起すものと思はれる。

男子が男性を帶べるのは睾丸の内分泌によつて起るものである。春機發動期以前に睾丸を摘出すると、成育しても男性の體質及び性質を備へずに、婦人に近い柔弱な體質性格を持つものである。昔支那の宦官が婦人の樣な性質だつたのは歴史的に明かな事實である。

男子に於て春機發動期に到れば、先づその聲が變り、體格が筋骨逞しく男性的になり、口髭が薄く生えはじめる。顔面には脂肪の過多のためによくニキビを生ずる。これ等の變化はすべて、睾丸の内分泌物男性ホルモンにより起る變化であつて、婦人に接したとて肉體的には特に著しい變化

は起らないもの丶樣である。

童貞と處女

女と男との間には前に述べたやうな差異があるが、女子の處女の純潔は、全く神に授つた寶として尊ばれ、これを一旦失ふときは、全くとりかへしのつかない、一生不純なものとなるのである。而して男子の童貞のあまり尊ばれないのは、これを失つても女の如く著しい變化を肉體的に來たさない爲ではあるまいか。

以上の樣な醫學的觀察をしなくとも、自然に人類は、全くの未開、野蠻の時代から女子の處女性は、神聖視され、女自身もこれを失ふことを恐れ、男子も亦これを奪はれた女性には敬意を表さない習慣が續いたものと考へられる。現在未開の野蠻人の間に於ても、やはり婦人の處女性は尊ばれる風習がある。」

五、男女學生の同性愛

戰國時代の遺風たる男色

美少年を見ては誰でも好感を抱くのが普通であつて、殊に思春期にある青年が未だ女性に接する機會を有せず、又これを禁斷されて居るやうな場合には、殊に美少年を見て、恰も異性の美に憧憬れると同一の立場から、一種の友情卽ち同性の愛情を感ずるものである。從つて學生の寄宿舍生活の間には、同性愛の事件が屢〻起つて教育界の問題となることがある。殊に或る地方の如き戰國時代の遺風濃厚の處では、青年時代には女性に接することを一種の恥辱として盛んに男色が流行し、中學あたりでは今なほこの惡弊が殘つてゐるやうである。この地方から東京或はその他の地方の中學に學生が轉校すると、この同性愛の惡風を發揮して、他の學生に感染せしめ、學校の氣風を一變せしめたといふやうな事件もあつた。

美少年の美の憧憬

同性愛といふのは、これを二樣に觀察することが出來る。その一つは前述した思春期の青年が美少年の美に憧憬れて、自然に愛情を覺える爲に起るもの、或は青年同志が親交を誓つて友情濃厚なる爲に、變じて愛情を感ずるやうになる場合、又は僧侶或は囚人の如き種々の拘束を受けて異性に接する機會を得られず、禁慾生活が遂に爆發して同性愛を覺える場合等である。これらは生理的自然の愛情が、境遇によつて同性愛を餘儀なくさせられるものである。戰國時代或は戰爭當時、又は軍隊生活に於ては、同性愛が必ず起るもので、我が國では戰國時代の餘波として德川時代には盛んに男色が流行し、これによつて異性に於けると同樣の三角關係、嫉妬、双傷、その他の悲劇を起したものが少くない。この時代には西鶴の男色に關する種々の著述が流行し、又芝居があり、江戸にはカゲマと云つて美少年の淫賣屋があり、武士僧侶等が盛んにこれに溺れた事實が澤山ある。

日本のみならず、歐米の大都市に於ても男子淫賣者があることは事實であつて、露都レニングラード及び獨逸のベルリンに於ては、裏面にこの男子賣淫者の恐るべき流行があつてこれが防禦に警察で苦心した記載がある。

先天性性慾顚倒症

同性愛の病的に屬するものは、先天性性慾顚倒症に罹れるもので、全く病的の變態性慾から起る

ものである。又好淫者で女色に飽滿した結果、新しき刺戟を求めて男色に趣味を覺えるもの、殊に老年で性慾衰退期に入れる者が男色によつて新しき刺戟を受け、性慾を一時旺盛ならしめんとするもの、或は嫉妬を恐れるために男色に耽る等の變態性慾から發する同性愛がある。

青年間に行はるゝ同性愛も、亦先天的或は後天的に病的に起る同性愛も、總て自然に反する行爲であつて、これによつて起る種々の弊害は著しきものである。

男色の心身に及ぼす害毒

青年學生間に起る同性愛の結果、性慾を滿すことになるのは、かの自瀆による手淫の弊害より更に大なるものがある。手淫は不自然の方法によつて自己の滿足を充すに過ぎないために、自身に於ける肉體及精神上に惡影響を及ぼすに過ぎないのであるが、同性愛に於ては、兩者の間に弊害が起るので、アクチーヴとパツシーヴの何れもその肉體及び精神上に惡影響を及ぼすものである。

凡て反自然的の性慾滿足は單に瞬間の快樂を貪るに過ぎないのであるが、この自然に反した行爲に對する良心の苛責によつて著しく精神的打擊を蒙り、又これに耽れば身體的にも衰弱を來し、それがために心身の疲弊を來して、多くは神經衰弱に陷り、學業に勉むることを忘り、互に同性愛に耽溺するやうになり、遂には不良化して不良青年又は不良少年に變じ、遂に前途を過る者が尠くな

いのである。

純粹の同性愛では單に以上の徑路を辿るのみであるが、不純な同性愛に於ては一方女性に交はる傍ら、男色に耽つて、つまり兩性愛となり、婦人より感染したる性病を同性愛の男子に感染せしめ、これが爲兩者性病に惱まされて、煩悶しなければならない。或る地方では男色が流行し、一人の不良青年が花柳病を美少年に感染せしめた結果、遂に多くの男色に耽る青年に蔓延して大恐慌を來した實例がある。

義士の仇討と八百屋お七

四十七義士の仇討の裏面には、淺野と吉良の間に左近といふ美少年が居て、その競爭から恨みを抱いて、吉良が淺野に嫉妬を感じ、凡て不人情な仕打をしたのが抑々の原因であるとは歴史の物語る處である。又八百屋お七の放火事件はその情人吉三郎が駒込圓林寺の住職豪觀の念者であつたために、吉三郎とお七が火事の避難中に情を通じた事を、豪觀が知つて嫉妬を感じ、二人の離間策を講じた爲に、お七が吉三郎に會へないで、これに會ふ機會を得んがために放火したのである。

その他德川時代には、武士が殿樣の御殿で同性愛を起して殿樣から手打にされたものや、又は同性心中をなしたもの、又鎌倉の建長寺の稚兒白菊が同性愛を迫られて、世を儚み、江ノ島の海に身

を投じて、辭世の歌を殘し、稚兒淵の名を今に止めてゐるなど、同性愛によつて起つた面白からざる歴史物語が數少くない。（女子同性愛は省略す）

國によつては、法律によつて同性愛を禁じ、鷄姦を處刑する處がある位で、オスカーワイルドの如きはその好適例であるが、全くこの不自然なる同性愛は、文明なる社會に於ては一掃すべき惡弊で、古今の淫蕩史上同性愛によるものは最も醜惡なものとして、忌むべきものである。

六、夢遊病

玄宗皇帝の夢

風薫る五月の節句に、床の間で威張つてゐる武者人形は、日本歴史の童話の世界から拔け出した加藤清正、大楠公、さてはまさかりかついだ金太郎と相場がきまつてゐるが、この日本趣味のお伽の世界に只一つ甚だ日本趣味ならぬ黑鬚赤顔の異形の怪物がある。外でもない、樟腦のマークになつてをさまつてゐる鍾馗さまである。鍾馗は元來厄拂ひ、魔よけと云つた。男子の一生涯に於ける惡魔退散災難豫防の意味の飾り物であるが、その起源を尋ねると、古い唐國の物語がある。

即ち唐の玄宗皇帝が、楊貴妃の美貌に耽溺して、三千寵愛在一身とばかりに、ウツヽを拔かし、日夜の歡樂のために心身ひどく疲勞して居た。或日『春は春遊に從ひ、夜は夜を專らにす』る遊びにスツカリ疲れた身體を卓に倚せてうつら〳〵と午睡をむさぼつてゐた。すると、妙な夢を見た。それは、腰に筠扇をさした一匹の小さい鬼が、どこからとなく現れ出で、皇帝の寶である玉笛と、楊貴妃の非常に大事な繡香囊とを盜んで逃げ出した。皇帝は驚いて『泥棒！』と呼びとめ『汝、何者ぞ？』と尋ねた。するとその小さい鬼は答へて曰く『我は虚耗と云ふもの、人の愛する物を盜んでその喜びを奪ひ、憂ひを增さしむるを事とするものである』と。

皇帝はそれを聞いて意氣とみに消沈し、悲觀してゐると其處へどこからともなく破れた帽子にボロの着物を着け、角帶をしめて劍をひつさけた鬚ぼう〳〵たる一人の怪漢が現れ出で、たちまちくだんの小鬼の首筋をひつつかみ、無雜作に自分の口中へ投り込んで、忽ちパクリと一口に食べてしまつた。そして皇帝の玉笛と、楊貴妃の繡香囊とは無事に奪ひ返され、皇帝の喜び例ふるにものなく『そも〳〵汝は何者ぞ？』と尋ねられると『臣は終南山の進士鍾馗と申すもので御座る』と答へたかと思ふ間に帝の夢は破れた。ホツと胸撫で下した皇帝はあまりの不思議に直に吳道子と云ふ畫家を呼んでその夢を物語り、夢に現れた鍾馗の像を描かしめて、之を虚耗退散のおまもりとした。

この虚耗退散のおまもりが我國に輸入せられて、五月の節句の飾り物となり、鬚つ面で天をにら

んで、今尚その魁偉な姿を毎年十軒店の店頭に現してゐる次第であるが、この一場の夢物語に就て私は少々醫學的に考へて見たいと思ふ。

夢物語の分析

ウヰンナ大學のフロイドと云ふ精神病學者が、精神分析と云ふ研究を發表して、すべての神經病の原因は精神分析によつて明かにし得る事を主張し、中にもヒステリーの如きは、この精神分析によれば全く性慾の抑壓に基因するものであつて、ヒステリー患者の夢を分析するとよくその原因を究め得ると云つてゐる。

その例證の一つとしてフロイドは次のやうな例を擧げてゐる。あるヒステリー婦人が夢を見た。それは、醫者が患者の口の中に注射を試みようとすると、注射器の硝子筒が粉々に碎けてしまつて、その破片が蟲の樣にゾロ〳〵と動き出してその患者の口一杯になつた、と云ふのである。

フロイドはこれを分析して次の如く説明した。

この婦人は性慾の滿足を得られないで、非常に性慾抑壓の狀態にあつて色情が著しく亢進して居たので、夢に見た注射器と云ふのも硝子破片が蟲のやうに動いて口中一杯になつたと云ふのも、すべて性問題に關する患者の希望が夢で劇化されたに外ならないと云ふのである。

今この論法で、前に述べた玄宗皇帝の夢物語を捉まへて來て、それを分析して見ると、おそらく玄宗皇帝は、楊貴妃との戀愛生活に日夜耽溺した結果、神經衰弱に陷づて陰萎症を起し、多少憂鬱性になつてその陰萎を頗る悲觀してゐたのであらう。

夢に現はれた小鬼が奪ひ去つたと云ふ帝の寶、玉笛と云ふのは男性の象徴を意味し、楊貴妃の大事な繡香囊と云ふのは、緋裏のついた囊であつて、玉笛ををさめるものと解釋される。而して虛耗といふ小鬼が人の喜びを奪ひ、人を憂におちいらしめると云ふのは、精神を虛空となし、精力を消耗せしめて陰萎性を起させた病魔卽ち神經衰弱を意味し、この病魔を平げた終南山の進士鍾馗と云ふのはつまり神經衰弱を治す一種の興奮劑で、今日で云へば若返りの藥とでも云ふべきもの〻表徴と思はれる。

そこで、この唐から渡つた虛耗退散の鍾馗を我國で男の節句に飾ると云ふのは、卽ち男子の神經衰弱を豫防して精力絕倫ならしめ、子孫繁榮を希望するシムボルであると解釋するのが非常に興味のある科學的説明ではあるまいか。

夢遊病

夢の事では面白い話の種が澤山あるが、次にこの夢と關係の深い夢遊病の事に就て少し述べて見

る事にしよう。

神經病學の元祖とも云ふべきフランスのシヤルコー博士が、一八八八年一月三十一日に神經病の病院として名高いサルペトリエ病院の臨床講義に於て極めて興味ある病氣の實例を示した。それは一人の年若い男で、時々仕事をして居る間に突如無意識狀態となつて、十數時間又は二晝夜にも亙つて、その間に全く自分には覺えのない行動をする。そして又卒然として意識が回復すると、其の間の出來事に就ては何等の記憶も留めてゐないと云ふのである。

この患者に就てシヤルコーは種々の方面から研究した結果、全くこれは一種の病的狀態であつて、發作的に無意識の狀態に陷り、その間に覺めてゐる時と同じ樣な行動をして、發作の消失後には何等その間の記憶を呼び起さない所謂ソムナムブリスムス、卽ち夢遊病（夢中遊行症、夜遊症、睡眠病、夜中逍遙症）と名づくべきものであることを說いた。

シヤルコー以前にヨセフ・フランクと云ふ醫者がこの夢遊病に就て云つた言葉がある。『夢遊病は、その狀態が少しも睡眠と異らず、然もその間に覺醒してゐる時と同樣のことを行ふものである』と。そして彼の詩人シエクスピアの悲劇マクベスの第五幕に於て、マクベス夫人が夢遊病に罹つてその發作を侍醫が觀察してゐる場面がある。その時侍醫が言つた、

『甚だしい惱亂だ、熟睡中に覺醒同然の作用をすると云ふのは』

といふ臺詞とヨセフ・フランクの言葉とが一致して居るのは實に興味ある事である。シエクスピアは醫者にあらずして、然もよく經驗ある博識の醫學者と同樣の觀察をしたと云ふ事は、如何に彼が偉かつたかと云ふ事を示すものである。

マクベスの場面に就ては讀者諸氏もよく御存知の事と思ふが、次にマクベス夫人の夢遊病の狀態を參照して見よう。

マクベス夫人の夢遊病

マクベス夫人がマクベスを嗾かしてダンカン王を弑逆し、その劍を夫人が取つて王の家來になすりつけた時に、自分の手にも王の血がついてゐたので、良心の苛責から夢遊病中にそのことを獨語に云ふ場面がある。

× × ×

マクベス夫人夢遊病の態にて夜の服の儘燭を携へて出で來る。

侍女『あれ、お出で遊ばしましたよ。あゝ云ふ風なのでございます、たしかによくお眠り遊ばしてゐらつしやるのです。よう御覽遊ばせ。そつとなすつて』

侍醫『どうしてあの灯を手にお入れなすつたのだらう』

マクベス夫人の夢遊病

侍女『なあに、お側にございましたのよ、しよつちう灯をお側にお置き遊ばします。さう云ふお云ひつけなんでございます』

侍醫『御覽なさい、目はあいておいでですよ』

侍女『左樣です、けれどもお見えなさりはしません』

侍醫『ありや何をなさるんでせう。あゝお手を頻りと擦つておいでなさる』

侍女『あれはおきまりでございますの、あゝ云ふ風に手をお洗ひ遊ばしてゐらつしやる樣なのが、ものゝ十五分もあゝしてゐらつしやる事があります』

マクベス夫人の獨白『まだ此處に汚染がついてゐる。えゝ、いやな汚染が消えちまへと云へば……此處にまだ魚の臭ひがする。アラビ

ヤ國中の香料を使つたつてこの小さい手の厭な臭は消されさうにない』

侍醫『この病氣はとても私の力には及ばない。睡眠中に歩いたもので、尋常に床に果てたものもありますけれど……常軌を逸した惡行は兎角常軌を逸した惱亂をかもし易い。毒にかぶれた心はその秘密の苦しみを耳のない枕に打ち明ける、御后には醫師よりも聖僧の力が必要です』(坪内逍遙氏譯)

このマクベス夫人の夢遊病は、つまり自分のなした惡行に對する良心の咎めのために煩悶して、遂に强度のヒステリーを起し、毎夜ヒステリーの發作と共に夢遊病の狀態を呈したのである。然し前述のシヤルコーの例は癲癇患者の發作として起つたものであるとシヤルコーは說いてゐる。

シヤルコーの講義後に種々の面白い夢遊病の實例が報告されてゐるが、次の如きはその興味ある例である。

面白い實例

ある音樂教師が某貴族の令孃に音樂を教へてゐる間に夢遊病に陷り、忌はしい行動をして、發作消失後は何等の記憶を有しなかつたが、その翌日から教授を謝絕されてその理由を知るに苦しんだ。

又ジヤクソンと云ふ醫者の一例では、或る男が空腹のために料理店へ入つて食事をすませ、支拂を終へて店を出てから自分で滿腹してゐるのに氣がついて、先刻までペコ〳〵の空腹であつたのに

どうしたわけかと怪しんだと云ふのである。

丁度これに似た例を私は持つてゐる。

若い男の職人で、時々夢遊病の發作を起すのであつたが、或る時淺草の今半で飯を食べて、店を出ようとすると女中から支拂を請求されて夢遊病から醒めた。彼は懷中無一文でどうして今半へと飛び込んだものか、さつぱりその邊の記憶がないのである。

この男はまだ他に次の樣な例を持つてゐる。

或時電車に乘つてゐる途中で發作が起つて隣席にゐる人の絹物の袖を引き裂き、その音で氣がついて何のためにこんな惡戯をやつたかを知らず、平あやまりにあやまつた事があつた。

又ある時は夜中に自分が橋の上で大勢の人に撲られてゐるのに氣がついて、一體何の理由で夜半この樣な所で見知らない人々に撲られてゐるのか少しも分らないので、そのわけをたゞすと、何でも橋の欄干にもたれて涼んでゐる人を、この職人が背後から川の中へ突き落さうと試みたので、仲間の者がつかまへて撲つてゐる所であつたと云ふのである。

この男は發作が起ると平常は無口なのに引きかへて、非常な雄辯家となつて色んな事をしやべり出し、いつもはうたつた事もない歌をうたつたり、稽古したこともない浪花節を非常に熟練した調子で唸つたりするが、覺醒後は全然これ等に就ての記憶がないし、歌の文句や浪花節を聞いて見

ても少しも知らないのである。

第二例としては、信州の片田舍の娘で、平常は極めて無口でおとなしいのであるが、時々急に無意識狀態になつて大隈侯の演說など聞いた事もないのであるが、よく調べて見ると、ある時他所の家で蓄音機で大體大隈侯の演說を甚だ能辯にしやべるのである。醒めると全くその事を知らないし、大隈侯の演說をやつてゐるのを聞いて、無意識に覺えたらしいと云ふ父親の話であつた。

次に深川の十四歲になる女の子で、時々夢遊病の發作を起すのがあつたが、大正六年の秋のある朝、夢遊發作を起して、洪水があるから疊をあげて二階にしまへ、荷物を二階に上げろと頻りに騷いで仕樣がない。家人達はどうしてもいふ通りにしないと病人が靜まらないので、馬鹿々々しい事だと思ひながら仕方なく云ふ儘にすると、その夜中大海嘯があつて附近一帶非常な慘害を蒙つたのに、その家だけは下座敷の荷物を二階にあげたので少しもぬらさずにすんだ。斯樣に夢遊病中の豫言が適中したのに不思議を感じてその折治療して居た私の處へ知らせて來た事がある。

この子供も夜間無意識の間に家を脫け出して行方不明となり、家人が驚いて探し廻ると、隅田川の河岸に跣足の儘立つて頻りに手を合せて拜んでゐるのを背後から抱き留めて連れ歸り、床に寢かせるとそのまゝすや〳〵と寢入つて翌朝目の醒めた時には、前夜の出來事は何にも知らなかつたこともある。

又ある九歳になる女の子は時々癲癇發作を起すのであつたが、ある時下駄ばきのまゝ火の見臺に上つて行き、火の見番を相手に話をしてゐるうち、發作が消失して急に自分が高い所にゐる事に氣がつき、下を見下すと恐ろしさに足がすくんで動けなくなつたので、火の見番がおぶつて下してやつたと云ふ例もある。

二重人格

この樣な例は外にも澤山あるのであるが、これ等は大抵ヒステリーか癲癇に罹つてゐる者が、その發作中に現はれる所謂二重人格である。二重人格に就いては心理學者の方でも詳しい研究があるが、全然覺醒時の人格とは異つた人格が發作中に現はれて、丁度催眠術に罹つてゐる者が暗示によつていろ〳〵な行動をなし、催眠狀態から醒めた後少しもその事を知らないのと同じ狀態である。

然しその多くは何れも無意味に徘徊するものであるが、屢〻この發作中に殺人、放火、その他の犯罪を犯す者が少くない。私の經驗した一例で、栃木の一家五人殺しをやつた農家の主人が捕へられて裁判になつた時、鑑定に携はつて種々調べた結果、癲癇に罹つてゐて夢遊病中にこの慘劇を行ひ、犯行については全く記憶がないと云ふ事が明瞭になつて、無罪になつた事がある。

又千葉縣利根川べりに於ける出來事であるが、妻を失つた水車小屋の番人が、乳呑兒を守しながら、夢中でその子を河の中に投げ込み、暫らくして意識が回復すると、大事にかけて育てゝゐた可愛い子が居ないので泣き叫びつゝ尋ねまはり、河下で村の人達がその子の死骸を引き上げてゐるのを發見して消え入るばかりに悲しんだと云ふ實例もある。

更に今一つ、或る知識階級に屬する人で、晝寢最中に突然起き上り、眞晝間他人の家に放火して歸つたのを發見されて裁判になつたが、矢張り夢遊病中の行爲であつた事が判明し、無罪になつた例もある。

數多い自殺者の中には、何等自殺すべき原因なくして以上のやうな發作中に死ぬものもある事と思ふ。

病癖を一掃せよ

私の經驗では、冬の寒い時候よりも、夏の暑い折に多く現はれる樣である。かやうな夢遊病癖のある人は、矢張り是を起す原因として、ヒステリー或は癲癇と云ふ樣な病氣が平素あるのであるから、放任しておかないで、適當の治療を與へると、必ずこの忌はしい病癖を一掃し得るのである。

斯樣な患者のある家人は大いにこの點に注意して早く治療を受けさせる事が必要である。

現代人は殆どそのすべてが神經病に犯されてゐて、個人的の色彩を帶びた種々な神經過敏の變質

狀態に陷つてゐる傾向が認められる。從つて神經衰弱、ヒステリー、或は夢遊病、二重人格等の如き疾患が文化の進むにつれて益ゝ增加して行くのは實に慨嘆の至りに堪へない。優生學研究上、又優生運動に資するために、この方面に十分研究の歩を進めてこの神經病を驅逐し現代人の改良を行つて堅實な肉體と精神を持つた、强壯なる大和民族を作り出す事に努力しなければならぬと思ふ。

子供の神經病篇

一、腦膜炎の療法

不治の病氣か、全治するか

小兒の病氣で命取りといへば疫痢と腦膜炎である。然し疫痢は時機を失せず、適當なる處置を施せば、死を免れ、且つ全快後には別に憂ふべき後遺症を殘さずに、殆ど完全に治癒するものである。しかし腦膜炎に至つては、全く命取りの病と思はれ、腦膜炎の診斷を下されたが最後悲しむべき死の宣告を與へられたと同じやうに思はれる。假令また、幸にして一命をとりとめても、低能か、半身不隨か、或は癲癇か、啞か聾で一生不具者として、慘めな生活を送らなければならないものと、世間一般に考へられて居る。それ故、不幸にして腦膜炎にかゝつたならば、なまじつか助けて貰ふよりも寧ろ病魔の手に委ねて死なした方が、結局親も子も仕合せだと、諦める親が少なくない樣である。

斯樣に小兒にとつては、最も恐ろしい、殘酷な、腦膜炎といふのは、如何なる性質の病氣で、又

今日の進歩した醫學から觀て、果して全部が不治のものであるか、或は又全快する事のあり得べき病氣であるか。斯ういふことは一般の家庭に於て、是非知つておかねばならぬ大切な問題だと考へられる。今、其の症狀から、治療法、家庭における看護法について、お話しして見たいと思ふ。

腦膜炎の種類

腦膜炎といふのは、普通一つの病氣のやうに思はれるが、然し是れには、色々の種類がある。

第一に　結核性腦膜炎
第二に　漿液性腦膜炎
第三に　化膿性腦膜炎
第四に　腦脊髓膜炎
第五に　腦膜炎類似症

其他、細かに區別すると、尙數多の種類がある。

處で普通に腦膜炎といへば、大抵は結核性と見なされてゐる。そして結核性腦膜炎は全然不治の病氣で、如何なる治療法でも無効と見なされてゐた。

然るに先年獨逸のフライハーンと云ふ醫師が結核性腦膜炎の小兒に腰穿刺と云ふ方法を反復して

行つた處が、全く不治のものと思はれて居つたのがすつかり全快して、何等の後遺症狀も殘さなかつた。且つ其の病氣が結核性の腦膜炎であつたことは、結核菌が腦脊髓液の中に居たことを證明され、しかも動物試驗まで！て夫れを證明されたのである。

けれども其の當時の醫界に於ては、全く唐人の寢言か山師位にしか考へられず、一顧の値だにないものとされてゐた。其後熱心なる研究家が、此の腰穿刺を、結核性腦膜炎に行つたところが、矢張りフライハーン氏と同じやうな良好なる成績を擧げることが出來たといふ報告をするものが現はれて來たので、最近には、この腰穿刺といふ方法は、必ず結核性腦膜炎にも、其の初期から行ふべきものと、經驗ある醫師は、信ずるやうになつたのである。

發病から死の悲しみまで

第一期（第一週）頭痛、嘔吐期――この結核性腦膜炎に、小兒がかゝると、初め二三日は頭が重く、氣分が惡い。小さい赤ん坊では機嫌が穩かでない位の程度で、多少發熱もする。四五日目位からして、非常に激しい頭痛を訴へて泣き叫び、終日終夜その苦しい割れさうな頭痛のために號泣して、夜は家族のものは申すまでもなく眠られない位の、奇聲を發して騷ぐ。また、それと同時に大抵は嘔吐を催し、何か食べ物を與へたり藥を飲ませたりすると、直ちに吐いて仕舞つて、なんにも

納まらない、夫れで親は非常にこれを氣にして狼狽する。

本病で一番苦しいのは此の一週間であつて此の時期には、身體に少し觸つても、激しく泣き叫ぶ。これは全身の神經と筋肉が、緊張して居るので、是れをつかむと非常な痛みを感ずるからである。

斯樣に病兒が、頭痛や、身體中の苦しい爲めに、身をもがいて氷嚢や、枕を投げつけたり、着物を破つたりするので傍に看護して居るものは、これを靜めようとして、押へれば押へる程苦しがる。そして手足は縮込めて首は後ろの方へ反り、一層强烈くなると、脊骨は前に反つて弓の如くになる場合がある。

第二期（第二週）昏眠期――第二週になると第一週の樣な刺戟症狀が減つて頭痛も減じ、囁氣もなく、食事も少したべられて、素人眼には病氣の峠をして、だん〳〵樂になつたやうに見える。然しこの第二週の安穩といふものは、却つて病勢が進行してだん〳〵わからなくなつて嗜眠となり、本病の特徴とする項部强直、卽ち頸すぢが硬くなり、脊筋が反つて所謂角弓反張を呈する樣になる。

第三期（第三週）痙攣、昏睡期――更に進んで、第三週に入るころには、順次衰弱を釀し、全身疲勞して、一般に、スヤ〳〵眠つて、極めて平穩になつて行くが、しかし食餌の量も、少くなり、藥も飲み方が少く、第三週の終りごろになると意識は殆ど溷濁して、次第に昏睡狀態に陷り、しばしば半身の痙攣を來し、又は半身痲痺を現はして、二三日乃至一週間位の後――卽ち初發から數へ

て第三週の終り頃から第四週の頃に、深い昏睡から遂に生命の終りを告げるのである。

病的の液が增加す

斯樣に殘酷な病氣の爲に、可憐なる病兒が惱まされるのはどうしたわけで起るのかと云ふに、これは腦を包む腦膜に、結核菌が、體內のどこからか流れてきて、附着しそこに炎症が起つて、同時に病的の惡い液が澤山にたまつてくるからである。

腦と頭蓋骨との間には、健康兒には殆ど空間がないのであるが、併し此處には腦脊髓液といふものが、平素たまつてゐて、腦や脊髓を養ひ、保護して居るのである。腦膜炎になると、其處へ病的の液が、多量に增加して、腦液の分量が非常にふえてくる。

その爲めに未だ一二歲の、頭の骨がかたまらないものでは、頭の骨を押しひろげて、頭が大きくなり、所謂福助頭に變化して、そこに多少增加した液の融通がつくので、苦痛は左程でない。しかし既に四五歲以後の小兒になると頭蓋骨が硬く、中に液がふえても、外部へはひろがれない。その爲めに軟かい腦髓を內側の方へ壓迫縮小せしめるので、此液のたまり初めには腦膜が腫れるのとその液が腦を壓迫するために頭が割れるやうな痛みを覺えるのである。その痛みの刺戟が强いので、食物や藥をのんで腹がはると腹壓が高まり、上昇して腦壓を增すことになり頭痛が激しくなる。

そのために腦壓を減さうとして、自然に胃袋が縮こまり、胃にはいつたものを吐き出して腹壓を減すのである。これが腦膜炎の嘔吐の起る所以で、これによつて頭の苦痛が幾分輕くなるのである。

妙藥も滋養も効なし

然し液がたまるに從つて、腦の壓迫が强くなり、腦の血の循環が惡くなつて來ると、腦は貧血を來し、腦が段々痲痺して、痛みを感ずることが少くなる。詰り第一週に病兒があれ程ひどく苦しんだのに、第二週には穩やかになつてきて、樂に見えるのは、既に腦が痲痺して感じがなくなるからである。更にその液が增加して、腦を壓迫すればする程、腦はます〳〵痲痺して全く感覺はなくなり、漸次嗜眠狀態から昏睡狀態に陷り、遂に意識は全くなくなるのである。

此の境に於て、腦は非常な努力をして、壓迫に勝たんとする爲に、痙攣が起るのである。詰り一日一日と惡い病的の液が增すために、いろ〳〵の症狀が毎日變化してゆくのである。此の結核性腦膜炎の魔物は要するに此の惡い病的の液が增すためであるから、如何に良藥を飲ませ、滋養をとらせ、或は注射を試みたところで、此の魔物たる病的の液を驅除するにあらずんば、病氣の根元は何等の影響なしに益〻一日一日と惡化して行くのである。

其の證據には、第一週の、極めて病兒が泣き叫び苦しがる際に、腰穿刺といふ方法により、此の

病的に增した液を、腰の脊骨の間から、拔いてとると、顏面に急に樂になつて、今迄の苦痛は忘れたやうに消えさり、病兒は直ぐに安眠を得、嘔吐もなくなり、食慾も昂進する。

肋膜炎や腹膜炎でも水をとる

斯樣な譯であるから、此の惡い液を、たまるにつれて漸次取去り、毎日たまらないやうに豫防すれば或る程度まで病兒の腦が痲痺せず且つ體力が病氣に對して、抵抗し得れば遂に病魔を退治して全快せしめ得ることあるべきは明である。素人の方でも、肋膜炎とか、または腹膜炎の場合に、水が澤山たまり、これを取りされば治る事があるのは御承知のことであらう。

腦膜炎の場合に於ても、矢張り肋膜炎や腹膜炎と、理窟は同一で、たゞ腦膜炎の時には生命の根源である腦を、たまつた液が强く壓迫して痲痺せしむるので、遂に生命を奪はるゝことになるのである。只肋膜炎や腹膜炎よりは、時日が短い間に、勝負のきまるまでのことで此の液を取り去れば矢張り肋膜炎や腹膜炎の水をとつて治るやうな工合に治り得る可能性のあるものと思はれるのである。

死の宣告も却つて歡びとなる

實際に於て、私が腦神經病の專門家となつてから玆に二十年、その間に多數の結核性腦膜炎と診斷をつけられて、既に死の宣告を與へられたやうな病兒に、クインケといふ人の考案によつて作られた腰穿刺の器械を便利に私が改良して極めて簡單な方法でその病的の惡い液を度々取り去つたために終に全快せしめて兩親の歡びを見た例は少なくない。

但し一般に結核性腦膜炎と診斷をつけられたもののうちには、多くの誤診があつたことを考へられる。小兒の腦膜炎といへば殆どすべて結核性のものとされる傾向があるし、また結核性腦膜炎と診斷をつければ、病兒の親もあきらめるし、且つ死んでもあまり名殘りを惜しまれない傾きがあるからである。

しかも腦膜炎の診斷について、何等結核性の素因も遺傳もなく、患者の體質も極めて健康で、結核性の病竈が、體内孰れにも認められない場合に於ても、腦膜炎とさへ云へば、すぐに結核性と早合點されて、腦膜炎の原因を十分に調べもせず、他の種類の腦膜炎と區別もしないでしまふものが澤山あるやうである。眞正の結核性腦膜炎は不治の方が多い。

よく治る漿液性腦膜炎

一番多く結核性と誤られ易く、そして腰穿刺によつてよく治癒し得るものに、漿液性腦膜炎といふものがある。それは一定の病原菌を認めることが出來ず、健康な子供が胃腸を害すとか、感冒にかゝるとかして、丁度結核性腦膜炎の樣な症狀が現れて、矢張り腦に多量の液がたまり、そのままにして置く時には、結核性腦膜炎と同樣な經過をとつて、遂に死亡するのである。

此の種の腦膜炎では、液をとつてしまへば後にこれを增惡せしむるやうな病原菌がないので、非常に良い結果を持つて、全治するものである。

今まで結核性腦膜炎といはれたものの中には、此の漿液性腦膜炎が、きはめて少なくなかつた事が腰穿刺を試みると分る。

結核性腦膜炎は、結核性であるため他の結核性の病氣と同じやうに、方法をつくして見ても、治らないのが蓋し少なくはない。しかしまた肺結核の患者でも、治療法のよろしきに適つたものは、病氣が固まつて隨分長命をするものもある。その他結核性の病氣にかゝつたものでも、良い徑路をとるものが少なくないと同樣に、結核性腦膜炎にかゝつたならば必ず死ぬものと醫師も早合點し、また病兒の親達も、諦めて仕舞ふやうな早計に失せぬやうにし、腦膜炎の病狀が現はれた場合には兎も角必ず一日も早く、此の腰穿刺を行つて、萬全の策を計らねばならぬことである。

危險な化膿性腦膜炎

其の外、惡い液の代りに、膿がたまつて、化膿性腦膜炎を起す事がある。例へば化膿性中耳炎の場合、又は面疔が顏に出來るか又頭のどこかに傷をして、そこが化膿したため、膿が頭蓋の中に侵入して遂に化膿性腦膜炎を起すこともある。この化膿性腦膜炎は、極めて危險なもので、發病と進行が極めて迅速なために、多くは治療の手が屆かぬ中に死亡するものが多くある。

腦脊髓膜炎と腦膜炎類似症

腦脊髓膜炎は、腦脊髓膜炎菌によつて起るもので傳染病の一種である。

此の病氣も極めて危險なものであるがしかし適當なる時期に、腰穿刺を行ひ、治療血淸を脊髓腔內に反復注入すれば非常に經過がよく全治の歡びを見ることが出來るのである。

また、腸窒扶斯とか、肺炎、インフルエンザ、其の外熱性病の經過中に於て、腦膜炎の如き狀態を呈し、よく世人から『病氣が重くなつて、腦症を起した。病氣が腦に上つて仕舞つたから、もう駄目だ』といふことを聞くのであるがこれは多くは重症に併發する腦膜炎類似病である。此れも矢張り、腰穿刺の方法によつて、液を取り去ると、非常に經過がよくなり、そして所謂腦症が治り本病も亦全治することが多數にある。それ故に、病氣が腦に上つたから駄目だなどと言つて諦めて仕

舞はずに、この腰穿刺の方法を盡して治療して見るべき場合が多いものと思ふのである。

それで、家庭においても、子供が腦膜炎に罹つたからと云つて、親達がすぐに悲觀し、腰穿刺の如き治療法のあることも知らずに、徒らに駄目だと早く諦めてしまふのは、實に早計といはねばならぬ。それ故に腦膜炎の症狀を認める醫者からその診斷をつけられた場合には、いち早く適當な病院に入院せしむるか、もしくは腰穿刺の出來る醫師に賴んで、この方法をつくさなければならぬ。時日を無暗に看過し、前に述べたやう、第二期になつて病氣が進行しつゝあるにもかゝはらず峠を越したなどと樂觀するのは、非常な誤りである。

二、腰穿刺法で治る病氣

腦膜炎にかゝつて、既に一命も危いといふ危急の場合にのぞんで、醫者が腰穿刺をおこなつて、夫を數回繰返したので、危き命が完全に救はれたが『腰穿刺によつて腦膜炎を豫防することは出來ぬか』といふ樣な質問を寄せられた方がある。玆にその解答をかねて腰穿刺のことを述べて見たいと思ふ。

腰穿刺とは

腰穿刺といふのは一定の針を用ゐて腰椎の部分にさし、腦脊髓とこれを圍む骨との間にたまつてゐる、腦脊髓液をとる方法である。腦や脊髓の病氣で、この腦脊髓液が非常にふえてその量がますために腦或ひは脊髓がその液のために非常に壓迫され、遂に痲痺して一命を奪はれるやうなことが屢〻ある。斯樣な場合には、單に服藥、其の他の方法ではこの多量にたまつた腦脊髓液を急に除き去ることは出來ない。そのため時期を失すると、忽ち一命に關するから、この場合に、腰穿刺の方法で、過量になつてゐる腦脊髓液を排除すれば、そのために忽ち病氣が輕快に赴いて、危ふかつた生命を回復することが出來ることが少くない。

腰穿刺の應用

この方法を應用すべき場合は、いろ〳〵の病氣に多いのである。然るに未だ一般家庭に於て、この方法で治る病氣やその方法を知らぬために、可愛い、小兒の生命を失はなければならぬことが可成りあるからこれに關する概略の知識を備へて置くことは、あながち無用な事ではないと信ずる。この方法を最も必要とし、また最も適當なる治療法とし最も効果ある方法として應用すべき病氣は、

多く小兒を侵すいろ〳〵の腦膜炎である。小兒にあつては、胃腸の疾患、或は肺炎、インフルエンザ等の熱病に冒されると、最後によく腦症や腦膜炎を起すものであるが、斯樣な續發的の腦症や腦膜炎症狀の場合には、この腰穿刺を試みると大抵はよい結果を見ることが出來るものである。

疫痢や小兒痲痺にも推奨

それから子供にばかりある病氣で、矢張り恐ろしい疫痢や小兒痲痺といふ極めて難治の病氣がある。疫痢は發熱、嘔吐、下痢等で一、二日で死亡する。小兒痲痺は初め熱が出て、乳や食物を吐き二三日で熱が去つて病氣が治つたかと思ふと手足が痲痺して歩けなくなつたり手がきかないでいろいろの方法をつくしても一生ゐざりとなり、又は半身不隨で、不幸な生涯を送らねばならぬ。これも病氣の初に、早く腰穿刺を行へばなほる場合が多いといふので、外國などでも此の方法を推奨してゐる學者があるし、私はこの方法を早期に行つて小兒痲痺をなほした實例を澤山もつて居る。しかし小兒痲痺を起してから可成り時日を經過してゐる場合には、既に病原は消失してゐるので、この方法を行つても單純には治らない。

腰穿刺は無痛

それから腰穿刺を行ふ場合に、とにかく針を腰椎の部分にさすのであるから、定めし痛いだらう、苦痛なことだらう。危險なことはなからうかと取り越し苦勞をするお方もあらうが此の邊は更に御心配はいらない。腰穿刺は別に大した苦痛もなければ、また何等の危險もある譯のものでないことを保證する。しかし腰穿刺を試みようといへば、針を刺すのであるから、これを非常におそれる傾向があつて、小兒の腰へ針をさして、液をとると忽ち危險をかもしそのあとで遂に死ぬやうに、誤解し、針を刺したので死んだと考へられるお方もないと限らない。しかし夫れは到底不治のものであるか、又は既に時期を失して、最後の手段として、腰穿刺を行つたあとで死ぬもので、その死は腰穿刺を行はないでも、早晩當然に來るべき死の運命であつたのである。何も腰穿刺を行つたために生命を奪はれるといふやうな危險は決してない。如何に衰弱してゐる患者でも、この方法によつての危險は絶對にないのであるから、少しも躊躇すべきことはないのである。

腦膜炎を起し易い體質

そこで質問者の如く、『腰穿刺によつて、腦膜炎を豫防し得るや否や』といはれても、これは病氣の診斷と治療の目的に試みるもので、腰穿刺をして、腦膜炎のまだ起らない以前に之を豫防し得るといふことは不可能である。然しながら、腦膜炎に罹り易い小兒がある。それは素人にわかり易く

言へば、頭髪が薄いか又は却つて極めて濃厚で、よく頭部に汗をかき易く、また『ヒヨメキ』が二年以上もふさがらずに、ビク／＼して居るか、頭が大きすぎるといふ樣な小兒は、何か胃腸を患つたり、熱病にかゝるとよく腦膜炎をおこし易いから、斯うしたお子さんであつたら、豫め腰穿刺を行つてよい場合もある。腦膜炎らしい疑があつたら早速豫め腰穿刺を試みると、診斷が早くつき易く治療も早く行き屆いて重態に陷らずに治すことが出來ることもある。

三、上流社會の子供はなぜ體が弱いか

生物は自然のまゝに育つのが一番いゝ樣である。これを人工的に變へようとする時色々の弊害が生れる。未開の野蠻人が極めて健康で、病氣に罹つても治り易い傾向があるのに反して、文化の進むに從つて病弱な者が多い。又一旦病にかゝれば治すのに骨が折れるのはこの爲である。又同じ社會でも、下流社會は比較的無病息災な者が多いのにくらべ、上流社會に蒲柳の質の者が多いのもこのためである。文明人殊にその上流の人々に對する唯一の忠告はつまり『自然にかへれ』といふ事になる。

それでは文明國の上流社會の人々はどんなに自然から遠ざかつて居るかといふに、

第一――衛生思想が發達して居るだけに赤ん坊の時から保護をうけ、すべて病氣に對する警戒心が強くすべて消極的な豫防法や、治療法を試み、大事にされて、殆ど病氣に對し積極的の豫防法や病氣を征服する意思が薄弱になつてゐる。

第二――衣食住があまり自然から遠ざかつて極めて消極的である。柔かい溫かい食物、滋養のある美食、あたゝかい肌さはりのよい薄い着物等、すべて元氣な子供でもまるで風を引くな、腹をわるくするなと病人扱ひが多い。之が爲に胃腸、皮膚、呼吸器の如きは忽ち弱つて、少し外界氣候の變化や食事がわるければすぐに病氣になり、病氣になると抵抗力が少いので治りにくい。

第三――結婚は家柄とか身分とか容姿とかに重きをおき、健康をあまり云々しないため、自然弱い子孫が生れる。古い日本のいはゆる美人といふのは腺病質や結核性や胃腸病の者が多い。上流の子供に腺病質の多いのは遺傳が大きな原因となつてゐる。

第四――上流では男が一人の女を守らず、多くの女におぼれる場合が多く、從つて花柳病の蔓延して居る事が珍らしくない。生れる子供に不健全なものの多いのは當然である。

第五――子供は母乳で育てないで牛乳にしたり、乳母の乳にする事が多い。子供を最もよく育てるものはひとり母のみである。

これを要するに、上流家庭の子供が健康であるためには生活をなるべく自然的にし、すべて積極的な衛生の方策をたてなくてはならぬ。いひかへれば病氣に對する抵抗力を養ふ事が第一である。消極的な親の愛情や自重は、愛兒をも自身をもあやまらしめる基である。溫室育ちの鉢植ゑを止めて野生のまゝに開放すべきことである。

四、入學期の兒童に對する注意

『試驗地獄から情實地獄へ』とさへいはるゝ今日、まことに不憫なのは現代の兒童である。たとへ中學校や高等女學校の入學試驗が廢せられても、またメンタルテストなるものがある。それにいろいろな情實が加はり勝なので、入學困難の事實は以前と餘り變りはない。

この數年來入學試驗準備のために、小學卒業前には課外教授が各學校で競爭的に行はれ、又家庭に於てもそれ〴〵家庭教師を聘し、或は親達が無理な勉强を强ひるため、兒童は過重の負擔に堪へず、入學試驗を眼前に控へて種々の病氣を患つたり、或は折角入學しても、間もなく思ひもよらぬ病氣になるものが少くないやうである。三月頃から五月頃にかけて可憐な子供を連れた親達が、よ

く私の所へも見えるが、その多くが強い子供の神經衰弱にかゝつてゐるものがあるのはまことにいぢらしい極みである。

入學前の神經衰弱は、學校では例の課外教授、家庭では親達に鞭撻されて無理な勉強をする結果起るもので、特に學校の成績の優秀なものにこれが多い。

その徴候としては、子供が朝起きるときに元氣よく起きないで、ぐづり出し、不機嫌でなか〳〵起き上らない。學校へ行く時間がくる迄はぐづ〳〵してゐる。ために自然起きる早々、朝の食事をとり、休むいとまなく、とんで學校へ行くやうな事もある。學校から歸つた後も機嫌がよくない。無暗に兄弟喧嘩をしたり、さうかと思ふと獨りだまり込んで一室にとぢこもつたりする。夜も不眠を來して、二時三時頃までも起きてゐるやうなものがある。斯樣な場合に、親は子供が一室にとぢ籠つて熱心に勉強してゐるものと考へ、又夜遲くまで起きてゐるのを見て、感心によく勉強してゐると思ひちがへて、これを制止しないで却つて奬勵する樣なことが屢〻あるやうである。斯樣に夜更けまで起きてゐたり、朝起きの不機嫌なのは、すでに神經衰弱を起してゐるのである。そんな風で勉強は少しも頭に入らない。そのために小學校卒業當時の成績は優秀であつても、中學校や高等女學校の入學試驗には不合格の悲しみを見る場合が往々ある。

それで平生成績の惡かつたものが却つて首尾よく入學試驗に合格し、成績の優秀であつたものが

不合格になつたりするので、學校でも家庭でもよく不思議に思ふ事が少くないのである。が、つまりこれは平常成績優秀な生徒が、競爭心の激しいために無理な勉強をして、入學試驗前に神經衰弱に陷つてしまふためである。

幸に折角入學し得ても、一學期二學期の試驗を受けるに及んで、入學當時成績優秀な生徒が、學期試驗毎にだん〳〵不良の成績となつて行くものがある。三學期になつて特に成績が惡くなり、受持教師から注意を與へられるやうなことがよくある。

小學校時代では成績優等で、學校でもほめられてゐたものが、中學校、女學校に入つてから不思議に段々成績の落ちてゆくのは、矢張り入學試驗のために過度の勉強をして入學當時にすでに神經衰弱にかゝつてゐたため、入學後は勉強が頭に入らない。たゞ學校には夢中で通學し、外觀的に勉強は可なりするやうでも、それが頭に入つてゐない事が多いので、自然成績が不良となるのである。

斯樣な生徒は中學や高女の二年三年頃になると、その神經衰弱が極度に達して、卒業前後になれば急に沈鬱となり、友達を避けて一室に閉ぢこもり、獨居を好むやうになる。誰が見ても病的に見える程度に進行するものが少くない。

よく中學校や女學校卒業前後に起る早發性癡呆と稱する一種の精神病があるが、この病氣は多く

は以前成績の優秀なものに多く、學校でも惜しまれるやうな生徒がよくこの病氣にかゝるのである。

早發性癡呆は一見神經衰弱に似てゐるが、併しこれは純然たる精神病で、殆んど不治のものである。これに罹つたら、あたら一生を棒にふらねばならぬ事になる。

これには素質もある。が、多くは中學校、女學校の入學試驗の過勞が遠き原因となつて兒童の腦髓の發育を阻害し、その機能卽ち精神作用の障碍を來すやうになるものが少くないのである。

一つは親の虛榮から、我が子の能力をも考へず、評判のよい一流の學校に入れようとして無理に鞭撻し、はげまして、その結果子供の一生を誤らしむるに至るものがある。誰でも自分の子供はよく見える。殊に一人息子には虛弱なものが多い。目前の小さな名譽？　虛榮？　のために過重の負擔を幼弱の身の上に課するのは、その實、無情の甚だしきものといはなければならぬ。

飜つて入學難が何時までも續いて子供の心身過勞が多くなれば、自然子供時代からの神經衰弱及び虛弱な體質を有するものがふえて、不健全な第二國民が益ゝ增加する事になり、日本國民の體質は漸次劣惡になりはしまいかと氣づかはれる。

中學生時代には思想の動搖が激しい。そのうち惡い思想に化せられ易いものは、多くは神經衰弱にかゝつてゐる學生である。さういふ兒童は暗示性が亢進してゐるため、惡風に感化され易く、誘惑に負けて不良少年少女の群に投ずるものが少くないのである。

最近學生の體育奬勵が叫ばれ、スポーツが大いに盛んになつたのは國民體質改善の上からいつて慶賀すべき事であるが、それよりも肝腎なことは、幼弱な子供のまだ發育しないのに、過重の負擔を課してその發育を阻害する所の入學試驗の難關を緩和する事である。これは大に研究して何とか旨い方法を講ずべきである。然らざれば、やがては國運の衰頽を來す基となるであらうと思ふ。

五、癲癇の子を持つ親達へ

或る奥樣の『癲癇を十三年もわづらつて低能になつた子供を私の病院で治した』といふ實驗苦心談が或る雜誌にのせられて以來、それについていろ〳〵の質問や涙ぐましい親心の手紙が、全國のあちこちから幾十通となく私の所へ發送された。

癲癇の子を持つ親の心を考へると、私はせはしいこと、疲れることも忘れて、夜を徹しても一つ一つに返事を出した。しかし、それらのほかにもどの位多くの親達が、涙の日を送つて居られるかを考へ、こゝに癲癇のことについて、それらの親達への注意を少しばかり述べさして戴くことにした。

癲癇の種類

『てんかん』と云ふ病氣は、確實に治すといふ藥のないものとされて、古來その多くの患者は勿論醫者も亦大になやんだものである。私の二十年間の經驗では、日常の攝生の注意によつて、もつとも忌むべき痙攣發作をゆるやかにし、藥によつて病症をしづめることも出來、又全快した者もすくなからずあることを申上げることが出來る。

普通に癲癇といはれてゐるのは、急に倒れて意識を失ひ、口から泡を吹いて手足の痙攣を起すものであるが、これは醫學的に云ふと單に癲癇の發作に過ぎないので、この病氣をもつてゐる人は、發作のない時も普通の人とは異つた病的のところがあるものである。以下お話しするには、これを痙攣性癲癇と精神性癲癇とにわけて說明するのが一番わかりやすいと思ふ。(偉人病篇、シーザーの病「てんかん」參照)

癲癇と低能

癲癇を長く患つてゐる人は、十中八九までは多少精神障碍をきたすもので、そのため、發作と發作との間の平常時でも一種の異常性格を現し、また精神作用の缺陷を見せて、癲癇性性格を示した

り、或は低能となる。

これにも色々の程度があつて、輕いのはちよいと氣がつかないが、一般には感情の方面が障碍されて不機嫌がちのことが多く、或は憂鬱となり、强情で我を通し、または執念深く、物に凝性で、極めて綿密なことに熱心で、到底普通の人のたへられないやうなことをしたり、或は些細な事に感激し易く、時には犯罪まで作ることもある。例へば几帳面で何事もよく整頓し、律義で禮儀正しいやうな人が、些細な事から激昂したり、殺人したり、放火したりすることがある。

また、腦の働きが圓滿でなく、或る方面は天才的の才能があるにもかゝはらず、他の方面は全く低能のやうな人もあり、一般に發作が多かつたり、長くこの病にかゝつてゐると、漸次智力がへつて低能になり勝ちである。

癲癇の原因

癲癇の本當の原因といふものは、まだはつきりしてゐないが、私の長い間の經驗からおして考へると、次のやうなものが多いのである。

(一) 遺傳的に腦の弱い系統の子供が、何か强い腦の刺戟をうけて發病するもの。

例へば腦溢血や、神經病や精神病の系統の子供が、小學校へゆく樣になつた頃ひどく感動したり

驚いたりして『ヒキツケ』を起し、それが癖になるもの。

（二）安產で生後も無事であつたのが、二三歲の時、重い病にかゝつて腦症を起し、助かるまいといはれたのが、幸ひに命を拾つて成長し六七歲頃になつて、何かの誘因で急に『ヒキツケ』を起しそれが癖になるもの。

（三）幼い頃子守や母の不注意で高い所から落ちたり、ころんだり、何かで頭に怪我をして、それは手當で治つたが、一二年たつてから、ある動機で急に痙攣を起し、それが癖になるもの。

（四）遺傳黴毒か親の大酒か、親の結核かで胎兒の時に腦の榮養が不足で、生れてからも腦の發育がわるく、腦水腫（福助頭）か又は小頭で、首がしつかりしない、智慧がおそいといふやうな子供が、熱を出したり、腹をわるくしたり、風邪をひくと『ヒキツケル』癖を起すもの。

そのほか色々の種類があるが、まづ一番多いのは右のうちの（二）で、その次は（一）である。それから（三）で（四）はごく少いやうである。

かうした頭の子供は癲癇

癲癇をわづらつてゐる子供の頭を檢査すると、頭も顏も左右不均等のものが多いやうである。すなはち頭蓋が圓滿に左右均等に發育してゐない、云ひ換れば右と左の腦に行く血液の量がひとしく

ない。左右五分々々に行かず、四分六分、または七分三分に血が腦にゆく。したがつて一方の耳は赤くほてつて、一方の耳はつめたかつたり、冬になると一方の耳はよく凍傷を起す。『ツムジ』が頭のてつぺんの眞中でなく、右か左に片寄つてゐる。

痙攣發作の起る理由と家庭での注意

斯樣な頭の子供は、ふだんはどうやら血の流れがとゝのつてゐるが、春秋の時候の急變にあつたり、熱が出てひどくのぼせたり、過度の勉强をしたり、夜ふかしをしたり、遠足のため朝早く起きたり、活動を長時間見たり、腹を惡くしたり、便秘をしたりして、腦がつかれて、腦に行く血の量が急に多くなつたとき卽ちのぼせた時には、左右の腦の血液量がひどく平均を失つて血の流れに變動が起る。且つどこか血管に痙攣が起つて、急に血の循環が止まるので、腦の働きも急にとまつて意識を失ひ、ついで手足の運動の痙攣を起してくる。しかし腦の血管の『けいれん』が止つて血液が腦に流れはじめると、氣がつき意識も回復し、ケロリとして發作のことなど知らないでをるのである。

從つて癲癇の子供は、平素こゝに述べたやうな、腦に急に血が多くのぼる事柄をさけるやうに、家庭で注意することが肝心である。卽ち、

（一）春秋に注意すること。
（二）睡眠不足をさせぬこと。
（三）過食又は便秘させぬこと。
（四）過度の勉强をさせぬこと。
（五）人ごみの中に長居させぬこと。
（六）精神感動をさけること。

癲癇の療法

『てんかん』には既に述べたやうに色々の種類があるから、一つの藥で何れの『てんかん』をも治すといふことは出來ない。患者によつて藥の匙加減がいる。

しかし、種類によつては、或種の藥（カルメリン錠、佐多病院調劑の如き）を連用させると、忌まはしい痙攣發作を全く消失せしめることがある。また或る藥で發作を輕くすることもある。『てんかん』は絶對絶望のものではない。潛伏黴毒から起るものは驅黴法で治るものが多い。的確な診察と、的確な治療法と平素の注意深き養生法によつては全治することも少くないのである。

精神性癲癇の奇行

私の經驗した人で、社會的重要な地位にある人が、晝間人の家に放火して、捕縛されたのである。これもやはり癲癇を平素病んでゐた人で、平素は人格者として人に崇敬されてゐたのであるが、癲癇性性格のため、發作的にこんなことをしたのである。

又或る人は自分の家族五人を皆殺にして、自分は其の後少しもそれを知らずにゐたのもある。或は非常に愛してゐた子供を川の堤で守してゐた時急に子供が泣き出したので、子供を川になげ込んで溺死させておきながら、何も知らずに家に歸つて初めて子供のゐないのに氣づき、さがし廻つて川下に流れついた子供の死體を人が引き上げてゐるのを見て、泣き狂つたと云ふ例もある。

又極めて不思議な事は、この精神障害で、朦朧狀態といふのがある。それは痙攣發作を起さずに意識朦朧となり、夢の樣な氣持ちで、處々を遊び歩いたり、或は旅行したりして、その間に種々な事をして、或る時機になると急に意識がかへるので、自分でも驚くやうなことがある。

アメリカでは或る人が、急に行方不明となつたので、家人が驚いて警察に捜索願を出したが、それでも少しも分らずにゐた。半年位も經つてから或る遠い町で店を開いて商賣して居るのを發見した人があつたのをきいて、尋ね當て連歸らうとすると、急に意識が回復して、自分がどうしてこん

な所で商賣してゐたかを知らなかつたといふ、嘘の樣な例もある。（婦人の神經病篇、夢遊病參照）

癲癇とヒステリー

最後に特に婦人について申述べておきたいことは、癲癇とヒステリーとの關係である。癲癇にはヒステリー癲癇といふヒステリーと癲癇とを兼ねたのがよくある。ヒステリー發作と癲癇發作とはよく似てゐるが、ヒステリーは何か刺戟によつて起る場合が多く、癲癇は刺戟もなく、時、所もかまはず不意に起る場合が多い。そのため前述の樣に怪我をしたり、溺死したりするのであるが、ヒステリーではそんなことはない。そしてヒステリー發作にはよく芝居じみた事をして、自殺の眞似等をするのもあるけれども、發作中のことは癲癇とちがひ意識が割合に確で、朧げながらも記憶して居るものである。そしてどちらも痙攣を起すのであるが、ヒステリーの痙攣は或る刺戟によつて急にをさまる事もある。しかし癲癇にはそんな事はない。發作以外の時の性格も類似した點があるが癲癇性性格はヒステリー性性格程著しく平常に目立たないものである。又ヒステリーの人は好んで人目につく樣な奇拔な行ひをして、人の注意を一身に集める樣な事をするが、癲癇のは自覺せずして奇行をするのが多いのである。

偉人病篇

一、平清盛の病（腦黴毒）

驕る平家久しからず

『祇園精舎の鐘の聲、諸行無常の響あり、沙羅雙樹の花の色、盛者必衰の理を顯はす。奢れるもの久しからず、唯春の夜の夢の如し。猛き人も遂に亡びぬ、偏に風の前の塵に同じ。……六波羅の入道前太政大臣平朝臣清盛公と申し〻人の有樣、傳へ承るこそ、心も詞も及ばれね』とは平家物語の書き出しである。

平家物語を讀んで先づ私の頭に浮ぶのは清盛の行跡が全く常軌を逸した亂倫、惡逆、無道で殆んど其のすべてが誇大妄想症の症狀を羅列したものであることである。

今清盛の一代記を醫學的に解剖して精神病學の見地から批判して見たいと思ひ、先づ清盛に關する文獻を調べることにする。

清盛は色餓鬼（色慾亢進症）

常磐御前を見ると『さしも心強げにおはしつる清盛も、頻に涙の進みければ押拭ひ押拭ひして、さあらぬ體にてもてなし……常磐は今年二十三、梢の花は且散りて、少し盛りは過ぎたれども、中中見所あるに異らず……「義朝が子供の事、清盛が私の計らひに非ず、君の仰せを承つて執行ふ計りなり」……（と自分の非行を君の仰せにして、常磐の機嫌をとり）……一門の人々並に侍共「如何に加樣に御心弱き仰せにて候ふやらん。この三四人の成長候はんは只今の事なるべし。君達の御爲、末代懼しくこそ候へや」と申せば清盛「誰もさこそ思へども云々」……（と申し殺すべく搜し求めた義朝の子供を救ひ常磐の歡心を只管に買はんとつとめた程に清盛の鼻の下は長かつた）……さても常磐をば、清盛最愛して、近所に取り据ゑて通はれけるとぞ、聞えし』これは平治物語卷の三に誌されてある。清盛の好色は斯樣に今迄自分の敵として憎んで居たものの妻を姦し、その歡心を買ふ爲に、殺さんと搜した筈の敵の子供を助けてやつた。

『太政入道は、加樣に天下を掌の中に握り給ひし上は、世の誹りをも憚らず、人の嘲りをも顧みず、不思議の事のみし給へり。譬へば、その比京中に聞えたる白拍子の上手、妓王、妓女とておとどひあり……然るに姉の妓王を入道相國寵愛し給ふ上、……母刀自にもよき屋造つてと

らせ、毎月百石百貫を送られたり……（然るに加賀の國から佛御前といふ十六の白拍子の上手が入道に面會を求めて來たのに逢つて見ると）佛御前は髮姿より初めて、眉目かたち世にすぐれ、聲よく、節も上手なりければ……入道相國舞にめで給ひて、佛に心を移されけり（そしてその場で妓王を追ひ出してしまつて、佛御前を寵愛した）……さる程に毎月送られける百石百貫をもおし止められて、今は佛御前のゆかりの者どもぞ、初めて樂しみ榮えける』（平家物語卷一）

斯樣に入道は女色に耽り、美女と見れば我物にして弄んだ。

清盛の錯覺

『清盛或時蓮臺野にして、大きなる狐を追ひ出し弓手に相付けて、既に射んとしけるに、狐忽ちに黃女に變じて、莞爾と笑ひ立ち向ひて、「やゝ我が命を助け給はば、汝が所望を叶へん」と云ひければ、清盛矢を外し「如何なる人にておはすぞ」と問ふ。女答へていはく「我は七十四道中の王にてあるぞ」と聞ゆ。「さては貴狐天王にておはしますにや」とて馬より下りて敬ひ屈すれば、女又本の狐となりてコウ〳〵と鳴いて失せぬ』

これは源平盛衰記以卷第一の『清盛陀天を行ふ』の章に誌されたところで清盛が狐にばかされ、錯覺を起して、錯視、錯聽と云ふ精神變調を現はしたものと考へられるのである。俗に狐に化さ

れたといふのは、化された其の人の意識が朦朧となり、狐が自分の好き物の女の姿に見え、鳴き聲が女の優聲に聽えて、色情慾から助けてやり、心が自分にかへると再び狐に見えたのである。

清盛の幻覺

『或る夜入道の臥し給ひたりける所に、一間にはゞかる程のものゝ面の出で來て、のぞき奉る。入道ちつとも騷がず、はつたと睨まへておはしければたゞ消えに消え失せぬ。

岡の御所と申すは、新しう造られたりければ、然るべき大木なんどもなかりけるに、ある夜大木の倒るゝ音して、人ならば二三千人が聲して、虛空にどつと笑ふ音しけり。いかさまにもこれは天狗の所爲といふ沙汰にて、晝五十人、夜百人の番衆を揃へ、墓目の番と名づけて、墓目（これはかゝらやの一種にて、矢尻に孔を五つ六つあけ、之を射ると響を發するので妖魔が征服されると云ふのである）を射させられけるに、天狗のある方へ向つて射たるとおぼしき時は、音もせず。又ない方へ向つて射たる時はどつと笑ひなんどしけり。

またある朝、入道相國帳臺より出でて、妻戸をおしひらき、坪（小庭）の内を見給へば、死人の枯髏どもが、いくらといふ數を知らず、坪の内に滿々て、上なるは下になり、下なるは上になり、中なるは端へころび出で、端なるは中へころび入り、ころびあひ、ころびのき、からめきあへり。

入道相國「人やある、人やある」と召されけれども、折ふし人も參らず。かくして多くの髑髏共が一つにかたまりあひ、坪の内にはゞかる程になりて、高さは十四五丈も有らんと覺ゆる山の如くになりにけり。かの一つの大頭に生きたる人の眼のやうに、大の眼が千萬出來て、入道相國をきつと睨まへ、しばしはまたゝきもせず。入道ちつとも騷がず、ちやうと睨まへて立たれたりければ、露霜などの日に當つて消ゆるやうに跡かたもなくなりにけり』

これは平家物語卷の五に『物の怪』といふ題で誌されてある事柄である。斯樣な不思議な妖怪が清盛の眼に見え、耳に聞えたといふことは、私の專門から考察すると、清盛が幻視、幻聽といふ幻覺に惱まされ、既に精神病に罹つて居たものと診斷されるのである。

清盛の亂行

また重盛が父清盛の傍若無人の振舞、惡逆無道の所爲を嘆き悲しみ、その都度諫言を試みたが、入道は更に聽き入るゝ模樣がなくて益ゝその暴威が募るので、重盛は熊野權現に參詣して祈願した。

「夜もすがら敬白せられけるは、親父入道相國の闇を見るに、惡逆無道にして、やゝもすれば君を惱まし奉る。その振舞を見るに、一期の榮花猶危し。重盛長子として頻りに諫を致すといへども、身不肖の間、かれ以て服膺せず……南無權現金剛童子願はくは子孫繁榮絶えずして、仕へて朝廷

に交はるべくば、入道の惡心を和げて、天下の安全を得しめ給へ。云々』と平家物語卷の三に記してあるのを見ても清盛の所爲は全く正氣の沙汰でなく、狂暴な精神病者の振舞であつたらしい。清盛がまだ若くて、重く用ゐられなかつた折は正氣で別に惡行もなかつたのが、後年に至る程に精神變調が甚だしくなつて、全く言語道斷の行爲を平氣でなし、重盛初め周圍の者に一方ならぬ心配をかける暴君となつたのである。

清盛の病歷

『さる程に仁安二年十一月、清盛病に侵され、年五十一にして出家し、法名淨海とぞ申しける。出家の故にや宿病次第に本復して、翌年の夏の比、一門の人々面々に悅びごとをなしける』（平治物語卷の三、清盛出家の事）

『かくて清盛公、仁安三年十一月十一日、年五十一にて病におかされ、存命の爲にとて、すなはち出家入道す、法名をば淨海とこそ附け給へり。その故にや宿病たちどころに癒えて、天命を全うす。出家の後も、榮耀はなほつきずとぞ見えし。……入道相國の謀に、十四五六の童を三百人洗つて、髮をかぶろに切りまはし、赤き直垂を着せて、召仕はれけるが、京中に充ち滿ちて、往反しけり。おのづから平家の御事、あしさまに申すものあれば、一人聞き出さぬ程こそありけれ、餘黨にふれまはし、かの家に亂入し、資財雜具を追捕し、その奴をからめて六波羅殿へゐて參る。されば目に見、心に知るといへども、言葉にあらはして申す者なし』（平家物語卷一、禿童の事）

『當院（安德天皇）御位の時、（治承四年二月十九日）太政入道物狂はしくて、事に於て邪になりけるを、いかゞして宥め直さんと思召しける』

『（治承四年九月二十一日嚴島に新院の御幸を企て入道隨伴し）御參社以前に入道と宗盛と父子二人院の御前に參りよりて、自餘の人々を除けられて、入道申されけるは、「……此の言葉聞し召し入られずば、君をば此の島に捨て置き進らせて歸り上り候ひなん」と申しければ新院は「……いかにもいはんに隨ふべし」と仰せありければ、前右大將硯紙執り進らせり。入道近く參りて耳語き申しければ、其の儘にあそばしてたびぬ』（源平盛衰記、卒卷第二十三）

入道は斯樣に我儘な振舞をなしたのである。畢竟ずるに以前より宿病即ち神經症に惱んで居たが治承四年の秋頃には清盛はひどく增惡して狂氣の沙汰となり、周圍でこれを慰安し得るものはない位であつた。

そして翌年治承五年の一月二十七日宗盛が數萬騎を從へて賴朝追討に出かけようといふのに夜半から清盛はひどく興奮して氣分不快を覺えたのである。

清盛の臨終

『二十七日門出して、既にうち立たんとし給ひける夜半ばかりより、入道相國違例の心地とて留まり給ひぬ。あくる二十八日、重病を受け給へりと聞えしかば、京中六波羅ひしめきあへり。「すはしつるは」（それ始まつた）「さ見つることよ」（それ見た事か）とぞさゝやきける。入道相國病つき給へる日よりして、湯水も喉へ入れられず身の内の熱き事は火を焼くが如し。臥し給へる所四五間が内へ入る者は熱さ堪へ難し。たゞのたまふ事とては、あた〳〵（あつい〳〵）とばかりなり。餘りの堪へ難さにや、……比叡山より千手井の水を汲下ろし、石の船に湛へ、それに下りて寒え給へば、水おびたゞしう沸き上りて、程なく湯にぞなりにける。もしやと筧の水をまかすれば、石や鐵などの焼けたるやうに、水ほとばしつて寄りつかず。おのづから中る水は焔となつて燃えければ黒烟殿中に充ち滿ちて、炎うづ巻いてぞ上りける。……もしや助かると、板に水を置きて、臥しまろび給へども助かる心地もし給はず。同じき四日の日悶絶躃地して、遂にあつち死（熱に悶え死）にぞしたまひける』（平家物語巻六）

『二十八日に入道重病を受け給ひ……牛馬の類金銀の寶、七珍六畜引き出し取運び、神社佛寺に拋ちけれども、重くはなつて少しも驗なし、誠に遁れ難き定業とぞ見えける。……閏二月二日に二位殿（清盛の妻）枕の本に居寄り給ひて、泣く〳〵宣ひけるは「……御心にかゝる事あらば仰せ置かれ候へ」……入道よに苦しげにて大息つき「……但し遺恨の事とては頼朝が首を見ずして死するばかりこそ口惜しけれ、冥土の旅も安く過ぎぬとも覺えず、我いかにもなりなば、堂塔をも造るべからず、佛經をも供養せず、唯頼朝が頸を切りて墓の上に掛けよ、それのみぞ孝養の報恩ともなる……」とぞ遺言し給ひける。……四日入道彌〻病にせめ伏せられ……終に七箇日と申すに悶絶僻地して周章死に失せ給ひき。……入道今年は六十四に成り給ふ』（源平盛衰記巻第二十六）

清盛の診斷書

姓名。平清盛
性。男子
生年月日。不詳
死亡年月日。治承五年二月四日
年齢。六十四歳
病名。進行性癲痫性癡呆
原因。黴毒らしい

經過。清盛は生來色情盛大にして多くの女を弄び、就中仇敵たる源義朝の未亡人常磐御前を一見してその美貌に迷ひその子供三人を助けて、常磐の機嫌をとり、遂に口説き落して愛妾とした。次に白拍子妓王の容色に溺れて、之を寵愛すること甚しく、その母に毎月百石百貫を送つて、妓王を安心させた。然るに白拍子佛御前の美しき舞姿を見るや、忽ち意馬心猿、今の今まで掌中の珠と愛した妓王を迫ひ出して、佛御前を入れ、之を寵愛した。斯樣な亂倫を恣にした結果遂に惡性の黴毒に感染したらしく、色々の腦神經症狀が漸次に現はれ、狐を見て黄女と誤り、その鳴き聲を女の聲と聽き誤り、錯視、錯聽の如き錯覺を生じた。

その上日常の行爲は誇大的になり、畏れ多くも天皇や、法王にまで言語道斷、日本臣民として許すべからざる不忠を働き、惡逆無道、多く無辜の人を虐殺し又は流罪に處し、重盛が死を賭しての諫言も却々きゝ容れることなく、その諒解力、理解力著しく減退し、感情、刺戟、興奮性にして無分別の所爲益々多く、嚴島の神社を修理して、日没を扇で呼戻したなどの慢心卽ち誇大妄想を抱く樣になつた。そして或時は一室に溢れる程のオバケの面を見たり、庭先に幾百の髑髏がウヨウヨ積み重づて、十四五丈もある樣なシャレカウベの山を見てゐるうち、その一つの大きな頭から大きな眼が千萬もあつて清盛を睨みつける樣に見えたり、天狗が二三千疋も虚空で笑ふ樣な聲を聞いたり大木の倒れる樣な音をきいたりして、畫は五十人夜は百人の番兵を置いて、自分の幻覺卽ち幻

視、幻聽から起るオバケの襲撃に備へしめた。

斯樣に自分の狂うた心から不安と煩悶とで惱んで、苦しくてたまらないから仁安三年十一月十一日罪障消滅して心の安定を得たいと出家して淨海と法名をつけた。其の時五十一歳であつた。出家して念佛に心を清めた爲めか、多少安心して輕快し、所謂レミツション（中治り）の狀態で、翌年の夏の頃には一門の人々も御祝ひをした位であつた。

然し出家しても、やはり疑心は去らず、自分の惡口をいふものがある樣に思はれるので（實際にも惡口はいはれたらう）十四、五、六歳の禿童を三百人も選んで、市内を徘徊させ平家の惡口をいふものを搜しまはらせた。若しも一言でも平家の不平をいふものがあれば、忽ちその家に亂入して家財、金錢を沒收し、その人を逮捕して六波羅に繫いだ。

重盛がひどく父の惡心を苦にして遂に神經衰弱に陷り、死んでしまつたので、入道は益々その惡心を增長せしめて、狂暴な所爲を逞しうした。然し安德天皇（清盛の娘の御子樣）の御卽位の頃卽ち治承四年の初めには入道物狂はしくて、事々に邪になり、之を慰撫する爲に、入道の氣入りの宮島參詣を企てられたが、入道は神前に於て、天皇に自分の意の如く起請文を認めさせ申し上げた。然るにその翌年治承五年の一月二十七日賴朝追討の爲め宗盛が數萬騎を從へて出發しようとする日に清盛はあまり興奮した結果、腦充血を起して氣分わるく、翌日になると意識も溷濁して重態にな

り熱發して非常に高くなり、入道の病室に入ると熱苦しい程であつた。そして只アツイ〳〵〳〵と呻吟して苦悶狀態になつたので、人々が『ソレ始まつた』『ソレ見た事か』と門の外からその唸り聲を聞いて噂しあつた。そして比叡山の千手院の冷水をワザ〳〵汲み運んで石風呂に湛へ、その中に入道を入れて冷やしたが、水が熱の爲に沸きかへり、熱くなる位であつた。そこで筧の水を撒かすと燒石か燒鐵に水を注ぐ樣にチユツ〳〵とハネ返して少しも濕らない。たま〳〵入道の體に當つた水は湯氣になつて蒸發し、家中黑煙濛々たる有樣であつた。そして板に水を汲んでその上を轉がつたら少しはよいかと試みたが、少しも熱は去らず七日間最高熱（四十二三度位か）に苦しみ、輾轉苦悶して遂に四日に悶死した。

勿論牛馬、金銀財寶、七珍六畜を神佛に捧げて治癒を祈願し、當時の醫術の限りを盡したが、少しも効驗がないので、入道の妻二位殿が『遺言があつたら』と聞くと漸くの事で意識朦朧たる中にも執念深い遺言をした。『それは仇敵賴朝の首を見ないで死ぬのが此上ない殘念だ、死んだら供養も何も入らぬから賴朝の首を己れの墓にかけて呉れ！』と言つた。卽ち五十一歲から物狂はしくなつて、十四年間惱んだのち、あまり興奮して腦充血の發作を起し、腦の熱中樞痲痺を來して熱發作を起し、最高極度の熱發を來し僅か七日間で悶死したのである。

右之通診斷候也

清盛はチブスにあらず

醫師　佐多芳久

昭和二年二月十日

尙按ずるに平清盛の臨終の記事のみを平家物語又は源平盛衰記で讀んで、熱病で死んだから恐らく腸チブスだつたらうと診斷された向きもある樣に思はれるが、以上の如くその一代病歷の推考から察すると私は恐らく、進行性痲痺性癡呆症といふ精神病であつて最後の七日間熱に苦んで悶死したのは本病卽ち痲痺狂に屢〻見る熱發作の普通の體溫計（攝氏四十二度迄）では測定出來ぬ四十三四度の極度であつたものと解釋したい。チブスでも高熱で七日位で死ぬものもないとはいへないが、稀であらうし、又清盛のチブスの傳染系統も不明だし、又家人や看護の者に一人も傳染したといふ記事が何處にも見當らないのを見ても傳染病ではなかつたらしい。傳染病の知識絕無の清盛時代だから消毒などは全く思ひもよらぬことで、若しチブスであつたら側近のもの幾人か少くとも一人位は同じ熱病に侵されて、清盛と同じ業病にかゝつて死んだ記事があらうと思はれるが、源平盛衰記、平治物語、平家物語の何處にも發見し得ない。

進行性痲痺性癡呆症について

これの原因は黴毒で、感染後十年内外を經過した頃スピロヘーターが腦髓を侵して、精神變調を來さしめ、嫉妬妄想、誇大妄想（常に探偵がついてる樣に思ふ）被害又は被毒妄想（人が危害を加へたり、毒をのます樣な氣がする）幻視（ないものが見える。活動寫眞の樣なもの、オバケ、幽靈などが現はれる）幻聽（ない聲がきこえる、ラヂオの樣に色々の聲がきこえる）などといふ病狀が現はれる。

清盛の樣に發揚性、興奮性のもので智力が比較的侵されない病型と、反對に沈鬱となり漸次癡呆に陷る病型とある。興奮性のものは、判斷力がわるくなつて錯覺、幻覺が起り、妄想に惱まされて揚句に人殺しを能く演ずる。人の言ふ事は少しも聞き容れない。横暴、無謀全く限りがないものである。

清盛の如き皇室をないがしろにし、自分丈の榮達富貴を貪る病人が日本に出來ることは國體上決して許すべからざることである。清盛程の病人は出ないが、文明と共に黴毒が殖え、腦黴毒が多くなり癲癇性癡呆患者が年々增加する傾向のあるのは全く日本國體上由々しき大問題である。本病の撲滅は日本將來の爲に忽諸に附すべからざる研究課題である。

二、神經病學より見たジヤンヌ・ダルク

帝劇上演を見て

帝劇で水谷八重子がジヤンヌ・ダルクを演ずると聞いて、平素は觀劇など滅多にしたことのない私も、どうにか時間を都合してつひに出かけた。かつて大正六年に淺草の電氣館で外國物のジヤンヌ・ダルクの活動を觀た。私は自分の專門の神經病學からジヤンヌの奇蹟を考察して見たいが爲にその活動寫眞を觀た。今度も亦八重子の芝居を觀たかつたのである。かつてウイリアム・ヒルシュは精神病學からジヤンヌを慢性幻覺性偏執病であつたと論じた。しかし私は神經病學からジヤンヌの奇蹟は、ヒステリーの夢遊病中に起つた二重人格によつて行はれたものと考へたい。

西曆一四三一年五月三十日哀れにもジヤンヌが火刑に處せられて十九歲の花の盛りを煙と消えてから丁度五百年目の今年、八重子のジヤンヌを帝劇に觀ていささかジヤンヌの奇蹟を研究して見たいと思ふ。

ジヤンヌの幻覺

ジヤンヌ・ダルクは西暦一四一二年の正月佛國ミユーズ河の左岸に沿うたドムレミイの風光明媚の平和な片田舍に生れた。時あたかも佛國は一三三七年から英國との戰亂に長い間惱んでゐた。ジヤンヌは生れた時から、英軍のために敗戰に敗戰を重ねてゐる佛軍の悲慘な話を聞かされて育つた。一四二八年ジヤンヌが十六歲の時、佛軍は日一日と英軍の爲に壓迫されて、今や賴みとして居たオルレアン城も英軍の包圍攻擊を受けて全く孤城落日の有樣に陷つた。ジヤンヌは每日羊の群に交つて平和な日を送りながらも、朝な夕なにオルレアン城の危急のうはさを耳にしては、英軍の暴戾を憤りチヤールス王を氣の毒に思つて居た。田舍育ちの純な少女の胸には時折いひ知れぬ血の涙がうづくやうに躍るのを感じた。

ある日の夕方ジヤンヌは羊の守を濟まして我家にかへり、父母と家庭の團欒にオルレアン城の悲慘な話を聞いて居た。前からしば〳〵彼女の胸に躍つて居た若き純な乙女の血潮は、この時燃え上つて熱烈な愛國の念となり、王を救ひたさの同情の興奮は高潮に達し、つひにその血は頭に上昇し、顏はほてり、眼はかゞやき、耳は赤らみ遂に突然ヒステリーの發作を起したのである。そして若き血の動搖に心の冷靜を失つた彼女は我家に落ち着いて居る氣持の餘裕を失ひ、不安焦燥の氣分

になつて物に魅せられたやうにフラ〳〵と庭に出た。

そして聖母マリアの像を祀つてある寺院の方をヂーツと打ち眺めた。この時ジヤンヌは既にヒステリーの夢遊症を起して居たのであらう！　不思議！　寺院の空から一道の光明が燦としてまばゆくジヤンヌのひとみを照らし、同時にいづこともなく天上の方から聲があつた。ジヤンヌの耳にはセント・マアガレツト、セント・カザリンの御聲としてひゞいた。

『ジヤンヌよ！　なんぢは今佛國の國難を救ふ爲に戰場に臨めよ！』

ジヤンヌは空の彼方を見ると、そこにかゞやける星を以て飾られた七重の王冠をいたゞき、手に三つの百合の花を持つた聖母の幻影がはつきりと眼に映じた。『乙女よ！　躊躇する勿れ！　思ひ憂ふる勿れ！　唯將軍ロベールの下に行け！』

とジヤンヌの耳に神の御聲がひゞいて空の幻影は雲の如くに消えてしまつた。

ジヤンヌの耳に聞え、眼に映じた幻覺（ハルチナチオン）はヒステリーの發作中にしば〳〵起る現象である。

今やジヤンヌはヒステリーを起して既に平素の人格を失ひ、第二人格を示して、この幻視、幻聽の暗示に全く支配されて夢遊病となり、すべての行動は暗示によつて强く演出されたのである。

ジャンヌの性格

ジャンヌは以前から時折幻視を見るくせがあつた。それはジャンヌがツール寺院の大僧正に物語つた言葉がこれを證明してゐる。

『……私の家から程遠からぬ處に靈驗あらたかな聖母の祠があります。その傍らに一本の槲の木がありまして、私はその木蔭に立寄るのがすきでした。折ふし小羊が野山で行き迷うて歸らぬことがあると、私はその槲の木蔭でお祈りをして、一寸まどろむと、有難いことには聖母樣が私の夢にありありと小羊の居所を示して下さいました……』

これで考へるとジャンヌは、日頃からヒステリー性格を有して、朦朧狀態に於て夢幻の現れる習癖のあつたことが分る。

無教育な純眞の田舍育ちの小娘で何事も理性を缺いで、たゞ天性の直覺的な信念の厚い、信仰の深い感情的の純潔無垢な怜悧な乙女であつた。

由來幻覺は理性の勝つたものには起らない。却つて單純な無教育の感覺性の乙女でヒステリー性格のものがしば〳〵神の姿を認めたり、神の聲を聞いたりすることが屢〻ある。

天來の奇蹟

ジャンヌは空の彼方に神のまぼろしを見、神の聲をきいた時既にヒステリーの夢遊症に陷つて、二重人格が現れ、平素の怜悧な性格は消えて、勇猛大膽な戰士の性格に一變したのである。ある時は、深夜に床をぬけ出で、恐ろしい深山に分け入り、ある時は暗の夜をさびしい森の中にさまよひ歩き、時々『祖國の國難に赴け！　劍を帶べ！　甲をつけよ！　指揮の旗を振れ！』と聖母の聲を聞いて、これを實行しようと努力した。幻覺を信じ、これに支配されてすべての行動をとつた。そしてジャンヌの氣狂ひじみた不思議な行爲が人々のうはさに上つた。つひに一四二九年の春ジャンヌはミューズ河畔のウオクリユール城内に忍び込んでロベール將軍にその不思議な勇敢な行動と神の宣示とを示した。誰しもジャンヌは正氣の沙汰ではない、氣の狂つた田舍乙女としか考へなかつた。ロベール將軍も初めは相手にしなかつた。しかしジャンヌの病的信念は理論や脅威で打破することは出來ない。かへつてその幻覺と妄想とは人々の嘲笑と反抗とによつて強くなる。累卵の危險に迫り、盲龜浮木をつかむ佛軍の悲境はつひにロベール將軍をしてジャンヌの熱狂的希望をいれさした。

一四二九年五月五日妙齡十七歲のジャンヌは雄々しく軍裝して白馬にまたがり、ロベール將軍に貸し與へられたる一隊の兵士を指揮して、オルレアン城を救ふべく出動した。

途中ジヤンヌはシノンの城に王に謁見を求めた。初めは拒絶されたがつひに拜謁を仰せつけられ、いよ〳〵フランス軍の全指揮權をゆだねられた。

ジヤンヌは幻覺を信じて己れは全く神より遣はされたる佛國の救護者であると信じ、彼女の眼前には戰爭に對する不安も恐怖も危惧の念も更になく、たゞ大勝利の華々しい光景が夢幻に現れ、彼女に指揮せられる兵士は不思議な乙女ジヤンヌの威風に打たれて、燦爛たる銀甲に身をかため、丈にもあまる長劍をおびて白馬に打またがれるジヤンヌの雄姿を、天より下されたる軍神の化身の如く眺めて、軍勢の意氣は炎の如く燃え立つた。

數十年間英軍の爲に蹂躙せられて士氣沮喪して居た佛軍もジヤンヌの出陣によつて、その幻覺によつて敢然たる行動と敵に對することあたかも風にむかふが如き平然たる態度と、忠勇なる彼女の信念とに鼓舞せられて、將士は奮然として勇氣百倍堅く劍のつかを握つて立つた。

幻覺消ゆ

モーパツサンの作ラボルト大佐の物語に、『兵卒でも大將でも、女の居る場所であつたら皆我を忘れて進軍し、たふれるまで戰ふものだ。ジヤンヌがオルレアン包圍戰に軍勢の心を動かしたことを思ふがよい。ジヤンヌが女でなかつたら到底あのやうな神の如き奇蹟的捷利を得ることは出來なかつたに相違ない』といつて居る。

ジヤンヌが戰場の心理を話した言葉の中に『妾はあの時神の氣が乘り移つた如く氣が勇み立ち、駒のいなゝきさへ戰場へ妾を誘ふが如く聞えました。初めて乘つた駒も妾の意思を知つた樣に妾の意のまゝに柔順に驅けまはりました』

その七月盛大なチヤールス七世の戴冠式はあげられ、ジヤンヌの偉功は最高の名譽を以て讃美せられ、こゝにジヤンヌの幻覺による神の暗示の任務は全く終結を告げた。

ジヤンヌの夢遊病はこの時既にさめて彼女の二重人格は消え、舊の羊飼ひの田舍娘に心が立ちかへつて居た。王に請うて故鄕のドムレミイ村に歸らうとした。併しなほその時コムピエーヌ城の英軍包圍が解けて居なかつたので、再び指揮官を命ぜられてイヤ〳〵ながら出發したが既に夢遊病からさめてジヤンヌの幻覺は消えて居た。從つて奇蹟は再び現れずにかへつて無力な少女は捕虜になつた。牢獄に投ぜられたジヤンヌは『オヽ情ない聖母樣！　今は全く御惠みから妾をお見捨て遊ばれしか。神も天上に御照覽なきか！　天の御門は閉ざされて奇蹟は再び現れまいか？　あゝ全能の神よ！　何卒奇蹟をあらはしてこの身を牢獄より救ひ給へよ！』と慨いて見たが再び奇蹟はあらはれなかつた。かへつてジヤンヌは宗教裁判によつて『異端者！　神を冒瀆する者！　サタン！　惡魔！』と汚名を投げられて火刑の宣告を與へられた。

結論

偉大なる功績、佛國歴史の花、女傑として光彩燦爛たるジヤンヌはシヤープの彫刻にシルレルの戯曲によつて千古にかゞやいてゐる。その榮譽あるジヤンヌを取り扱ふに單に一個の病的人物と診斷し、その偉大なる奇蹟的勳功を單に一ヒステリー病者の夢遊病中の第二人格の行動であると評し去ることは、まことに冷酷な科學的觀察の憾を免れない。

しかし私はジヤンヌの偉功を崇拜し奇蹟を感歎するのあまり、如何にしてかゝる牧羊者の一少女がかくの如き奇蹟を演じたか、その眞因を究めたいが爲に、彼女歿後五百年の今日水谷八重子の雄雄しい妙技を帝劇に觀て、讃美の感に打たれてこの稿を綴つたのである。

三、大男・小男物語

豆男は智慧者

川柳子は、『大男總身に智慧がまはりかね』といつて居るが、ヌーボー式の大男は實際何處か象の

樣に間の抜けた所がある。之に反して小男には渾身智慧の塊かと思はるゝ程栗鼠の樣に敏捷なものがある。

『天才の身體は矮小なるを常とす』とロムブロゾーは喝破して、アレキサンダー大帝は身長に於ては小帝であつたことを述べ、アリストートル、プラトー、アルキメデス、ダイオゼネス、スピノザ、ヴエートヴエン、ハイネ、ブラウニング、イブセン其他五十八人の英才偉人の豆男を數へあげた。そして大男の偉人は破格で、僅かにゲーテ、シルレル、ショーペンハウエル、ピーター大帝、ワシントン、カーライル、ツルゲネフ、テニスン、ホイツトマンの如き少數の天才を選んでゐる。

レカマスはまた『最も偉大なる天才は最も細き身體を有するものなり』といつて居る。

大國主命と少彦名命

古事記を讀むと次の樣な話が載せてある。

大國主命が出雲の美保の岬に立つて、空打つ浪を眺めて居られると、海の方に突然人聲が聽えた。あたりを見廻しても何處にも人の居る樣子がないので空耳であつたかと思つて居られると、再び人の聲がする。そこらを蚤取り眼で見廻されると、パツと立つ浪の上に、豆殼の樣な小舟に乘つてくる小人が見える。熟〻見ると蟻に似た火取蛾の皮の全剝ぎにしたものを着物にして居る。大國

主命は餘りに小さいので珍らしげに指で摘んで掌に載せ、弄ぢつて居られると、ピョイと跳ね上つて頰邊にかじり付いた。大國主命はビツクリして、是は小さくても馬鹿にならない。『何といふ神か』と尋ねられたが返事がない。臣の者共に尋ねられると田圃の中に立つてゐる久延彦（案山子のこと）の一本足が進み出で、歩けないでも天下の事は何でも心得顔に『これは神皇產靈神の御子少彦名命と申される』といふので早速高天原に使を上せて伺はせられると、『いかにも其は吾が子である。吾が生んだ子はすべて千五百祁、そのうちで此子が最もいたづらもので吾が指の間から抜け落ちて行方不明になつてゐる。極めて小さいが智慧者であるから二人で力を合せて日本の國を作り堅めよ』との御返事があつた。

大國主命は今に傳はる大黑樣で共畫像で見る如く肥滿した大男で武勇にすぐれさせたが、之に反して少彦名命は指の間から抜け落ちる樣な豆男でありながらカラタチの豆殼の小舟で海外に渡つて、見聞を廣め、新知識を有して居られたから、醫藥の道に長じて病める者を癒し、弱きものを救ひ、又酒造の法にも精通して居られたから酒を造つては達者なものに飲まして喜ばし、又禁厭が非常に上手であらせられた位の智慧の化身であつた。

侏儒と巨人

ガリバーの小人國旅行記には少彦名命の樣な小人が顏の上を走りまはつて耳の孔や鼻の孔の中を覗きまはつて歩いたことを書いてあるがこれはお伽話である。

日本では一寸法師のお伽話がある。一寸法師は浪花の里の老夫婦が住吉神社に願かけて『よしんば親指程の子供でも』と拜んで出來た神の申子であつた。針の刀を麥藁の鞘に收めて腰にさし、お椀の舟を、箸の竿で淀川を操りながら京へはる〳〵上つて、三條公に仕へ、姫君樣のお供をして清水寺に參詣の途中、鬼の樣な當時の不良少年が飛び出して、姫君をねぢ伏せ、あはや暴行を加へんとした。『コン畜生奴！』と針の刀をスラリと抜き放ち一寸法師は不良少年の股の下からチクリ〳〵と刺して遂に彼を退治した。そこに落してあつた打出の小槌で背長を姫君から打ち出して貰ひ、俄に六尺大の大男となり、天晴れな忠勤振りが天子樣に聽えて堀川の少將に出世したといふのである。

支那では後漢書に侏儒國の物語が出て『人長三尺』と誌るしてある。

アイヌの祖先と云はる〻コロボツクルといふのは我國有史以前の人種であつて『蕗の葉かげに住む人』といふアイヌ語から名づけられた名稱であるといふから、たとへ秋田蕗の葉かげに住んだにしても、よほど小さな人種であつたらう。

大正四年頃露國から侏儒十人ばかりの見世物が來て、私は丁度京都醫大に居たので解剖の教室で彼等を見たが、一番小さいのを加明博士がヒョイと抱きあげて教室のテーブルの上に立たせてやら

れると、それで丁度普通の日本人位の高さになつた。この侏儒の醫學的觀察は福岡醫大から詳細に報告された。

大正五年頃支那人の侏儒の五十餘歳といふ老婆で、やつと二三歳の子供位のものが有樂座で見世物に來たのを見たことがある。

歐洲あたりにはこの種の侏儒が割合多いのか先年も巴里で侏儒の大會が開かれて、多數の豆男が集まつたといふ新聞記事を讀んだことがある。

侏儒には先天性及び後天性とあるが先天性のものは全身の發育が不完全なために常態に發育し得ないものが多い。全身釣合ひよく小さいのもあるが、多くは不釣合で、身體の割に頭だけが大きく見える。これは頭と軀幹は普通で足だけが馬鹿に短かいのが多いからである。後天性のものでは內分泌腺の障碍から起るものが多い。青年期以上に達して尙身體も精神も小兒の狀態を脫せざるものがある。

海岸　海岸　海岸

私の實驗例に十七歳の少女が九歳の時に仕立てた着物がそのまゝ着られるといふので、九歳の時から九年間に少しも發育しないと言つて治療を請うて來た。見ると體格、容貌、その他九歳位の少女としか見られない。只髮は赤くて油氣がなく、顏貌はシナビて艶が少しもない。手、足、背には薄毛が繁茂して氣味がわるい。身長四尺三寸一分、體重七貫百匁に過ぎない。既往症をきくと七歳

の時頸に瘰癧が出來たので或病院で手術をうけた。

瘰癧はなくなつたが、それ以來不思議に育たなくなつたといふのである。頸を見ると瘰癧を切除した痕がある。そして甲狀腺が消失して居る。卽ち瘰癧と共に切除されたらしい。それがため甲狀腺內分泌不足を來し發育抑止されてしまつたのである。早速甲狀腺錠を內服させるとメキメキ身長は延びる。薄毛は消える、顏色はよくなる、髮の毛は艶が出て延びる、着物の肩揚も腰の縫上げもとらねばならぬことになり、今年十九の春を迎へて、花も耻らふ娘ざかりになつた。九歳位の少女が二年たらずで十年分の發育を遂げ身長四尺六寸、體重十一貫になつた。

斯樣な病的侏儒はインフアンチリズムス（小兒狀態）といつて甲狀腺の內分泌減退から起るものが多いので甲狀腺錠で、之を補へば發育を促進せしめることが出來ること實驗例の通りである。

之と反對に甲狀腺の內分泌が旺盛な爲に其の骨格が馬鹿に發育して巨人となるものがある。

最近私の病院に來た患者で左の甲狀腺に腫物が出來て居たために恐ろしい骨格の過度發育を來たし、アクロメガリー（骨格肥大症）といふ巨人病となり、骨の端が特別大きくなつて、顴顴は胄の如く、眉はヒサシの如く飛び出し、頰骨は稜々として聳え、顎は角張り、肩、腰が張り、手、足が馬鹿に大きく、一寸見ても全く淺草觀音の仁王樣を見る樣である。その上聲が破れ鐘の如く大きい。

このアクロメガリーといふ病氣は甲狀腺よりは腦下垂體といふものの內分泌亢進によるのが多

い。

又全身巨大發育といふ普通に大男（ヂアイアント）といふ先天性に發育過良のものがある。我が國の力士は多く然り、今近代の記錄を辿ると、

明治大正年間

武藏潟伊之助	七尺
出羽ヶ嶽	六尺六寸
大砲萬右衞門	六尺五寸

江戸時代

釋迦ヶ嶽雲右衞門	七尺八寸
牛股武左衞門	七尺六寸
生月鯨太左衞門	七尺五寸
九國山新次	七尺五寸

西洋人

カイアヌス（フインランド人）	九尺三寸强（二八三糎）
ハンス・クラウ（墺國人）	八尺九寸强（二七五糎）

日本人と西洋人

日本人の巨人と西洋人の巨人とでは二尺の差がある。普通の體格に於ても、日本人は小さく西洋人の大きいことは誰も知つてゐる。

日本人の平均身長は男一五九糎、女一四六糎、西洋人の平均身長は男一六五糎、女一五四糎、卽ち日本人は西洋人より平均男六・五糎、女八糎だけ低いのである。

コムブロゾーやレカマスの言ふが如く『天才は小男に多い』とすれば西洋人より日本人に多くある譯であり、日本人は全體に於て西洋人よりは天才的であらねばならぬ理論になる。然し現代の文化を考へると、日本の文化は殆ど悉く西洋からの輸入である。日本人は猿の樣で人眞似天才であつて獨創的の才は至つて乏しい。全く日本の文化と西洋の文化の程度はその身長の差に於て見るが如く、文化と身長は正比例してゐる。

近日本人の體格の西洋人に比して劣つてる事に鑑み、大にスポーツが盛となり、體育が奬勵せられ、體質の改良が企てられてゐる。

現代の若い人は青年も少女も、古い人卽親より背が高く、體質がよいといはれてゐる。其體質の增進改良は喜ぶべきことである。然しその背が延び體が太ると共に其の內に潛んでゐた大和魂が

稀薄になりつゝありはしまいか。體質の增進と共に大和魂も濃厚增大せしめる事を忘れてはならぬ。

男はラツパ・ズボンを着てオールバツクに髪の毛を延ばし、女は洋裝に斷髪のモダーン・スタイルそれは形に走つて實質を忘れてゐるのではあるまいか。

不良外人の檢擧、モダーンガールの裏面、近頃新聞の三面記事を見るのも胸糞がわるい。

四、征極王アムンゼンの鼻

おどろくべき鼻梁

昭和二年六月二十日の夜、東京會館で催された報知新聞社歡迎會の席上で、征極王アムンゼンの偉容に接した。私の前をスレ〳〵に通る巨人の偉軀に威壓を覺えながら、チラとその顏を瞥見した時、私の得たファースト・イムプレツションは彼の雄大なる鼻であつた。

噫！　彼の鼻！　それは一世を驚倒せしむる破天荒の企業的性格を示すシムボルである。

エヂプトを征服したシーザーの鼻がこれであつた。卽ちローマン・ノーズの代表である。

歐洲の天地を馬蹄のもとに蹂躙し去らんとしたナポレオンの鼻も同型であつた。

ローマン・ノーズ　普通

意氣揚々たるナポレオンの鼻ツ柱を一朝にして挫き去つたウエリントン侯の鼻も同型である。然も侯の鼻は遂に『ウエリントン型の鼻』として攻擊性の典型とさるゝに至つた程有名である。

ネルソンの鼻もやはり同型であつた。

シーザー、ナポレオンやウエリントン、ネルソンの如き海陸に於ける戰爭の征服者と同型の鼻を有するアムンゼンが平和の現代に於て兩極の征服者として成功し、極地にその足跡を印して全世界の人類に一大ショツクを與へたことは、蓋し偶然の出來事にあらずして、生れ落ちると共にアムンゼンの生涯はその征服鼻によつて開拓せらるべく運命づけられてあつたのだ。

彼の鼻は征服鼻である

然らばその征服鼻といふのは、如何なる鼻か。少しく說明を試みる。

科學的觀相の權威者オツペンハイムは鼻の形態によつて鼻型を四種に區別した。

その第一型に屬するものが卽ちローマン・ノーズ、ウエリントン型の征服鼻である。

鼻梁の上部が隆起して小山を形成し鼻が顏面より著しく聳えて高いものである。一名武人鼻といひ一軍の指揮者となるべき首將に多く見る鼻であるから、又之を攻擊性の鼻とも謂はれ、日本では之を劍鼻と唱へる。昔時戰爭を好み、外國を攻擊し征服したローマ人の鼻が多く此型であつたから、之をローマ鼻と云ふ樣になつたのである。

この型の鼻は企業的性格の表徵であつて、其性質强硬、自ら進んで事に當り萬事積極的にして、他の抵抗に遭遇すると雖も、一歩も退くことなく、不屈不撓却つて一層の努力を以て之を遂行せんとする敢爲の氣象を表徵するものである。卽ち意志强靱努力遂行の鼻である。

彼の偉業は鼻の力

アムンゼンは『少年の折二つの希望を抱いて居た。一つは極地を窮めることで、二は日本を訪ふことであつた』と歡迎會の答辭に述べた。

極地征服の希望は卽ち彼れが少年の時に既に萠して居たのであるが、青年になつた時兩親の希望によつて一旦は醫者になるべく醫學校に學んだ。然し彼の征服鼻は醫學の如き區々たる人間の脈を見るが如きことに到底滿足させては置かなかつた。遂に彼は斷然この抵抗を打破し、少年時代から

の希望に方向を轉じて二十五歳の時から愈〻極地探險の計畫に向つて突進し、三十年の間あらゆる艱難辛苦、惡戰苦鬪したが、更に其目的を飜へすことなく、勇猛邁進、細心沈着の態度を以て科學的に、合理的に探險の進路を開き、一九一一年十二月十四日には南極を窮め、更に一九二六年五月十二日には北極に到達した。遂に彼は少年時代からの初一念を貫徹してその高い鼻の威嚴を全世界に發揮し、十億の人類を呀ツと言はしめた。

此の地球創造以來未だ嘗て人類の足跡を印したことのなかつた南北兩極を窮めた破天荒、萬古不易の大偉業を完成したアムンゼンの名譽は全くその高い鼻にかけて誇つても〳〵尙足りない程である。

彼の鼻を讃美する

アムンゼンの鼻は人類最高のモンブランである。彼の橫顏を見る時、眉間よりおもむろに、そそりたつ隆々たる鼻梁の如何に雄大にして、儼然たる鼻翼の如何に莊嚴なるかに感嘆せざるを得ない。彼の絕大なる自我を示し、鞏固なる意志を表はし、萬難襲ひ來るも嚴然として動ぜざる自信のシムボルとして据ゑ付けられたるその鼻梁は實に世界萬古の偉觀であり、人類絕頂の誇りである。

由來鼻は人間性のシムボルとされてゐる。鼻の高さは個人性の强度及遂行力に比例し、鼻の大

さは人物の力量及活動力に比例する。

アムンゼンの鼻は高さに於て類なく、大きさに於て比を他に見ない。即ち彼の鼻の高さは有爲敢行の意志の強さと努力遂行の力を示し、彼の鼻の大なるは企業開拓の力量と震天撼地の活動力を彰はすものである。

歡迎會の席上宮川氏は刀畫によつてアムンゼンの漫畫を描いた。先づ第一に切り張りされたのは横から觀た特徴のあるアムンゼンの征服鼻であつた。宮川氏の漫畫眼に映じたる第一の印象はやはりアムンゼンの横鼻であつたことを思ひ、私の精神醫學、科學的觀相の眼に映じた最初の印象も同じくその鼻の偉大なる點であつた。

私は深くアムンゼンの鼻を讃美する。彼が前人未發の偉動を萬古に垂れたのは彼の鼻の力である。大磐石の如く巖として搖がざる彼の鼻の故である。

彼の鼻と體格

鼻の高さと太さは脊髓の長さと太さに比例するものである。即ち鼻が高く太いと身體の中軸たるべき脊柱が長く太い。從つて身長が高く體格强健である。

アムンゼンの鼻の高さと太さは又能くその聳ゆるが如き雄大なる體格と一致して居る。彼の骨格

は巨人を示し彼の筋肉は不撓のエネルギーを示してゐる。

鼻の形は其の人の姿勢動作を表はす。

アムンゼンの正しき鼻梁は彼のスラリとして聳ゆるが如き姿勢と秩序整然たる動作を想はしめる鼻柱の正しきものは心の正しきものである。

アムンゼンの正しき鼻柱は彼の人格の正しさを示してゐる。」

彼の鼻は金に縁が薄い

鼻の高い人は金持ちにはなれない。

アムンゼンが極地征服の壯圖を企てる度毎に資金の缺乏に苦しんだことを彼の傳記で讀んだ時、やはり彼の高い鼻が災ひして金とは縁が薄いのだと察せられた。高潔なる彼の人格と一致する。

鼻の赤い人は金庫に火がついた樣なもので金が溜らぬといはれる。

アムンゼンの鼻はやはり少しく赤い樣であつた。

鼻の穴の大きい人は金が溜らぬ。

アムンゼンの鼻は高く太いから鼻孔も大きいのであつた。

彼の鼻と呼吸器と心臓

鼻の大きい人は呼吸力が強く肺が丈夫である。且つ心臓も強い。

アムンゼンの鼻は大きいから呼吸する空氣の量も多く鼻息は荒いに違ひない。鳥獸さへ棲息してゐない寒氣凜烈の極地を征服するには強健無双の呼吸器が必要である。強い心臓が肝心である。

鼻の大きいアムンゼンの呼吸器は健全無類能く極地の凍れる空氣を吸うて鼻風一つ引いたことを聞かない。如何なる冒險に遭つてもビクともせず、動悸も感じない。

彼の鼻と腦髓

次にアムンゼンの鼻と腦髓の關係を批判することにする。

鼻梁、鼻翼の發育は頭蓋に於ける顱頂部と顳顬上部の發育に比例するものである。而して顱頂部に存する腦髓の顱頂葉には四肢の運動中樞があり又軀幹中樞即ち脊髓中樞なることを唱へられてゐる。即ち直立、直行の中樞であつて、この顱頂部の發育は人間に於て最も絶頂に達し、動物に於ては極めて劣つてゐる。即ち人間が直立直行して動物と全く異る姿勢を取るはこの部が特殊の發達をなせるが爲である。換言すれば顱頂葉の發達の程度は人間性の優劣の標準となるのである。

鼻の高く太い人の顱頂は著しく發達して居る。即ち最も優れた人物であるといへる。

アムンゼンの顱頂は鼻のそれの如く能く發達して廣く張つて居る。彼の人物の優秀なるを示すものである。又彼の骨格の雄壯なるはこれが爲である。

アムンゼンの鼻がその顏面に於て主人公の如く眼や口その他を壓倒して、鼻即ち顏たるの觀を示して居るが如く、アムンゼンの頭蓋に於ては顱頂部から顳顬上部が最も能く發達してゐる。

然し顱頂部は自尊、强硬、持續、名譽、正義、希望等の心性を示し、顳顬上部は警戒、宏大の心性を表はす部分とされて居る。即ち顱頂及顳顬上部の發達せる人は自尊心が强く自重益〻向上發展を圖るの氣旺盛にして、意志强硬、不屈不撓の精神に富み、忍耐持久目的を變更することなく、ネバリ强きこと驚くべき程で、名譽を重んじ大望を抱いて進取の氣象に溢れ、正義の觀念强く、遠大なる希望を抱き高尚なる目的を持し、蹉跌失敗に落膽悲觀することなく更に奮鬪を續ける。然も注意警戒して亂暴なる突進を抑制し、宇宙の宏大自然の雄大に憧憬して之を味ふを無上の愉快とするの性格がある。

アムンゼンの鼻に比例して、その顱頂及顳顬上部の發達せる爲に上述の性格は能く彼を說明し得るのである。

× × × ×

以上アムンゼンの雄大なる鼻相を調べ、鼻に對應する腦の發達を研究して彼の性格及偉業の偶然ならざるを發見して之を科學的に私は說明した。

彼の今後の運動

彼が五十五歳の今日までの運命は全く彼の鼻の示すが如くであつた。卽ち鼻は中年に於ける運命の表徵である。

彼れが後世の運命は果して如何？　之を彼の相より豫想するも亦無意義ではあるまい。

晩年の運命は顏面下部によつて相する。

彼の頭蓋及顏面の上部（額）と中部（鼻と其兩側）の發達偉大なるに比して顏面下部（口から顎）の發達あまり著しからざるを見る。彼の顎は顏の上部に比して稍狹く小さい樣である。

下顎の圓滿なるは居宅安かに家族圓滿であるが下顎發達せざるは居宅に安住すること少く、妻子に緣薄く晩年を淋しく暮すの相である。

アムンゼンは居宅に安住するの暇なく三十年間殆ど探險の爲に地球の兩極に奔走して、妻帶する餘裕もなく遂に五十五歳の今日まで獨身を守つて居る。而して彼の告白に曰く『結婚は極地探險以上の暴險である』と。

彼の晩年は彼の下顎の狹きが如く、家族の樂しき團欒に緣が薄いが靜寂なる餘生を送れば安全な運命であるかと思はれる。

神秘なる餘生、それは神のみが知る事である。彼の狹つた下顎が災ひせずして幸福なる晩年を終ることを祈つて玆に謹んで筆を擱く。（昭和二年六月誌）

附記。　この篇が報知紙上に載せられると、アムンゼン翁は『私の鼻を科學的に讃美して頂いたことを喜ぶ』と感謝され、『歸國の上自叙傳を著はす豫定だから、この一篇を是非その中に入れ度い』と希望せられた。そして寫眞に自署して贈られたのであつた。然るに其翌年丁度一年目の一九二八年六月、ノビレ少將の北極探險飛行船イタリア號が極地で墜落遭難したので、ノビレ少將を救援の爲にアムンゼンは六月十七日ギルボー少佐號に乘込んでオスローを出發した。其後遂に行方不明になつてしまつた。悲愴なる彼の最期は彼の下顎が暗示した通りであつた。噫乎！（昭和六年十月誌）

五、シーザーの病（てんかん）

癲癇は天才病

ローマの英雄ジユリヤス・シーザーは時々手足に痙攣を起し、眩暈を覺えて、失神する癖があつ

た。戰場に出陣して居た時にもこの癲癇發作が二度も起つた。或る時、上院の元老達がシーザーに無上の敬意を表せんが爲に、執政官や將校達を引き連れて、シーザーを訪れた。シーザーが、いざ元老達に謁見しようとする時、あまり感激したためか、生憎例の失神發作を起して椅子に凭れたまま茫然として何の挨拶もしなかつた。元老達はシーザーが起立して禮儀を以て恭しく迎ふるであらうと思つたのに反して、シーザーのこの態度を故意にしたものと、不滿を抱いて怒つて退出した。シーザーは失神から醒めて我にかへつた時元老達の姿は既に見えなかつたので、彼の驚愕は一通りでなかつた。急遽狼狽してシーザーは我家に歸り衣冠をかなぐり捨てゝ今日の失態を悔いながら、『何人にても我を殺さんと欲するものは來つて吾が咽喉を刺せ！』と絶叫した。この失神發作は彼の運命の上に重大なる影響を與ふることになつたのである。

ピーター大帝も亦時々痙攣を起した。彼の顔がひどく、ヒキツケて歪むことが屢ゝあつた。彼とカザリンとの間に出來た息子も亦癲癇に惱んだ。

マホメットも癲癇病であつた。彼は失神發作の後で何時も幻影を見た。或る時は天使が人間の姿となつて、彼の前に現はれ、啓示を與へる聲が聞えた。時には猫か兎の聲に聞えたり、鈴の音の如く聞えることもあつた。そして、これらの幻覺から醒めると彼は非常な悲哀な情緒に襲はれて、若い駱駝の如く咆えた。

使徒ポウロも癲癇であつた。初め彼は基督を惡んでゐた。そして基督の弟子がダマスクで傳道してゐることを聞いて、祭司の長から彼等基督の一味を捕縛する許可を得て、エルサレムを出發したが、ダマスクの平原に近づいた時、急に彼は興奮の結果か、癲癇發作を起して卒倒した。その失神發作中に彼は幻覺を起して基督の姿を視『ポウロ〳〵、汝は何故に我を責むるや』といふ基督の聲を聽いた。その日からポウロは、生れ代つた樣な氣持になつて、最も熱烈な基督教徒となり自ら使徒と名のつて、基督の偉大なる味方となつたのである。

クエーカー宗の開祖アンリーも亦癲癇であつた。そして彼女は基督の姿を見、その精靈を屢ゝ認めたといふことである。

其他西洋の偉人で癲癇を患つてゐたといはれる人々に、ナポレオン、モリエール、フローベル、リシューリュウ、スウイフト、ニウトン、ダルウイン、スコツト、ドストエフスキー（彼の著作は殆ど癲癇患者の告白である）など數へ上げると多數にある。

東洋の偉人に就いては不幸にして私は未だ文献を精細に調査してゐない。

天才論の著者ロムブロゾーは言つてゐる。『癲癇が最も優秀な人々に屢ゝ起るものであるといふことは、以前から考へられて居た。然し癲癇は天才一般に通有な病氣であつて、天才そのものが癲癇性であるといふ推理を暗示するものであると認めることが出來る。但し天才の生涯には、癲癇性の

發作は極めて稀に起るものである。これは痙攣や失神發作に代るべき病的徴候（代償症）が、かの創作力の如きものとなつて現はれるからである。然してそれは、かの發作に比して寧ろその回數も多いし、その度も強いといつて、よい位である』と唱へ、シーザーの大征服も、ナポレオンの偉業も、ニウトンの大發見引力説も、ダルウインの進化論も、皆彼等の持病であつた癲癇發作の代償症の產物であると推論してゐる。

斯くの如くロムブロゾーから天才病として推賞された癲癇とは、果して如何なる病か、この病に侵されてゐるものは果して何れも天才か、毎日私の診察室を訪れる多數の癲癇患者に就いて考察し、優生學上癲癇患者は優秀なる人として、益〻其の出現を計るべきか、或は劣等の人として、之れが撲滅を企圖すべきものか、少しく述べて見たいと思ふのである。

癲癇の病型

癲癇といふのは『急に倒れて意識を失ひ、口から泡を吹き、暫らくするとケロリと治る病である』といふことは誰でも知つてゐる。

然しこの倒れて泡を吹くといふのは單に一時の發作にすぎないで、癲癇といふ病は單にこの發作のみではない。泡を吹く失神狀態以外の平素の無病狀態に見える時にも、尙病的な色々の變調があ

るものである。そこで癲癇の話をするには（一）癲癇發作（二）癲癇性格の二つに區別して述べる方が都合がよい。

癲癇發作

スヤ〳〵と安らかな夢を貪つて眠つて居た人が、アアツ！　と奇聲を發してフンゾリ返り、顏をひどく歪めて、齒をくひしばり、眼球をむいて、兩手は虛空を摑み、足を棒の如く突つ張らしたかと思ふ間に、顏も手も足もピクリ〳〵と痙攣を起して、顏は忽ち朱を浴び、或は紫に變り、宛然惡魔にさいなまるゝが如く悶絕！　苦惱！　側から手もつけられず目も當てられない有樣、今にも息を引き取るかと思はるゝ程の悲慘な光景を演ずること僅かに二三分、呼ばれた醫者が慌てゝ馳け付ける頃にはケロリと涼しい顏をして、何で醫者が來たのかと不思議な眉根をよせ、今の今自分が演じた七轉八倒の苦悶も知らずに居る。

この樣な强い痙攣發作の後には一旦醒めても疲れの爲に、再びスヤ〳〵と三十分か一時間の熟睡を貪るのが普通で、醒めると全く平常に復し、頭痛もなく、氣分も爽かである。發作中のことは無意識で全く記憶がないので、人から話されなければ、何も知らない。

この發作には輕重色々の程度があつて、輕いものは唇か眉がピク〳〵と動くか、輕い眩暈を覺え

るか、胸元に異様な感じがする位で、意識には少しも障碍のないことが多く、道を歩行いて居ながら四五間位の間無意識であるいたり、食事中にチョット眠をする。て箸を落したりする位のものもある。重いのは先に述べた様な強度の痙攣失神から、又一日幾回も發作が頻發するものもある。

この發作の回數は一ヶ月に一二回位といふのが最も多い。然し年に一二回、二三年目に一回位といふ稀に起るのもある。又一週一二回、毎日一回位、一日數回といふ樣なものもある。最も甚だしいのは私の實驗で輕い發作が一日百四十回迄計算して後は回數不明といふレコードがある。發作の回數は發病當時は極めて稀であるが、年を加へるに從つて回數は增して行くのが普通である。

發作の起る時期は定期的なものが多く、大抵個人的に時期が一定してゐて毎年四月の中旬頃とキチンと日を選ぶのもあり、毎月末頃といふのもあり、女では月經の前後に多い。然し一般には春夏秋冬の時候の變り目、殊に春秋の氣候の變化著しい時に多く發作する。

發作の時刻は夜間に起るものが多く、夜間癲癇と名付けらるゝもののある位である。夜間でも朝の醒め際に最も多く、次は眠りばなに多い。夜半熟睡してゐる時に起るものは少い。晝間に起るものもあるが、晝間に起るものは多くは發作の回數の多い人である。大抵は自宅で起るもので外出先で起ることは少い。然し回數頻繁なものは外出先きでも屢〻起る。

子供や學生は試驗の前後卽ち勉强で頭の疲れてゐる時、睡眠不足のある時に多く起る。又活動を

見た後か、遠足で疲れて歸つた後か、何か刺戟をうけ感動したり興奮することのあつた時に起る。又便秘したり、胃腸の工合の惡い時、殊に過食した後などに多い。大人では酒を過した時、喧嘩した後、强く精神を惱ました後などに多く發作襲來する。

癲癇性格

癲癇を患つて居る人は發作と發作との間歇時、卽ち普通には無病息災に見える平常の時にも、精細に觀察すると、多くの場合に精神又は擧動に多少の變調を認めるものである。換言すれば、癲癇患者には病的の性質、又は癖がある。之を癲癇性格と稱し、普通人と違つた個性を有するものが多い。

この癲癇性格は全く個人的で又その程度も色々であつて、恰も癲癇發作の程度や回數に種々の相違があると同じである。輕度のものでは、あまり、目だたない。甚しいのでは色々の奇癖、奇行があり、奇人といはれるものがある。

一般に感情の障碍が多く、不安で、氣分が變換し易く、不機嫌がちの事が多く、或は沈鬱となり又は興奮したり、發揚したり、或は性質が强情で人と相容れなかつたり、非常に執拗で、執念深く物を疑り、人の言ふことを中々聞かなかつたり、或は猜疑心が强く人のすることを常に惡意に解し

て人を怨んだりする。或は何かに熱中して、綿密な事に根能く努力したり、普通の人では耐へられないことを仕遂げたり、馬鹿々々しいと思はれることを眞面目に研究したりする。判斷力が障碍されて、何でも自分勝手の解釋をし、つまらない事に激昂したり、或は誤れる判斷の下に思ひがけない犯罪を行つたりすることもある。或は大變に几帳面で、萬事をよく整頓し、つまらぬ反古や布類を整頓して保存したり、非常に溫和で禮儀正しく、又は潔癖で掃除をよくしたりする。時には平素謹直で、猫の様におとなしい人がつまらぬ原因で殺人罪を犯したり、放火したり、又常に色々の犯罪行爲を癖とするものもある。

癲癇朦朧狀態

身分賤しからぬ婦人がつまらぬ品物を萬引したり、謎の家出をしたりするものの中には癲癇性の一時的意識朦朧の爲に自省力を失つて行ふものが屢々ある。この癲癇の意識朦朧狀態といふのは、眼をあいて、他所目には普通と一寸變らぬ様に見えながら、當人は夢幻の境にあつて、その時には知つた人と會つても分らないし、丁度寢呆けた時と同じ様な精神狀態にあるのである。この朦朧狀態とは輕重色々の程度がある。輕いのは前に述べた一瞬間の失神（アブサン）で、四五間位を夢中で歩行く位であるが、重い長いのではバリーからボンベイまで旅行して其間の事を少しも知らなかつた例がある。

この朦朧狀態の時には、夢遊症がよく起る。この時にはよく人格轉換して平素の人格を失ひ、別種の人の様になつて不思議な奇行を演じたり、犯罪をしたりする。ドストエフスキーの小說にはこの朦朧狀態の描寫が極めて綿密に色々の不可思議の行爲を書いてある。

癲癇患者の精神障碍

先きに述べた様に癲癇患者は平素にも精神變調が認められるので、その變調が天才的なことが少くない。つまり精神變化が良い方面に展開される時は天才的となり、偉人化し、一世を驚倒する發見や偉業を成就する。然し多くの場合、殊に私共の診察室で遭遇するものは其の精神變調は惡い方面のみといつてよい位である。

癲癇發作が頻發する様になると其腦は次第に萎縮して漸次に智力は衰へ、記憶力理解力、判斷力、殊に決斷力が鈍くなり精神作用が一般に遲鈍となり、進んでは癡呆狀態に陷るものが少くない。

六、ナポレオンの横顔

功名慾の權化病

獨逸の劇作家オイレンベルグは其の著述、『偉人の面影』の中で言つた。

『天才とは功名慾の固つた一種の病氣である。晩年のナポレオンはすつかり、この病氣の捕虜となつて居た』と。

非凡稀世の天才、大ナポレオンを批判するに、功名慾の權化病！　と診斷を下したオイレンベルグの言葉には蓋し味ふべき多量の價値がある。

拔山蓋世の偉人として、波瀾重疊の一生を送り、驚天動地の活劇を演じ、劇的生活を羅列して、悲壯無慘の終焉！　を遂げた大ナポレオンの横顔を醫學的に觀察して、彼の偉業の解剖を試み、彼の性行を分析して、空前の大天才の面影を欣慕するも蓋し徒勞の業ではあるまい。

ナポレオンの血族歴

父カロルは三十九歳で胃癌で死亡。ナポレオン十六歳の時である。父の職業は辯護士で性質冷酷、殆ど家庭を顧みず、父子の愛情に乏しかつた。

母レテイーツイアは晩年に失明したが、ナポレオンの死後十五年目に八十六歳で胃癌で死んだ。勤勉で質素で剛毅で、しかし想像力の乏しい優し味のない人であつた。

兄ジョーゼフは七十六歳で死亡。人好、慾深。

弟ルシアンは六十五歳で死亡、雄辯家、遊蕩。

妹エリーザは五十歳で死亡、不良女性。

弟ルイは六十六歳で死亡、詩人肌。

妹ポーリンは四十五歳で死亡、豪華、自由奔放の天才肌の美人。

妹キヤロリーンは五十七歳で死亡。

末弟ジエロームは七十六歳で米國で死亡、無能。

ナポレオンの父母共に胃癌で斃れた。胃癌の濃厚な遺傳をナポレオンは父母から受けて居た。

ナポレオンの體質

ナポレオンは西暦一七六九年に生れた。

彼の肖像を多くのもので見るに、二十臺の無名時代には榮養不良の神經質の體質である。三十歳頃の總督時代にもまだ瘦軀である。

彼の身長は一六二糎（五尺三寸五分）あつた。西洋人の平均身長一六五・五糎（五尺四寸六分）に比べて著しく小さい。彼の瘦軀矮小の體質は全く天才的の標本である。

レカマスは『最も偉大な天才は最も細き身體を持つものである』といつた。天才研究の權威ロムブロゾーは矮小の天才としてアレキサンダー大帝以下六十人をあげ、瘦軀の天才としてデモステネス等十七人をならべて、最後にナポレオンの名を加へ『彼等はみなその壯年時代には極めて瘦せ削けて居た』と述べて居る。

然しナポレオンの第一帝政時代の三十五歳から四十六歳までの肖像を見ると、何れも豐頰肥滿、腹部便々として血色良く、健康の典型ともいふべき强壯體質を示してゐる。

由來四十臺の强壯體質は胃癌を發し易いものである。ナポレオンは父母から濃厚な胃癌の遺傳を受けてゐる。

それは一八一五年彼が四十六歳の時、豪奢な皇帝の生活から急轉直下して、絶海の孤島に幽囚の生活を送り、五十年前に建てた古廐小舍の陋屋に粗衣粗食の悲慘な生活を營んだ爲に一八一七年頃から胃癌の徵候が現はれて來た。

一八二〇年の終り頃から病勢は急に進行して刺すが如き胃痛、胃部膨滿、食慾不進、惡心嘔氣、嘔吐あらゆる胃癌の苦痛に惱まされて癌は肝臟にまで蔓延し、苦悶に苦悶を重ねて全身羸瘦し遂に一八二一年五月三日から危險に陷り昏睡の儘遂に五日の午後五時過落日と共に永久に消ゆるが如く此世を去つた。

ナポレオンの持病

ナポレオンは幼少の頃は强い神經質であつた。十六歳の時少尉になつたがその後二十歳頃の日記によると『仕事の外に避難場はない。一週に一度しか肌着を換へない。體具合が惡いので夜はあまり眠れない』といふ樣な記事がある。又當時の彼の風貌を記したものによると、

『彼はどこに往つても人に妙な眼で見られるところから、自然と世間嫌ひになつて、しまひには頑固の神經衰弱に罹つて居た。さうして頭痛や便秘に苦しんでゐた。殊に臭や色、雜音などに苦しく敏感であつた』と記してある。

ロムブロゾーの『天才と狂人』の中にはナポレオンの名が二十三ケ所にも引き出されて居る。

ロムブロゾーに據るとナポレオンには癲癇の持病があつた。無意識に顔や唇がピク〳〵と痙攣したり、右の肩が思はず動いて、手がブル〳〵とをどつたり、歩るくに膵腸が痙攣して足どりが蹌踉

くことがあつた。無數の印象が彼の頭に浮んでくると身體中のあちこちに痙攣を起すことが屢々あつた。又情緒が激しくなると泣かずには居られなかつた。

『私の神經は興奮し易いのだ！』とナポレオンは常に自白してゐた。

ナポレオンの癲癇發作は平生は極めて小發作に過ぎなかつた。然し前後二回極めて強い大發作があつた。それは一八〇九年五月二十二日と一八一三年八月二十八日である。一八一三年の時は丁度サクセンに侵入の時であつた。

ナポレオンの心臟

ナポレオンの脈搏は一分間四十に過ぎなかつたと記され、又六十とも記されてゐる。普通、人の脈搏は一分間七十から八十位である。體軀の小さい人は割合に多いものであるが、ナポレオンは短軀にして而も甚だしい遲脈であつた。

脈搏即ち心臟の鼓動と氣質とは大きな關係がある。小心翼々の小膽臆病の人は脈が多く、神經過敏の人は心臟が躍り易い。沈勇豪膽の人の心臟は落ちついて搏動する。ナポレオンの脈が少かつたことは實に彼の豪膽を物語るものと考へられる。拔山斷海の勇、能く埃及を征服し、衝天蓋世の膽能く歐洲の天地を蹂躙した彼の征服的氣象は全く其の心臟が人並外れて泰然として搏動してゐたか

らであらう。

スコットの記述によるとナポレオンの歿後其翌日即ち五月六日に行はれた屍體解剖の際にナポレオンの從者等が彼の心臟を保存してこれを永久に傳へんとの希望を有して居た。然し英國の提督サア・ハドソン・ローは自分一人の責任を以つて之を許すだけの自由を有しなかつた。けれども彼はナポレオンの心臟を銀瓶に入れて、アルコール漬にし、遺骸と共に埋めて置いて、他日本國政府から許可の指令が來た際にはこれを發掘して歐洲に持ち歸る用意をしておくことだけに贊成した。然し一八四〇年（歿後二〇年）にナポレオンの遺骨が發掘されて巴里に移された時、彼の『銀瓶の心臟』については何等の記事がない。恐らく二〇年間の埋沒によつて腐敗消散して跡形もなかつたものであらう。

ナポレオンの氣質

一世の麒麟兒、歐洲の天地に風雲を湧かした剛勇沈着、果斷決行、精力絕倫の偉人もその一面に於て神經は非常に過敏で、人並み外れた神經質であつた。從つて短氣で癇癪持ちであつた。或る時は洋服が氣に入らないで火中に投げこんで燃してしまつた。或る時はルイ皇太子を室外にひどくこづき出したこともある。或る時は上院議員のヴルニイの橫つ腹をひどく蹴つたことがある。カンボ

ールミオでは墺太利全權大使の抗議の結末をつける爲に美しい陶器を投げつけて毀してしまつた。

彼は落ち付いて椅子にジツとして居られない癖があつた。室内をグル〳〵歩るき廻つたり、何や彼やと色々のものに手を出したりした。

一度に數人の秘書に口述して、秘書が間に合はなかつたりすると非常に機嫌をわるくして怒るので大變だつた。

ナポレオンは自分の神經があまり過敏になつて怠らなくなると、きつと熱い湯につかつてゐた。しかも普通人とちがつて數時間も漬かつてゐた。英國と開戰の時の如きは三日三晩ぶつ通しで四人の秘書に口授してそれがすむと熱湯の中に漬つたまゝ六時間また口授した。

すべて偉人には沈着な一面と神經質の過敏な一面とがある。それで呑氣な樣でしかも色々の細かい事に氣がつき人心の機微を洞察するものだ。ナポレオンもやはり其の例に洩れなかつた。

夜半寢て居ても何か頭に浮んでくると、ガバとはね起きて秘書に口授した。彼の不眠は有名なものであつた。しかし又隨時隨所に彼は自由に居睡りをする名人であつた。

陣中馬上でも彼は屢〻居睡りを催した。しかし彼の『てんかん』がかろく起つてゐるのを人は居睡りの癖と考へたのかも知れない。

兎に角興奮し易く、激怒し易く、神經過敏な一面のあつたことは、一方豪膽沈勇を外に示し、内

ではその安全瓣が時々爆發したのかもしれない。

今彼の性格について彼の正顔、横顔、頭蓋（デス・マスク）等について觀察した上批判を下したいと考へる。

ナポレオンの顔

ナポレオンの顔面を觀る。先づ之を天、地、人の三部に分つて觀察する。

（一）天は腦天（顱頂）より眉毛（上眼窩緣）までの部とする。この部は腦髓の存在する部分でありつてその天分即ち先天的の素質を示す所である。即ち腦力、精神機能の發現する所である。

（二）地は鼻下より顎までの部分とする。この部は主として動物的の生を養ふ器官即ち口と下顎骨と舌との存する所である。即ちその人の健康保持の役割をつとめる部分である。

（三）人は眉毛から鼻尖までの部とする。この部には五官器のうち三官器がある。即ち心の窓である眼があり、物を嗅ぐ鼻が聳え、横には音聲を聽くべき耳がある。即ちこの部は凡ての見聞より知識を吸收する部分であつて、人間としての性格を作る根源地である。

今、ナポレオンの寫眞及び肖像畫についてその天、地、人三部分の發育の比例を研究する。

私の手許にある、彼の少年時代から晩年までの十四種類の寫眞及び肖像から天地人の比例をとるとその平均率は次の樣になる。

顏面全長（腦天より顎まで）	一〇〇、〇%
(A) 天（腦天より眉毛まで）	四三、七%
人（眉間より鼻尖まで）	三一、〇%
地（鼻下より顎まで）	二五、三%
(B) 天	一〇〇、〇%
人	四六、九%
地	二九、七%
顏面	二三、四%

である。

フローレンスの國立美術學校所屬美術館（ギヤラリーヤ・アカデミー・スコーラー）秘藏のナポレオン一番似てゐる當時の肖像畫（皇帝時代）』についてその天地人の比を調べると、

（一）戴冠式當日のナポレオン →
拔山蓋世の偉人の發達せる其の頭部を見よ。

（二）中年時代のナポレオン ←
伊太利遠征より第一統領ごろ腦天より眉毛の間（天）と、目鼻の間（人）の著しき發達を見よ。

（三）皇帝時代のナポレオン←
腦天より眉毛の間（天）の發達は絶頂に達し、目鼻の間（人）は中年時代に比しやゝ劣り、口の部分（地）最も劣れるを見よ。

（四）ナポレオンのデス・マスクの横顔→
セントヘレナの幽囚生活に於ては、腦天より眉毛の間（天）最も萎縮し、目鼻の間（人）の比率も亦著しく減じ、口の部分（地）のみ著しく增加したるを見よ。

レオンのデス・マスクについて世界大戰當時留學中の和田嘉平治氏が作られたコピーに因つて實際の長さを測つて見ると實に次の如くである。

	顔面	天	人	地
	二五、二糎（一〇〇、〇%）	一〇、五糎（四一、八%）	六、二糎（二四、六%）	八、五糎（三三、六%）

である。これは一八二一年五月五日午後五時セント・ヘレナの孤島で彼が絶命した直後のデス・マスクに就いて測つた眞實の長さである。

人の顔貌はその境遇と健康狀態及びその他の事情によつて同一人でも變化するものである。

ナポレオンのこの（A、B、C）の顔の比例はよくその境遇と健康狀態とを物語るものである。今、更に之を併記して觀ると、

		顔面（全生涯の平均）	天	人	地
	（A）	一〇〇、〇%	四三、七%	三一、〇%	二五、三%
	（B）	一〇〇、〇%	四六、九%	二九、七%	二三、四%
	（C）	一〇〇、〇%（デス・マスク）	四一、八%	二四、六%	三三、六%

（皇帝時代）

である。之を解説すると（A）即ち一生を通じての平均率は彼の天分は最も豐にして、人間味は三分の一、見聞の力實に優秀、動物味は僅かに四分の一である。彼の腦力は一生を通じて實に偉大であつたことが分る。

（B）即ち彼の得意絶頂の皇帝時代には腦力實に絶大に達して居る。而して鼻、耳、目の部稍（A）に比して劣り、口の部分最も劣つてゐる。

（C）即ちセント・ヘレナの孤島に五年七ケ月の幽囚の生活を送り、腦力を發揮するに由なく、憂鬱悶々の生活に腦は萎縮して活動をやめ、天の比率は最も減じ、且つ見聞少く耳目の活動減じて人の比率も著しく減じてゐる。之に反して地の比率は著しく増加して只動物的に食ふことのみに發達してゐることを認める。彼のデス・マスクによつて數學的によくその憂愁悲憤の日を送り、すべてをあきらめて只生きることのみに樂しみ得たことを想像することが出來る。然しこの地の部があまりに大いのは、或は誰でも死ぬと顎が重味のために下垂して口が開き加減になるから、實際生きてゐた時よりは長くなつたかとも思はれる。

ナポレオンの額

額は腦の前頭葉のある所である。人間の最高能力即ち精神機能の發現地である。動物の下等より高等に進むに從つて額は發達し、人間に於て最も額が發達の極に達してゐる。

人に於ても額の發達せる人はその腦力の偉大なるを示し、人に尊敬せられ崇高の感を與へるものである。

額も亦上、中、下の三部に分つて觀察する。その上部は比較、推考、批判の腦力を示し、中部は再現の腦力即ち記憶、追想、想像等を示し、下部は知覺即ち見聞、觀察等の腦力を示すものとされてゐる。

ナポレオンの皇帝時代の額を觀るに、その全體に於て極めて偉大に發達してゐるが、殊にその下部の最も卓越してゐるのを認める。從つてその上眼窩緣が高く秀で、その眉毛は一直線をなして眼に近く、恰も庇の樣に飛び出し、眼球は深く落ち込み、恰も頭の中にあるが如く見える。而もその眼光は爛々として人を射る樣である。即ちナポレオンの腦は知覺的、直觀的で觀察の鋭利、見聞の機敏であつたことを想はしめる。

『凹眼に馬鹿なし』とは東洋流の觀相家の言ふ所、今日では俗間でも言はれてゐる位であるが、ナポレオンの凹み眼はその智力の深遠と慧眼の鋭敏とを示し、直覺的の天才的頭腦の發達を自ら物語るものである。

ナポレオンの額はその下部のみならず、中部も上部も亦能く秀でて、普通の西洋人に比して著

しく發達してゐることを認める。卽ち記憶、想像、比較推考、批判の能力の偉大を示してゐる。デス・マスクで測ると實に額の高さ一〇、五糎、廣さ一二、〇糎である。

ナポレオンの天才的特色は他の天才人の偏頗なると異りその能力の普遍的であることである。卽ち一に分析的能力に秀で、二に綜合的能力に優れ、三に實行的能力の非凡なることである。この三つの能力は、ナポレオンの額の卓絕なるに鑑みてよく首肯される所である。

彼の額は觀る人、逢ふ人毎に尊嚴の感を與へ、自ら崇敬の念を起さしめ、更に屈服せしむるの偉力を有してゐたものと想はれる。

ナポレオンの眼

眼は觀察の器官である。眼に映じたことは視神經によつて腦に傳達される。眼から腦に傳達される速度は眼と腦との距離に比例する。出目より凹眼の方が眼に映じたことは、より敏速に腦に達することは誰しも肯れることである。換言すれば凹み眼の人は直覺的の觀察力に鋭く、機敏怜悧の慧眼者である。

ナポレオンの眼は旣に述べた通りに西洋人としても特に著しい凹み眼である。如何に彼が慧眼で、直觀的で、觀察に機敏で、理會に敏速であつたかはその眼によつて能く察せられる。而もその

瞳が著しく大きい。凡そ瞳の大きい程利巧で、理會力が敏活である。凹み眼は多くは小さいものであるが、ナポレオンの眼は凹み眼で而も大きく、眼裂が廣い。眼は大きい程眼界が廣く遠く、瞳孔が大きい程視力が鋭く、希望も亦從つて遠大、抱負も亦偉大である。ナポレオンの眼は能く之を語つてゐる。

誰しも精神興奮し、智的活動に燃え、希望に輝く時は其の眼光が光る。ナポレオンの眼光は常に爛々として人を射るが如く、如何に希望に燃え、活動を欲し、常に興奮的に發揚して野心滿々、功名心に輝いてゐたか、その眼によつて能く認めることが出來る。

デス・マスクで眼頭から眼尻までの長さ卽ち眼裂の長さを測ると三、九糎ある。生きて眼を見張つたら四、〇糎以上になつたであらう。我々の眼は大きく見開いても漸く三、六糎位に過ぎない。

ナポレオンの鼻

科學的觀相學の大家オツペンハイムは『大なる鼻を有する人は遂行力に富むものである』といつた。而してその代表的實例として、ウエリントン公、ナポレオン、ネルソン、シーザーを擧げてゐる。

鼻が大きいといふのはその長さや、太つてゐることではない。その鼻骨の大きさ、鼻梁の長さを